平成２９年度

ふくい高校生県議会

福井県議会

平成２９年度ふくい高校生県議会の日程

開催日：平成２９年８月４日(金)

１０:２０～１０:４０
（第１委員会室）

議会運営委員会

○本日の日程
○本会議の進め方
○質問および議長役の順序の決定
【発言通告（発言要旨提出）順に「２部制」とする】
・（第１部）福井→羽水→藤島→福井商業→科学技術の順にくじ引き
・（第２部）勝山→若狭→鯖江→若狭東の順にくじ引き

１０:４５～１１:０５
（議　場）

リハーサル（議事堂見学を含む）

○議場でのリハーサル

１１:０５～１１:４５
（大会議室・中会議室）

昼　　食

・大会議室…藤島、鯖江、若狭、福井商業、福井
・中会議室…羽水、勝山、若狭東、科学技術

１１:４５～１４:３５
（議　場）

インターネット中継

本　会　議

○県議会議長　あいさつ
○第１部…福井、羽水、藤島、福井商業、科学技術
～休憩１０分～
○第２部…勝山、若狭、鯖江、若狭東
各部では、議会運営委員会で決定した順に
・議長役が進行
・各高校の議員役が質問
・県議会議員が答弁
※該当の部以外の高校は傍聴席で傍聴
○県議会副議長　総評
インターネット中継
http://info.pref.fukui.lg.jp/gikai/live/index.koukouseikengikai2.html

１４:４５～１５:４５
（第１～４委員会室）

委　員　会

○４委員会室に分かれて実施
・第１委員会室…藤島、勝山、若狭東
・第２委員会室…羽水、福井商業
・第３委員会室…鯖江、科学技術
・第４委員会室…若狭、福井

１５:５０～１６:００
（議　場）

写真撮影

参加高校生名簿

【藤島高校】

チーム「えだまめ」

氏　　名	学年	備 考
田原 諒人（たわら りょうと）	1	議 長 議運委員
遠矢 東稜（とおや とうりょう）	1	議運委員
長岡 大熙（ながおか だいき）	1	
廣嵜 誠也（ひろさき せいや）	1	
小林 弥優人（こばやし みゆと）	1	

【羽水高校】

チーム「ハマザクロん」

氏　　名	学年	備 考
田嶋 優樹（たじま ゆうき）	2	
宮田 大稀（みやた たいき）	2	議運委員
村上 研悟（むらかみ けんご）	2	議運委員
田茂 宏樹（たも こうき）	2	議 長

【勝山高校】

チーム「，（コンマ）」

氏　　名	学年	備 考
大下 明莉（おおした あかり）	2	議運委員
野瀬 美結（のせ みゆう）	2	議 長
古瀬 瑞季（こせ みずき）	2	議運委員

【鯖江高校】

チーム「えーじ shining」

氏　　名	学年	備 考
澤崎 和香（さわざき のどか）	2	
山本 陽奈乃（やまもと ひなの）	2	議 長
原 玲佳（はら れいか）	2	議運委員
森松 奈々美（もりまつ ななみ）	2	
向瀬 遥菜（むこせ はるな）	2	議運委員

【若狭高校】

チーム「ターヘル・アナトミアーズ」

氏　　名	学年	備 考
今川 奈津起（いまがわ なつき）	3	
岩崎 大朔（いわさき だいさく）	3	議運委員
梶川 颯太（かじかわ そうた）	3	議 長
清水 俊太（しみず しゅんた）	3	議運委員
玉井 輝（たまい ひかる）	3	

【若狭東高校】

チーム「彦姫」

氏　　名	学年	備 考
竹田 竜大（たけだ りゅうと）	3	議 長 議運委員
坊 凛太朗（ぼう りんたろう）	3	議運委員

【科学技術高校】

チーム「桜仙」

氏　　名	学年	備 考
髙島　宣希（たかしま　よしき）	3	議 長
宮田　大地（みやた　だいち）	3	議運委員
佐藤　海音（さとう　みお）	3	議運委員
千木良　唯（ちぎら　ゆい）	3	

【福井商業高校】

チーム「ジェスター」

氏　　名	学年	備 考
奥村　日奈多（おくむら　ひなた）	3	議運委員
柴山　佳奈（しばやま　かな）	3	
野路　菜々華（のじ　ななか）	3	
水上　優依（みずかみ　ゆい）	3	議 長
安嶋　未遥（やすしま　みはる）	3	議運委員

【福井高校】

チーム「ひまわり」

氏　　名	学年	備 考
松村　実来（まつむら　みくる）	3	議 長
池田　礼隆（いけだ　のりたか）	2	議運委員
片山　滉太（かたやま　こうた）	2	議運委員
津々見　日音（つつみ　かのん）	2	

※備考欄　　議長：本会議での議長役 、 議運委員：議会運営委員会委員

参加県議会議員名簿

日　　程	参加県議会議員
議会運営委員会	斉藤 新緑　（議会運営委員会委員長）
本　　会　　議	挨　　拶：議長　松田 泰典 答 弁 者：関　孝治　野田 富久　山岸 猛夫　田中 敏幸 斉藤 新緑　佐藤 正雄　田村 康夫　仲倉 典克 糀谷 好晃　鈴木 宏紀　西畑知佐代　島田 欽一 中井 玲子　細川かをり　小堀 友廣　辻　一憲 チーム担当：山本 正雄　松井 拓夫　大久保 衛　畑　孝幸 田中 宏典　力野　豊　西本 恵一　井ノ部航太 清水 智信 総　　評：副議長　大森 哲男
委　　員　　会	【参加高校：藤島・勝山・若狭東】 委 員 長：斉藤 新緑 答 弁 者：関　孝治　野田 富久　松井 拓夫　畑　孝幸 大森 哲男　島田 欽一　力野　豊
	【参加高校：羽水・福井商業】 委 員 長：田村 康夫 答 弁 者：佐藤 正雄　糀谷 好晃　鈴木 宏紀　細川かをり 西本 恵一　清水 智信
	【参加高校：鯖江・科学技術】 委 員 長：仲倉 典克 答 弁 者：山本 芳男　山岸 猛夫　大久保 衛　西畑知佐代 中井 玲子　井ノ部航太
※ □は、チーム担当議員	【参加高校：若狭・福井】 委 員 長：田中 宏典 答 弁 者：石川与三吉　山本 正雄　田中 敏幸　小堀 友廣 辻　一憲
写　真　撮　影	参加議員全員

平成29年度 ふくい高校生県議会　一般質問発言一覧

8月4日（金）

チーム名 （高 校 名）	説明を求める 者の職・氏名	発　言　要　旨	議長役
ジェスター （福井商業）	県議会 議　員	1　外国人観光客誘致策について 2　福井駅前のシャッター商店街について	桜　　仙 （科学技術） 髙島　宣希
ハマザクロん （羽　　水）	県議会 議　員	1　福井の町づくりについて 2　英検による入試優遇制度について	えだまめ （藤　　島） 田原　諒人
ひまわり （福　　井）	県議会 議　員	1　福井県の農業振興策について 2　福井県海外旅行者の増加策について	ジェスター （福井商業） 水上　優依
桜　　仙 （科学技術）	県議会 議　員	1　福井の幸福度日本一について 2　工業系高校について	ハマザクロん （羽　　水） 田茂　宏樹
えだまめ （藤　　島）	県議会 議　員	1　観光事業について 2　福井県の人口減少対策について	ひまわり （福　　井） 松村　実来
休　　憩（１０分）			
ターヘル・ アナトミアーズ （若　　狭）	県議会 議　員	1　福井国体後のスポーツ振興について 2　北陸新幹線における小浜駅の立ち位置について	彦　　姫 （若 狭 東） 竹田　竜大
，（コンマ） （勝　　山）	県議会 議　員	1　医療福祉の現状、今後の対策について 2　県民の健康づくりについて	えーじ shining （鯖　　江） 山本　陽奈乃
彦　　姫 （若 狭 東）	県議会 議　員	1　農業行政について	ターヘル・ アナトミアーズ （若　　狭） 梶川　颯太
えーじ shining （鯖　　江）	県議会 議　員	1　観光誘客の促進について 2　福井県の人口減少の問題について	，（コンマ） （勝　　山） 野瀬　美結

◇チーム担当議員◇

ふくい高校生県議会に向けて、各チームを担当する県議会議員が高校を訪問し、質問の作成、当日の議長進行や質問の際の心構えに関してアドバイスをしたほか、地域や学校の話題、県議会や県議会議員の活動などについて意見交換を行いました。また、当日の本会議ではチームに同席しました。

藤島高校 ☆ チーム「えだまめ」

畑　孝幸 議員

羽水高校 ☆ チーム「ハマザクロん」

清水　智信 議員

勝山高校 ☆ チーム「，（コンマ）」

松井　拓夫 議員

鯖江高校 ☆ チーム「えーじshining」

大久保 衛 議員

若狭高校　☆　チーム「ターヘル・アナトミアーズ」

田中　宏典　議員

若狭東高校　☆　チーム「彦姫」

力野　　豊　議員

科学技術高校　☆　チーム「桜仙」

井ノ部　航太　議員

福井商業高校　☆　チーム「ジェスター」

西本　恵一　議員

福井高校　☆　チーム「ひまわり」

山本　正雄　議員

◆議会運営委員会◆

各高校を一つの会派と見なし、それぞれの高校から代表者１～２名ずつが委員として、そのほかの高校生は委員外議員として出席し、議会運営委員会を開催しました。

実際の議会運営委員会と同様、斉藤委員長の進行のもと、当日の日程や本会議の運営について事務局から説明したあと、くじ引きにより一般質問の発言順序および議長役の順序を決定しました。

最後に委員長から、高校生に対し、「本日の本会議、委員会の中で、皆さんの問題意識を議員にぶつけていただき、そうした体験を通して、選挙権を有する者として、議員を選ぶという視点も養っていただきたい」との話がありました。

◆リハーサル・議事堂見学◆

事務局から議場内の説明を行った後、模擬本会議のリハーサルを行いました。
リハーサルでは、第１部から第２部への入れ替えの要領、議長役や質問者の登壇の仕方、質問時の留意点、再質問する場合の手順などを説明するとともに、高校生に実際に行ってもらいながら、本番に備えました。

◆本　会　議◆

「ふくい高校生県議会」の本会議の議事録を掲載します。

平成29年８月４日（金曜日）

議　事　日　程

８月４日（金）

午後11時45分開議

福井県議会議長挨拶

第１　議席の指定について

第２　会期決定について

第３　県政全般にわたる質問（一般質問）

〔２部制〕

福井県議会副議長総評

本日の会議に付した事件

日程第１　議席の指定について

日程第２　会期決定について

日程第３　県政全般にわたる質問（一般質問）

〔２部制〕

午前11時47分　開　議

会議に出席した高校生議員（22名）

藤島高校

チーム「えだまめ」

田　原　諒　人

遠　矢　東　稜

長　岡　大　熙

廣　嵜　誠　也

小　林　弥優人

科学技術高校

チーム「桜仙」

髙　島　宣　希

宮　田　大　地

佐　藤　海　音

千木良　唯

福井高校

チーム「ひまわり」

松　村　実　来

池　田　礼　隆

羽水高校

チーム「ハマザクロん」

田　嶋　優　樹

宮　田　大　稀

村　上　研　悟

田　茂　宏　樹

福井商業高校

チーム「ジェスター」

奥　村　日奈多

柴　山　佳　奈

野　路　菜々華

水　上　優　依

安　嶋　未　遥

片　山　滉　太
津々見　日　音

チームを担当するために出席した県議会議員（５名）

藤島高校
チーム「えだまめ」担当
畑　　孝　幸

羽水高校
チーム「ハマザクロん」担当
清　水　智　信

科学技術高校
チーム「桜仙」担当
井ノ部　航　太

福井商業高校
チーム「ジェスター」担当
西　本　恵　一

福井高校
チーム「ひまわり」担当
山　本　正　雄

説明のために出席した県議会議員（18名）

関　　孝　治
山　岸　猛　夫
斉　藤　新　緑
佐　藤　正　雄
仲　倉　典　克
大　森　哲　男
西　畑　知佐代
中　井　玲　子
小　堀　友　廣
野　田　富　久
田　中　敏　幸
松　田　泰　典
田　村　康　夫
糀　谷　好　晃
鈴　木　宏　紀
島　田　欽　一
細　川　かをり
辻　　一　憲

○事務局長（小寺啓一君）　ただいまから、ふくい高校生県議会、本会議を開催いたします。

まず初めに、松田福井県議会議長より御挨拶を申し上げます。

○福井県議会議長（松田泰典君）　皆さん、こんにちは。

福井県議会議長の松田です。

本日、平成29年度のふくい高校生県議会を開催するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。

高校生議員の皆様には、夏休み中の補習授業や部活動などでお忙しいところ御参加いただき、まことにありがとうございます。今年度は37名もの皆様に名乗りを上げていただいたことに、心からうれしく思っております。また、各校の先生方を初め関係者の皆様方には、開催に当たり格別の御理解、御協力をいただきましたことに対し感謝を申し上げます。

さて、昨年７月に行われました参議院議員選挙以降、選挙権年齢が満20歳以上から満18歳以上に引き下げられました。この制度改正の狙いは、選挙を通じて我が国の将来を担う若者に政治に対

してもっと意見を出してもらいたい、若者の声を政治に生かしたいというところにございます。

その背景には、若い世代ほど投票率が低くなる現状がありますが、若い人が政治に関心を持たない一つの要因としては、政治のことはよくわからないとか、自分一人の力では政治に影響を与えることはできないとの意識があるのではないでしょうか。

しかし、例えば大学進学等を機に福井県外へ多くの方々が転出してしまう課題などに対し、今後当事者となる皆様の世代の方々にこそ、自分のこととして感じ、積極的に意見を言っていただき、みずから行動をしていただくことが、住みやすく、勉強やスポーツもしやすく、将来的には結婚や子育て、仕事もしやすいという、さらに魅力ある福井県とする大きな力となると考えております。

このようなことから、本日のふくい高校生県議会では、高校生の皆さんに、政治への関心を高め、県政や県議会に対する理解を深めていただくため、議決機関である議会と執行機関である知事との間で県政についてどのように議論され決定されていくのか、その過程において選挙で選ばれた議員や知事がどのような役割を担っているのかについて、その一部を体験していただこうと考えております。

また、今年度は、新たに議会の重要な審査機関である委員会も開催いたします。委員会における自由な議論は、本会議とはまた違った雰囲気があると思いますが、日ごろの素朴な疑問などを率直に質問としてぶつけていただきたいと思います。

なお、実際の県議会での答弁は知事を初め執行機関が行うわけですが、本日は議員が答弁者役を行います。このため、県議会全体として取りまとめたものではなく、答弁役の議員個人の意見としてお答えさせていただきますので、御了承願います。

本日の体験が皆さんにとって夏休みのよい思い出となり、これからの学生生活や人生の糧になることをお祈り申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

―――◆　◆●◆●◆　◆―――

○事務局長（小寺啓一君）　それでは、最初の議長を科学技術高校、チーム「桜仙」の髙島議員に務めていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、髙島議長、議長席にお着きください。

○議長（髙島宣希君）　科学技術高校、チーム「桜仙」の髙島です。よろしくお願いします。

―――◆　◆●◆●◆　◆―――

○議長（髙島宣希君）　平成29年度ふくい高校生県議会は、ここに成立いたしましたので、これより開会し、直ちに本日の会議を開きます。

―――――――――――――

○議長（髙島宣希君）　まず、書記から諸般の報告をさせます。

〔書　記　報　告〕

欠　席　届

坊　　凜太朗　議員　所用のため

―――◆　◆●◆●◆　◆―――

○議長（髙島宣希君）　本日の議事日程は、お手元に配付いたしましたとおりと定め、直ちに議事に入ります。

―――◆　◆●◆●◆　◆―――

第１　議席の指定について

○議長（髙島宣希君）　まず、日程第１の議席の指定を行います。

議席は、お手元に配付いたしました本会議場配置図、第１部、第２部のとおりに指定いたしますので、御了承願います。

第２　会期の決定について

○議長（髙島宣希君）　次に、日程第２　会期決定についてを議題といたします。

ふくい高校生県議会の会期を本日１日と定めたいと存じますが、これに御異議はありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（髙島宣希君）　御異議なしと認めます。

よって、そのように決定いたしました。

第３　県政全般にわたる質問

○議長（髙島宣希君）　次に、日程第３を議題といたします。

これより、県政全般にわたる質問、第１部に入ります。よって、発言は、お手元に配付いたしました発言順序のとおりに願います。

チーム「ジェスター」、奥村君、柴山君、野路君、水上君、安嶋君。

〔安嶋未遥君登壇〕

○議員（安嶋未遥君）　福井商業高校、チーム「ジェスター」の安嶋です。

まず、外国人観光客誘致策についてお伺いします。

福井県は、訪日外国人を県内に呼び込むため、日本航空と提携し、広域誘客課を 2015 年に新設しましたが、福井県の 2016 年の外国人観光客の都道府県別延べ宿泊者数は年間５万 4,360 人で、全国 47 位でした。

そこで、私たちは、福井県を訪れる外国人観光客増加対策として、ＳＮＳの総合的活用を提案します。外国でもパンフレットよりインターネットの使用が主流になっていますが、現在、ＳＮＳ上に福井県の観光関連で外国人向けの公式アカウントは余りありませんし、ハッシュタグを検索しても福井県のＰＲ情報にはなかなかヒットしません。

そこで、ＳＮＳを使い、ハッシュタグを多言語で設定し、さまざまな国の人が検索した際にヒットするようにすれば、福井県を世界に広めるきっかけになると思います。また、福井県のＳＮＳの公式アカウント名は検索されにくいものです。そこで、例えば「japan_fukui」のような外国人が検索しやすそうなものにすると、アカウントのフォロワーがふえ、検索にヒットしやすくなるのではないかと考えます。

〔柴山佳奈君登壇〕

○議員（柴山佳奈君）　柴山です。

また、観光庁の調査によると、外国人が日本旅行中に困ったこととしては、無料公衆無線ＬＡＮ環境がないと答えた人の割合が高いことがわかりました。さらに、福井県の観光地は最寄り駅から

遠く、本来であればレンタカーを使用したいところですが、中国など外国人観光客の主要国の人たちは国際免許証が必要になり、簡単にはレンタカーの利用ができません。現在、福井県の観光地の中でシャトルバスがあるのは朝倉氏遺跡だけです。

そこで、観光地の最寄り駅から発車し、Ｗｉ―Ｆｉが設備されているシャトルバスをほかの観光地にも提案します。これにより移動中でもネットを使って観光情報を調べることが可能になります。このように福井県を訪問された外国人に快適な旅を提供することで、リピーターの獲得につながるのではないかと思います。

こうしたことも踏まえ、福井県は外国人観光客増加のためにどのような政策を実施しているのか、お聞かせください。

〔奥村日奈多君登壇〕

○議員（奥村日奈多君）　奥村です。

次に、私たちは、福井駅前のシャッター商店街についてお聞きします。

平成34年度末には北陸新幹線が敦賀まで開業し、福井駅は、福井県の玄関口として国内外より多くの人が集まることが予想されます。そのため、駅前広場の整備のみならず、福井駅周辺の商店街活性化は非常に重要なポイントです。

ところが、第２期福井市中心市街地活性化基本計画の資料によると、平成３年から16年間で商店数が44.4％減少しました。そうした状況の中で、2015年３月には、一般社団法人「美のまち」が運営する「美のまちプロジェクト」が始動しました。これは商店街の空き店舗を活用し、女性をターゲットにした美容関連の店舗をオープンさせるというものです。また最近では、「駅前ＶＳエルパ」というプロジェクトが若者の注目を集めました。こうしたこともあってか、中央１丁目の空き店舗数は減少し、平成29年２月の空き店舗率は12.8％で、５年前と比較して6.7％減少しています。

〔野路菜々華君登壇〕

○議員（野路菜々華君）　野路です。

しかし、私たちは、商店街の長期的な活性化を図るには、これらのプロジェクトに加え、高齢者対象の計画も必要ではないかと考えます。「福井県の人口の動向と将来見通し」の資料によると、平成22年からの30年間で、生産年齢人口は16.4万人減少するのに対し、老年人口は3.5万人増加すると推計され、高齢化の影響は深刻です。

そこで、私たちは、駅前商店街に、高齢の経営者による高齢の消費者のための商店もつくることを提案させていただきます。例えば、県が、高齢者が起業しやすいように空き店舗を安価で賃貸し、運営を支援する制度をつくります。そして、退職後の60から70歳代を経営者とする店を商店街に展開することで、高齢の消費者のニーズに応えやすくなり、一方、経営者はセカンドライフに生きがいを持てます。

そこで質問をさせていただきます。

現在、福井市では、福井市中心市街地活性化基本計画で福井駅西口中央地区都市機能集約事業などを進めていますが、今後、魅力ある新しい商店街をつくっていくために、県としてはどのような方針で長期的な政策をお考えかお伺いします。

以上、福井商業高校の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（髙島宣希君）　県議会議員、鈴木君。

〔鈴木宏紀君登壇〕

○県議会議員（鈴木宏紀君）　福井商業高校、チーム「ジェスター」の安嶋、柴山、両議員の御質問にお答えいたします。

本県の外国人観光客誘致、いわゆるインバウンド対策につきましては、平成27年３月に福井県観光新戦略を策定して、各国のニーズに合った誘致活動の強化や外国人受け入れ環境の整備を行っているところであり、本県文化の特色であります「ＺＥＮ」ブランドを前面に打ち出しての観光営業や誘客プロモーションを展開しております。

御提言のありましたＳＮＳの利活用につきましては、現在、外国人の専任の職員が「Ｅｘｐｅｒｉｅｎｃｅ_ｆｕｋｕｉ」というサイトをフェイスブック、ユーチューブ、インスタグラムの各ＳＮＳにて運営し、情報発信を行っております。しかしながら、この「Ｅｘｐｅｒｉｅｎｃｅ_ｆｕｋｕｉ」にて発信されている情報が決して充実しているとは言えない状況にありますので、県内の留学生の皆さんにお願いして情報の量、質の向上を図っているところでもあります。

御指摘のハッシュタグの多言語化につきましては、間口を広げるという観点からは大変有効であると考えますけれども、多言語化の後、検索にヒットし、仮にリンクしていただいたとしても、そのページに表記された言語が限定的であっては効果が極めて薄いと思います。まずは、限られた予算の中、コンテンツそのものもそれぞれの国の外国人旅行者の好みに合うよう「インスタ映え」する情報の充実に努めている、現在の県の施策を注意深く見守っていきたいと考えております。

また、インバウンド対策にはＷｉ―Ｆｉ環境の整備も必要不可欠であると考えております。福井県においても、公共施設はもとより民間観光施設のＷｉ―Ｆｉ環境の整備に支援を行っているところでありますけれども、電車やバスなどのいわゆる移動体における整備につきましては、固定環境よりも事業者の負担が大きくなりますので、現在のところ支援に対する要望は出ていない状況にあります。

いずれにいたしましても、インバウンド対策においてインターネットの利活用は極めて重要なテーマでありますので、今後、議会での議論を活発化したいと考えております。

○議長（髙島宣希君）　県議会議員、佐藤君。

〔佐藤正雄君登壇〕

○県議会議員（佐藤正雄君）　県議会議員の佐藤正雄です。

福井商業高校、チーム「ジェスター」の奥村議員、野路議員から、福井駅前商店街について御質問をいただきました。

御提案の60代から70代の経営者によるシニア世代が消費できる空き店舗活用という提案は、すばらしいアイデアだと思いました。寅さんが聞いたら大喜びするでしょう。

寅さんというのは、かつては、お盆の時期やお正月の時期になると、「男はつらいよ」という映画が封切られていましたが、その主人公であります。主演は渥美清さん。48作もつくられて、主人公の寅さんが国民的通称となっていました。福井県にも吉永小百合さんとともに訪れ、映画となりました。残念ながら皆さんが生まれる前に、寅さんこと渥美清さんは、21年前のちょうどきょう、８月４日に亡くなられました。

実は、この映画の舞台は全国ですが、固定された舞台としては葛飾柴又の商店街。寅さんの帰る場所は、その商店街のおだんご屋さんであり、そこで、おいちゃん、おばちゃんがおだんご屋さんで働いているという設定でした。もちろんシャッターのおりたお店は映画には出てまいりません。

しかし、その後の日本でも福井県でも、地方の商店街の衰退がとまらなくなります。小売業事業所で見ますと、福井県全体でも2004年の1万355から2012年は6,771と、大幅に急激に減りました。福井市では3,531から2,427へと3割以上の減少です。先ほどの質問では別の統計で4割以上という数字を出されていました。

なぜ地域の商店街そのものがなくなっていき、まちが廃れていったのでしょうか。理由は一つではないでしょう。しかし、結果には原因があります。

例えば、福井市などでは郊外に大型店がどんどんできて、地元の商店ではなく、品ぞろえも豊富で車で行ける大型店に魅力を感じた多くの人たちが商店街から流出したこともあると思います。人口規模にふさわしくない大型店の出店などを野放図に認めていけば、地元地域の商店街が衰退することは因果関係としては明瞭です。

そこで、皆さんが提案された退職した方々が空き店舗や空き家などを活用して、それぞれの地域のニーズに合ったお店や場を提供するというモデルは、今後ますます大事になるのではないかと考えます。つまり、広い範囲でたくさんのお客さんを集める、高い収益を上げる、そういうことだけを目指すのではなく、人もお金も地域で循環し、地域の生活を支えるというお店のモデルです。

福井駅周辺でもどの地域でも、これからは御指摘のように高齢者が急激にふえます。車に乗れない。息子や娘は県外。離れたスーパーへの買い物もままならない。こういう高齢者だけの世帯がこれから激増いたします。

このような近未来にあって、お茶を楽しみ、おしゃべりする場であったり、簡単なお総菜などを販売するお店であったり、血圧測定や健康体操などができる場であったり、それらの提供は重要になると思われます。福井県庁も議会答弁などで、中心市街地の活性化対策として市町が主体となって行う魅力的なお店の改修、町なかににぎわいを取り戻すイベントなどを支援することを明確にしております。

「ジェスター」の皆さんの提案を歓迎し、皆さんが将来のそれぞれの進路の中で、ぜひ福井のまちづくりに参画していただけるよう希望して、答弁といたします。

ありがとうございました。

○議長（髙島宣希君）　ここで、藤島高校、チーム「えだまめ」の田原君に議長を交代します。

ありがとうございました。

○議長（田原諒人君）　藤島高校、チーム「えだまめ」の田原です。よろしくお願いします。

チーム「ハマザクロん」、田嶋君、宮田大稀君、村上君、田茂君。

〔村上研悟君登壇〕

○議員（村上研悟君）　羽水高校、チーム「ハマザクロん」の村上です。

まず、福井市のまちづくりについて、

特に、駅前の開発についてと駅前と市内をつなぐ交通網についてお聞かせください。

私たちの考えでは、福井駅前は交通の面では利便性が向上したものの、商業の面に関して余り魅力がないように思われます。ハピリンに入っている施設は、福井県の伝統工芸や産業などの製品の販売に重きを置いており、若者が利用する店が少ないです。地元の伝統工芸品などを発信していくことはもちろん大切ですが、福井に住む若者が集まる場所にして、駅前を元気にすることも重要です。よって、金沢駅前にあるフォーラスのような大型商業施設を福井駅前につくるべきなのではないかと考えます。

また、ハピテラスは現在利用料が高く、それゆえに大人や親子連れ向けのイベントが多く、中高生向けのイベントがほとんどありません。未成年が入場できないようなイベントもありました。中高生が学校帰りに行きたいと思うようなイベント、施設をふやし、ハピテラスに関しては平日の中高生の利用料を無料にするといいと思います。結果的に中高生を含め子供から大人までが駅前に集まり、経済的な効果も期待できます。

〔宮田大稀君登壇〕

○議員（宮田大稀君）　宮田です。

また、市内へ買い物に行く人がスムーズに移動ができるように、えちぜん鉄道、福井鉄道を活用してみてはどうでしょうか。特に福井鉄道は市内中心部を走っていて、市役所前停留所以外の駅は整備が進んでいますが、まだ電車の本数が少ないです。えちぜん鉄道との乗り入れを重視し過ぎたせいか、駅前方面へ乗り入れる電車は１時間に約２本と少な過ぎるのではないでしょうか。確かに本数をふやすのは難しいかもしれませんが、より多くの人、特に若い人が利用したくなる仕掛けをつくることで可能性が生まれてくると思います。

例えば、ＩＣカードの導入や運賃の割引、周辺の商店街と協賛して割引券を出すなどの工夫ができると思います。土日祝日に田原町から福井駅、赤十字前を運行する市内電車を設定するだけでも、利便性が大きく上がってくるのではないかと考えます。

以上、福井のまちづくりのために駅前開発をどのようにしていくかについてと、市内の施設と駅前をつなぐ電車のダイヤをこれからどうしていくかについて、お聞かせください。

〔田嶋優樹君登壇〕

○議員（田嶋優樹君）　田嶋です。

次に、英検による入試優遇制度についてお伺いします。

この制度は、自分が所持している級によって高校入試に加点するというもので、英語の学力検査において３級取得者に５点、準２級に 10 点、２級に 15 点を加算し、115 点満点となります。私たちは、この制度に反対です。

現在、高校入試を控える子供を持つ保護者の中には、学校で習わない部分で差がつくことに不安を感じる人もいるかもしれません。また、塾などで英検対策をすることが考えられ、余裕のある家庭の生徒が有利になるのではないかと思われます。また、得意教科によっても有利、不利が分かれます。英語が得意な人だけがより入試に合格しやすく、英語が苦手な人が入試に落ちやすくなってしまうのは不公平に感じます。

５点は小さくも思えますが、この５点が合否に大きくかかわってくることもあります。落ちてしまった人の中から、なぜ英検だけ特別扱いされる

のか、なぜ漢検や数検などは優遇されないのかという意見が出てくる可能性がないとは言えません。

〔田茂宏樹君登壇〕

○議員（田茂宏樹君）　田茂です。

現在、日本でも英語はかなり重要視されているので、英語の専門学校や学部などに特徴のある大学ならば、この制度を利用する効果は高いと思います。しかし、公立高校がこの制度を利用する必要はないと思います。

教育委員会は、この制度を使って生徒の英語能力を伸ばしたいと考えているようですが、高校入試に向けて本来は５教科をバランスよく学習しなければならないのに、より多くの生徒が英検に合格しなければと思い、ほかの教科の学習がおろそかになるかもしれません。

また、英検を受検するには受検料がかかり、家庭の経済への負担もふえます。県は受検料を補助していますが、１度で合格する保証はなく、２度、３度と受検する場合は経済負担が大きくなります。また、１次試験で合格して２次試験で落ちた場合、再度２次試験から受検する場合にも再び受検料を払わねばならず、この場合の負担も大きいと思います。

先日、ことしの中学３年生が受験する県立高校の点数加点制度について廃案を希望する内容の意見書が提出されましたが、議会としてこれからの方向性はどのようなものなのか、所見をお聞かせください。

以上で羽水高校、「ハマザクロん」の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（田原諒人君）　県議会議員、中井君。

〔中井玲子君登壇〕

○県議会議員（中井玲子君）　中井と申します。

羽水高校、チーム「ハマザクロん」、村上議員、宮田議員の御質問にお答えいたします。

福井駅前は、福井県の玄関口として訪れた方々に福井らしさを発信することを考えますと、福井県の伝統工芸や産業などの製品の紹介、販売も重要であり、あわせて、御意見にありますように若者の集う場としてもその魅力づくりは非常に重要であると考えます。

では、そういった場所をつくるにはどうしたらよいのか。確かに御提案の大型商業施設をつくることも一案でしょう。しかし、もし多額のお金をかけて大型の商業ビルを建てたとして、今、金沢に買い物に行っている方たちの足が福井の駅前に向くでしょうか。それは、入っているお店の数だったり、入っているブランドであったりと、それぞれのお客さんにとって価値のあるビルかどうかだと思います。

また、福井県の文化を感じに他県から訪れた観光客の方々にとってはどうでしょうか。目線を変えて、そのビルに入るテナントの人はどうでしょうか。ビルに入れば毎月必要となる場所代や人件費を大きく上回る売り上げとなるほどのお客さんの数が見込めなければ、入る決断はできません。テナントに対する県からの補助金を考えても、県の予算は皆さんの税金等で成り立っていますので、限られたお金の使い道や金額はよく考えなければなりません。

つまり、つくろうとしているそのビルが、あらゆる人たちにとって価値のある魅力的なものかどうかという視点が非常に重要であります。

福井駅及び駅周辺のまちづくりについては、県が昨年３月に策定しました「福井県高速交通開通アクション・プログラム」に基づいて、県や福井市、また地元と一体となって県都のにぎわいづくりを推進していきますので、いただいた御意見を今後の議論の参考としていきます。

また、昨年春、えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れや福井鉄道の駅前延伸、バスターミナルの開業が実現し、公共交通機関の利便性が格段に向上しました。相互乗り入れから１年が経過し、区間内の年間利用者が約 13 万人と、前年度に比べて 2.7 倍、約８万人の増加となり、また全区間の利用者もえちぜん鉄道で 2.9%の増加、福井鉄道で 2.1%の増加と好調に推移していますが、新幹線開業に向けては、福井駅と周辺の拠点を結ぶ新幹線との乗り継ぎ利便性の高い地域公共交通網をつくっていく必要があります。

県民の皆さんにとっても、さらに利用しやすい公共交通機関となるよう、今後の県の施策などを注視していきます。

○**議長**（田原諒人君）　県議会議員、斉藤君。

〔斉藤新緑君登壇〕

○**県議会議員**（斉藤新緑君）　羽水高校、チーム「ハマザクロん」、田嶋議員、田茂議員から公立学校の入試制度についての御意見を頂戴いたしました。

今、お手元に県議会の意見書というものが配付されていると思いますが、実は、今ほどお２人から指摘していただいた入試制度の問題点については、私ども全く同様の視点でしっかりと幅広く議論をさせていただきまして、全く同じ思いでございます。逆に、文字どおり議会というのは、皆さんのそうした声を、県民の意思を反映する機関でありますし、最終の意思決定機関でありますので、私たちがマルと言うかバツと言うかによって、県民全体がマルか県民全体がバツかという、そういう重い責任もございます。そういった面で、皆さんから、改めてきょうお２人から、この制度についての問題点を指摘いただきまして、そうした皆さんの意見を私ども議会として反映できたことは、非常によかったと思っております。

これについても県内で幅広く意見聴取をさせていただきました。ただし、議会には全てが議案としてかかってくるわけではありません。予算を伴うもの、それから法律を変えるものは議会に議案として上がりますが、実はこの入試制度は議会に議案としては上がってきません。したがって、昨年の 10 月に教育委員会から各学校を通じて来年度の入試制度が発表されたわけでありますが、その後、皆さんの中から、父兄の皆さんとか、あるいは学校の先生とかから、この入試制度はおかしいのではないかという声が徐々に広がってきまして、そしてせんだっての議会において、10 月の発表からもう半年余りたったわけですけれども、いまだに非常に根強い大きな問題意識があるということで、議案ではありませんので、議会としてあえて意見書を出して見直しを求めたところであります。

そうしたところ、７月 21 日の９時 10 分ぐらいから、羽鳥慎一さんの「モーニングショー」で、尾木ママや長嶋一茂さんや吉永みち子さんもこの問題を取り上げて、先ほど指摘があったように、これは非常におかしいと、公立高校の公教育としてはいかがなものかという全く同様の指摘がされていたわけであります。

今後、グローバル化の時代で英語が大事ということになっておりますけれども、今、ＳＮＳの普及などで、日本語が読み書き、話すことも含めて、逆に非常に危機的になっている。日本語が崩れ

ると日本人が壊れ、日本人が壊れれば国が壊れるというような危険性も非常にあります。そういった面では、英語も大事でありますが、国語も大事でありますし、数学もみんなバランスよく大事であります。

私たちの時代は、英検の３級というのはＥＳＳクラブに入っているような人たちが取ったものでありまして、別に殊さら受験にそれを結びつける必要はない。柔道で黒帯を持つこととか、そろばんで３級を持つこととかも、同様のレベルで考えていただいて、特に義務教育課程は根を張る幅広い人間を形成する。ひょろひょろ上がると少しの風でも倒れてしまう。だから、そういった教育を目指して、福井県を背負ってくれる人づくりを学校、公教育はやるべきだというのが私どもの思いでございます。

皆さんの御意見もまたどんどんお聞かせください。

きょうは、すばらしい質問をありがとうございました。

○議長（田原諒人君）　ここで、福井商業高校、チーム「ジェスター」の水上君に議長を交代します。

ありがとうございました。

○議長（水上優依君）　チーム「ジェスター」の水上です。よろしくお願いします。

チーム「ひまわり」、松村君、池田君、片山君、津々見君。

〔池田礼隆君登壇〕

○議員（池田礼隆君）　福井工業大学附属福井高等学校、チーム「ひまわり」の池田です。

私は、福井県の農業振興策についてお尋ねします。

2018 年から本格的に生産、そして販売を予定している福井県の新ブランド米である「ポストこしひかり」の名称が、本年の４月 19 日に「いちほまれ」と決定しました。この「いちほまれ」は、県農業試験場が６年間をかけて開発した米の新品種ということであります。報道によると、その特徴は絹のような白さと艶、口に広がる優しい甘さ、粒感と粘りの最高の調和を醸し出すと喧伝されており、我々も早く食べてみたいと今から心待ちにしている次第です。

ところで、皆様も御存じのとおり、米の品種に関して福井県は苦い経験があります。それはコシヒカリに関することです。コシヒカリは県の農業試験場で開発された品種ではありますが、残念ながら全国的に発祥の地である福井県の知名度は低いままです。

〔片山滉太君登壇〕

○議員（片山滉太君）　片山です。

米づくりの全国品種別作付面積で、コシヒカリは断トツの１位で 36%にもなります。２位のひとめぼれの 9.7%を圧倒しているのです。つまり、米生産の３分の１強の品種はコシヒカリなのです。いかにコシヒカリが日本人に親しまれているかがわかります。

ところが、私が調べた資料では、主な産地を紹介しているところで新潟県、茨城県、富山県と記されており、福井県は出ていませんでした。さらに、価格面から見ると、新潟産コシヒカリが一番高くて、福井県産のコシヒカリの価格はその 70%にすぎません。味は両方とも同じ評価です。食味評価は同じでも、新潟県産はおろか京都府産や兵庫県産のものと比べても安いのが現状です。このことだけでも悔しくて仕方ありません。

ここで質問です。

開発された「いちほまれ」が全国の消費者に選ばれるためにはどうしたらよいのか、その戦略をお聞かせいただきたい。それがひいては福井県の農家の活性化につながるのではないかと思います。福井県の農業の将来も含めてお聞きしたいと思います。

〔津々見日音君登壇〕

○議員（津々見日音君）　津々見です。

私は、福井県への海外旅行者の増加策についてお聞きします。

ここ数年、爆買いに代表される訪日中国人のニュースを初め外国人観光客の話題が多く、私たちも大いに関心が寄せられます。

さて、2016年に日本を訪れた外国人観光客は2,403万9,700人であり、前年比21.8%増と1964年以降で過去最多を記録しました。政府は、2020年の東京オリンピック開催の年には訪日客4,000万人、消費額８兆円を目標にしています。

さて、その宿泊者数を見てみると、2016年は全国で延べ6,938万9,000人余りでありました。単純計算ですが、１人につき３泊程度していることになります。このうち福井県で宿泊した外国人は延べ数で約５万5,000人と全体の0.08%にすぎません。都道府県別では一番少ない数字であり、この統計をたまたま見たときに、驚きとともに残念でありました。ちなみに、お隣の石川県は福井県の約10倍である62万人余りです。

〔松村実来君登壇〕

○議員（松村実来君）　松村です。

そこで、韓国、中国、台湾の近隣の外国人が訪日前に期待していることを調べてみました。３カ国ともに食事、自然景勝地観光、ショッピング、温泉入浴が上位に入っています。福井県の食事は海の幸、山の幸が豊富で、お酒もおいしいと聞いています。宿泊地も関西の奥座敷と言われるあわら温泉があります。また、福井県には恐竜博物館、永平寺、東尋坊など、外国人にも魅力ある観光地が多くあると思います。このように海外の観光客に対して環境は整っているのではないでしょうか。

ここで提案があります。

福井県単独で観光客を増加する策を打ち出すのではなく、他県とタイアップしてＰＲを強力に推し進めてはいかがでしょうか。お隣の石川県ならば小松空港の利用も考えられます。また、岐阜県や滋賀県、京都府など隣接している県との共同作業は考えられませんか。

今後、外国人観光客を増加する策について、福井県は政府の目標の年までにどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

以上で、福井工業大学附属福井高等学校の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（水上優依君）　県議会議員、西畑君。

〔西畑知佐代君登壇〕

○県議会議員（西畑知佐代君）　福井高校、チーム「ひまわり」の池田、片山、両議員の御質問にお答えいたします。

まず最初に、「いちほまれ」が全国の消費者に選ばれるにはどうしたらいいか、その戦略はどうか

という御質問についてお答えしたいと思います。

県では、マスメディアやインターネット、料理雑誌等を活用し、まずは情報発信力が強い首都圏を中心にＰＲし、認知度を高めていくこととしています。それから、国体・障スポには全国から多くの選手、関係者の来訪が見込まれることから、「いちほまれ」のおいしさを全国に発信する絶好の機会と捉えて、関係者が宿泊する施設、それから開会式、閉会式の弁当での使用を考えているそうです。

でも私は、コマーシャルなどで今一番人気があるアイドルたちや福井県出身の人たちに、「米は福井のいちほまれが一番」と毎日のように言ってもらうことが一番いいのではないかなと思っております。

次に、福井県の農業の将来についての質問です。

昔は食事といえば米が主流でした。梅干しや漬物をおかずに、御飯を２杯、３杯と食べるのが当たり前の時代でした。今、皆さんの家の食事はどんなふうですか。まず生野菜、サラダですね。それからパンとスープ、スパゲッティやピザなど、御飯を食べることが少なくなってきているのではないでしょうか。

そこで、米をつくっている田んぼで野菜をつくる。でも全部を野菜にするのではなく、今まで米をつくっていた田んぼの３割を畑にする。なぜ３割かというと、米より野菜をつくるほうが人手がかかります。米は、植えたら水管理を上手にすれば放っておいても大きくなります、育っていきます。でも野菜づくりには手がかかるのです。それと連作ができないので、畑にも田んぼにもなるようにしておいたほうがいいと思っております。

さらに、ドローンを使ったり、農業ＩＣＴを活用したりする。無人の機械を操作する。生物学知見や科学の力を駆使して農業をする。近い将来、そのような時代になると思います。農業の将来は、まだまだ発展的だと思いますよ。

いずれにしても、「いちほまれ」のＰＲと農業の活性化は重要なテーマでありますので、今後、県の施策を注視しながら、議会でも議論していきたいと考えております。

○議長（水上優依君）　県議会議員、鈴木君。

〔鈴木宏紀君登壇〕

○県議会議員（鈴木宏紀君）　福井高校、チーム「ひまわり」の津々見、松村、両議員の御質問にお答えいたします。

外国人観光客を増加させる方策につきまして、福井県単独ではなくて、近隣の県と連携して、しっかりとＰＲを推し進めてはどうかという御指摘をいただきました。

現在、本県では、お隣の石川県と連携して、小松空港に乗り入れている航空会社とタイアップして誘客プロモーションを実施しておりますし、また広域観光コースを開発するなどしまして、主にアジアからの誘客拡大を図っております。

また、海外での知名度が低い県がそれぞればらばらに誘客プロモーションを実施していても外国人観光客の増加になかなかつながらないという問題意識を持っている、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、富山県、石川県、そして福井県の北陸中部９県の自治体や観光関係の団体などが広域連携をして外国人観光客の増加を図る、昇る龍の道と書きますが「昇龍道プロジェクト」を展開しております。このプロジェクトでは、アジア各国で開催される国際旅行博や物産展に共同で出展をしております。あるいは、団体向けの広域観光周遊の定番コースの開発や個人向けの多種多様な観光コースの開発などをして、北陸中部９県がしっかりと広域連携し、外国人観光客の増加を図る取り組みを実施しているところでもあります。

しかしながら、このような本県の広域的な取り組みにもかかわらず、観光庁が公表した平成 28 年の宿泊旅行統計調査によれば、都道府県別の外国人延べ宿泊者数は、チーム「ひまわり」御指摘のとおり、本県は 47 都道府県中、残念ながら 47 位の最下位でありました。

このように、今のところ県境を越えた広域連携事業の効果が十分に得られていない状況にありますので、今後は、現在の県の施策をしっかりと注視していくとともに、限られた予算の中でいかにして効果的な広域連携事業をやっていくかなどについて、議会での議論を活発化したいと考えております。

○議長（水上優依君）　ここで、羽水高校、チーム「ハマザクロん」の田茂君に議長を交代します。

ありがとうございました。

○議長（田茂宏樹君）　羽水高校、チーム「ハマザクロん」の田茂です。よろしくお願いします。

チーム「桜仙」、髙島君、宮田大地君、佐藤君、千木良君。

〔佐藤海音君登壇〕

○議員（佐藤海音君）　科学技術高校、チーム「桜仙」の佐藤です。

まず、福井県の幸福度日本一についてお伺いします。

福井県が幸福度日本一であると盛んにＰＲしており、マスコミでも取り上げられていますが、これについては疑問を感じています。幸福度日本一を実感している県民はどれくらいいるでしょうか。私たち高校生にとって、そのことを余り感じることはできません。

その理由として、まず、町なかに魅力を感じないことがあります。娯楽施設や魅力的な商業施設が少なく、私たち高校生が気軽に立ち寄れる衣料品店や飲食店がもっとあるとよいと感じています。

しかし、私が一番困っていることは、交通の便が悪いことです。バスや電車の本数が少ない上に、それらの接続が悪いため、通学時間の制限が多く、バスや電車を一本逃したら学校におくれてしまいます。

〔千木良　唯君登壇〕

○議員（千木良　唯君）　千木良です。

私は先日、職場見学へ行った際に、大雨による遅延で電車やバスでは見学時間には間に合わず、やむを得ずタクシーを利用しなければならないことがありました。さらに、バスと電車の接続が悪く、バスを乗り過ごすと電車に乗るために１時間待たなければならないなどのことがありました。

これでは、幸福度日本一とはいっても、福井県でずっと生活しようと思ったり、福井県にＵターンしたりしようということにはならないと思います。そして、私たちだけではなく、私たちの親世代や免許を返納したお年寄りにも不便さを思わせるところがあると思います。

福井県が幸福度日本一であることをどのように考えているか伺うとともに、交通機関や駅前の店の充実など、県民が暮らしやすい施策を進めていただきたいと思いますが、見解と今後の取り組みについての所見を伺います。

〔宮田大地君登壇〕

○議員（宮田大地君）　宮田です。

次に、私からは、工業系高校のこれからについて、私が今まで通っていて感じたことを御紹介しながら提案させていただきます。

まず１つ目です。工業系高校は、目的意識の強い生徒にとってはすばらしい学びの環境です。しかし、進学する学科を間違えたという人も多くいます。専門分野に興味を持たない生徒は、学科の環境を生かしにくいです。この原因として考えられるのが、入学前のイメージと実際との間に大きなずれがあることです。

２つ目は、進学希望者への支援が難しいことです。近年、大学への進学を希望する生徒が増加している傾向にあります。しかし、多くの工業系高校では１学科１クラス制で、進学希望者と就職希望者が混合して同じ授業を受けています。違う目標を持った生徒が同じカリキュラムで学ぶことは課題ではないでしょうか。

最近では、工科高校という種類の高校があります。工科高校では、１年目は全員、工業の基礎を学び、２年生となるときに電気や情報、機械や進学などの学科を選択します。この仕組みのよい点は、それぞれの分野の内容を知った上で学科を選択できることや、進学希望者へのサポートがしやすくなることです。これは、さきに述べた２つの課題にうまく対応できる仕組みだと思います。福井県の工業系高校にもこの仕組みの導入を検討してはどうでしょうか。

〔髙島宣希君登壇〕

○議員（髙島宣希君）　髙島です。

私からは、特にフューチャーマイスター制度について伺います。

現在行われているこの制度は、指定された資格の受験料のうち一部が補助されるものであり、私たちは大変お世話になっています。

しかしながら、補助対象となる資格が限定されており、例えば電気科で電気工事士第一種はこの制度の対象となっていますが、第二種は対象外です。一種は、資格試験に合格したとしても、実務経験がなければ実際に仕事をすることができません。もちろん一種も重要な資格ですが、就職してすぐは二種のほうが重要だと私は考えます。我が校でも電気科はもちろんのこと機械科や情報科も試験に挑んでいます。

電気工事士第二種を初めとする多くの高校生に重要な資格について、フューチャーマイスター制度の対象にしてほしいと思いますが、考えを伺います。

最後に、私から提言させていただきます。

資格試験に挑戦しやすくするという目的のために、受験するときに少し補助し、その後、合格したら、合格おめでとうということで図書カードを贈るように制度を変えたらどうでしょうか。図書

カードを贈ることによって、次の資格試験のテキスト代に充てることができるなど、資格試験に対する意欲が向上すると思います。

　これで、私たち科学技術高校、チーム「桜仙」の質問を終わります。

　ありがとうございました。

○**議長**（田茂宏樹君）　県議会議員、山岸君。

〔山岸猛夫君登壇〕

○**県議会議員**（山岸猛夫君）　科学技術高校、チーム「桜仙」の佐藤議員と千木良議員の質問にお答えいたします。

　福井県が幸福度日本一であることをどのように考えているのか伺うとともに、交通機能や駅前のお店の充実など、県民が暮らしやすい施策を進めていただきたいと思いますが、見解と今後の取り組みについての所見を伺うということであります。

　まず、幸福度日本一については、県民の意識調査ではなくて、日本総合研究所による５つの基本目標と、そして健康、文化、仕事、生活、さらには教育、そして追加指標の 60 項目の総合ランキングが日本で１位であったということでありまして、県民が本当に幸福度日本一であるかとの意識とは若干違うかなと思っておりますけれども、地域の総合力をあらわす幸福度が日本一である本県は、幸福の実現に最も近い位置にあると考え、こうした優位性を生かし、市町と協力し、子育て環境や働きやすさ、地域のにぎわい、教育水準の向上など、県民生活を充実することにより、幸福度をぜひ高めていきたい、我々もいろんな角度から県に提言し、県民の意識調査でも日本一になるように努力を進めていきたいと考えております。

　また、中心市街地の活性化を図るため、景観形成や集客イベントを支援するにぎわい商業ゾーン形成事業を平成 24 年度から実施しておりまして、さらに平成 26 年度からは個店改修の支援を加えたおもてなし商業エリア創出事業として、これまでに６つのエリアにおいて、それぞれ事業期間は３年間､事業費は平均で約 6,000 万円規模の計画を支援しているところでございます｡この中では､福井駅西口の駅前商業ゾーンの支援も今年度から採択し、応援をしているところであります。

　さらに、交通ネットワークにつきましては、今後、福井国体の開催や北陸新幹線、中部縦貫道などの整備が進むことから、主要駅での交通結節機能、新幹線から地域鉄道なども含めて二次アクセスの強化など、県民生活や地域間交流の基盤としての公共交通の整備を進め、県内のまちづくりを積極的に支援してまいりたいと考えております。

　最後に、市町が路線バスの代替を運行している、いわゆるコミュニティバスや乗り合いタクシーなどについても市町の負担が大変大きくなっていることから、県においてはこれらの維持に支援を行っていくほか､「高速交通開通アクション・プログラム」に基づいて地域の公共交通の充実をしっかりと応援をしてまいりたいと考えております。

　以上です。

○**議長**（田茂宏樹君）　県議会議員、細川君。

〔細川かをり君登壇〕

○**県議会議員**（細川かをり君）　細川です。

　宮田議員、髙島議員の質問にお答えします。

まず、工業系高校のこれからについてです。

工業高等学校は、地域の産業技術の次世代の担い手になるすぐれた人材を育成することを主眼に、工業、産業の技術習得に関する教育課程を編成しています。資格取得や検定取得に熱心な高校が多く、取得した資格や技能は就職活動や将来のなりわいにおいて大きな糧となっています。県内企業からの求人は多く、近年では数倍から 10 倍、工業高校の卒業生は金の卵と取り合い状態。福井県産業界の将来がかかっている重要な学校です。

お尋ねの工科高校では、各科を一くくりにして生徒を総合募集し、２年生に進級する際、適性や希望に応じて専門のコースに分かれます。宮田議員がおっしゃるように、入学後じっくりコース選択ができ、一部の進学希望者のサポートに有利というメリットがあります。

しかしながら、デメリットもあります。福井県では、昭和 55 年、当時の春江工業高校で自動車整備科、機械科、電気科を総合募集したことがあります。しかし、専門性が薄れ、就職で負けるといった結果になり、平成２年には総合募集をやめました。

今回の質問をいただいてから私も工業高校の先生方の声を集めたところ、やはり専門性が薄れる、資格取得には不利と異口同音にお答えでした。例えば電気科の先生は、３年計画で電気の子を育てる。２年間の専門勉強と３年間頑張るのとでは大きく差が出る。難関資格への挑戦もやりにくくなるとおっしゃっておられました。

今後は、工科高校も含め、工業系高校はどのような形が望ましいのか、位置づけ、メリット、デメリットなどを議論し、県内の人材育成のありようをしっかり考えるよう、県に強く働きかけたいと思います。また、中学生に対する工業高校や専門コースの説明をさらに充実させ、専門コースの横の移動や学校を入学し直すといったやり直しのきく社会構築を働きかけたいと思います。

次に、フューチャーマイスター制度についてです。

福井フューチャーマイスター制度では、難易度の高い一部の資格検定の受検料を補助しています。例えば、電気工事士の資格は、第一種が 6,000 ボルトの高圧で電柱やビルなどが対象、第二種は 100 から 200 ボルトの低圧で家庭の電気などが対象ですが、高島議員のおっしゃるとおり、現実により必要なのは第二種免許です。現在、電気科の合格者がとても多く、合格は当たり前のように見えますが、これは補習を行う先生方やそれに応える生徒さんの頑張りのたまものです。県内の学校の合格率と比較すると、この第二種もかなり難しいとわかります。ですから、私個人としては、第二種免許も大いに評価すべきものと感じています。

このフューチャーマイスター制度は、平成 27 年度開始であり、現在３年目です。受検料補助が難関資格への挑戦意欲を高めるためなのか、高額な受検料や県外まで受検に行く際の交通費を助けるためなのか、さまざまな分野の補助に軽い重いの差がないか、一度検証すべきと思いますので、今後、県へ働きかけてまいります。

以上です。

○議長（田茂宏樹君）　ここで、福井高校、チーム「ひまわり」の松村君に議長を交代します。

ありがとうございました。

○議長（松村実来君）　福井高校、チーム「ひまわり」の松村です。よろしくお願いします。

チーム「えだまめ」、田原君、遠矢君、長岡君、廣嵜君、小林君。

〔長岡大熙君登壇〕

○議員（長岡大熙君）　藤島高校、チーム「えだまめ」の長岡です。

まず、観光事業についてお伺いします。

北陸新幹線が平成 34 年度末までに敦賀まで開業されるめどが立ち、敦賀―新大阪間は小浜京都ルートに決定されるなど、本県の交通網が発達していくことで、県外の方がより気軽に福井県に足を運べるようになることが期待できます。県は、これを視野に入れ、「恐竜王国福井」を中心に左義長まつりや三国花火などのイベントを精力的に宣伝、広告してきました。その努力に伴い、昨年は福井県を訪れる観光客入り込み数が 1,652 万人を突破するなど、確実な増加傾向が見られます。

今後も本県への観光客が増加していくことを期待しますが、地域経済分析システム、ＲＥＳＡＳのデータによると、2015 年現在の本県の宿泊施設数は全国でも中ほどに位置しているにもかかわらず、それらの稼働率は 50％を下回り、全国で 45 位となっています。つまり、福井県には宿泊施設が十分にあるのですが、それらが有効に利用されていないということです。これは、本県で宿泊せずに日帰りなどで帰ってしまう人が多いことをあらわしています。

その原因の一つに、観光地周辺にレジャーや娯楽施設など観光客を引きとめるような体験型のイベントやアトラクションが少ないことが挙げられます。そういった施設をつくれば、より長い時間、各地に滞在することになり、本県の宿泊施設を利用する人もふえるのではないでしょうか。また、三国花火など年１回開催されるものだけでなく、年間を通して楽しめるイベントをつくることで、安定して観光客の入りを得られるのではないかと思います。

〔遠矢東稜君登壇〕

○議員（遠矢東稜君）　遠矢です。

また、旅行者がふえると交通の便の改善も必然となってきます。今後、旅行者が増加していくと公共交通機関の利用も増加すると予測できますが、現状のままでは、電車などの本数と旅行者の数が見合わず、スムーズに移動することができなくなってしまいます。また、観光地同士の交通機関の整備が不十分なことも、観光客が福井県にとどまらない一つの原因になっていると思います。

以上のことから、観光客を少しでも長く、安定してとどめられるようなイベント、アトラクションの計画及び観光地同士をつなぐ交通網の整備について、今後どのような施策を検討しているのか、具体的な考えを伺います。

〔小林弥優人君登壇〕

○議員（小林弥優人君）　小林です。

次に、人口減少対策についてお聞きします。

福井県の人口は減少し続けており、ことし78万人を切りましたが、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には63.3万人、2060年には49.4万人にまで減少すると予想されています。全国でも人口が少ない本県ですが、人口減少を防ぐための施策について２点質問します。

若者の人口流出の要因として、まず福井県への興味、関心の低さが挙げられると思いますが、その中でも興味、関心のある仕事が少ない点を指摘したいと思います。

最新の情報によると、本県の有効求人倍率は2.09倍と、2.05倍の東京都を抜いて全国で最も高く、かなり人手が不足している状態となっています。しかし、求人が豊富にあるにもかかわらず、若者を中心とした生産年齢人口はどんどん減少していくばかりです。

県の「ふくい創生・人口減少対策戦略」には、Ｕ・Ｉターンを促すため、ふるさと福井移住定住促進機構を設置し、住まいの確保に向けた支援を行うことが掲げられていますが、就職に関しても、もっとフォローをすべきだと考えます。例えば、本県には、水月湖の年縞や恐竜の化石、東尋坊の柱状節理など、研究に値する資源がたくさんあるのですから、それらに関する研究機関を設立または誘致することで、知的好奇心にあふれる若者の県内定着につながるのではないでしょうか。さらには、宇宙工学、ＩＴ、バイオテクノロジーなどの企業を誘致すれば、県内の大学へのそれらに関する専門分野の学部の増設につながることも考えられ、これも若者の流出を防ぐことに貢献できると考えます。

〔廣嵜誠也君登壇〕

○議員（廣嵜誠也君）　廣嵜です。

次に、交通インフラ整備について伺います。

交通インフラ整備は、全ての住民にとっての問題であり、実際、大変不便に感じています。現在、県内主要市町を結ぶバスは１時間に１便以上ありますが、それだけで十分とは言えないと考えます。鉄道に関しても、需要が多い通勤通学の時間帯に十分な輸送量が確保されているとは言いがたいです。例えば、藤島高校の最寄り駅、田原町駅を通勤通学に利用する在校生の中には、えちぜん鉄道の現在の１時間に２本のダイヤでは不便であるため３本に増便してほしいとの声も多く、改善が必要だと考えます。

以上、若者に魅力ある研究機関の設立、誘致、大学の学部の新設、需要と現状に合った交通インフラ整備について、それぞれ具体的な考えを伺います。

以上で、福井県立藤島高等学校の質問を終了します。

御清聴ありがとうございました。

○議長（松村実来君）　県議会議員、辻君。

〔辻　一憲君登壇〕

○県議会議員（辻　一憲君）　県議会議員の辻でございます。

県外の観光客増に関する長岡議員、遠矢議員の質問にお答えいたします。

県外のお客さんが多いのは東尋坊、恐竜博物館、一乗谷朝倉氏遺跡などですが、その恐竜博物館は今90万人台の入場者数であり、その９割が県外客です。充実した常設展に加え、毎年特別展を行っており、ことしは７月から３カ月間、特別展「恐竜の卵」を開催中です。国内初の恐竜の卵や巣をテーマとした企画展で、７月末で既に４万人の入

場者数です。さらに、大迫力の驚異のリアル恐竜ライブショー「ＤＩＮＯ－Ａ－ＬＩＶＥ」を来週、勝山市で実施するなど、魅力ある企画を幾つも組み合わせることで滞在時間を延ばす工夫をしているところであります。

大規模な施設やレジャー施設、娯楽施設をつくっていくのは、財政上なかなか厳しい状況にございます。しかしながら、今福井県にある施設や、すばらしい歴史や文化、自然、こういったものを組み合わせながらのさまざまなイベント、アトラクションを進めてまいりたいと思います。

また、関連ですが、ことしは白山開山1300年として、さまざまな行事が催されており、勝山市の平泉寺は４月から６月の入り込み数が2.4倍になっています。つまり、メモリアルのタイミングを活用してイベントを展開し、より長く滞在してもらう方策も重要と考えております。

加えて、本物、体験もキーワードであります。越前和紙の産地、今立地区にある全国でも唯一の紙の神様を祭る大瀧神社の例祭が、毎年ゴールデンウイークに３日がかりで行われます。男衆がみこしを担いで山の上を行ったり来たりする大変勇壮なお祭りであります。本物のお祭りであります。このお祭りをたっぷり３日間、見て感じて、そしてあいた時間は紙の博物館や和紙の体験をしてもらう、自然の体験をしてもらう、農家民宿をする、さまざまな組み合わせが考えられます。

そのほか、メモリアルということでは、この大瀧神社も来年1300年のメモリアルという節目になりますので、さまざま地域の方々がいろんなイベントを催してもらうよう期待をしているところであります。

もう１点、交通については、電車の本数はなかなか課題ですけれども、バスというものもございます。例えば一乗谷と永平寺をつなぐバス、あわら温泉と永平寺をつなぐバス、丸岡城も含めて、こういったバスが運行されている状況であります。ＪＲ、そして今どんどん進んでいる高速道路、新幹線と地域の鉄道やバスを組み合わせながら、観光客の皆様に対する充実したサービスを提供していけるように頑張ってまいりたいと思います。

今回、御提起をいただきました県外宿泊客をどのようにふやしていくのか、そして交通網の充実は、これらはあわせて県の大変重要な課題でありますので、今後の議論の参考にしてまいりたいと思います。

○議長（松村実来君）　県議会議員、仲倉君。

〔仲倉典克君登壇〕

○県議会議員（仲倉典克君）　藤島高校、チーム「えだまめ」の小林議員と廣寄議員の質問にお答えさせていただきます。

人口減少を防ぐための施策について、若者に魅力のある研究機関の設置、誘致、あるいは大学の学部の新設、そしてまた需要と現状に合った交通インフラの整備についての御質問であります。

まず、通学の利便性の観点から、廣寄議員のえちぜん鉄道のダイヤを現在の１時間に２本から３本に増便せよという御意見であります。

えちぜん鉄道に限らず、鉄道網の利便性の確保は県民の願いでありますが、運営主体の方針や財源とも相談をしながら、全体的なダイヤの編成も含めて、これから検討するべき課題だと思っておりますので、またしっかりと議論や検証をさせていただきたいと思っております。

余談でありますけれども、私にも高校時代があったのですが、高校時代は自分の自転車で学校ま

で片道１時間半、往復３時間かけて通いました。その中で、当然体力もついてきましたし、また精神的にもどちらかといえば強くなったのではないかと思っておりますので、確かに交通の利便性の確保は大事な視点ですけれども、高校生として、そういったいろいろな観点から、通学とかも見ていただきたいと、むしろ要望させていただきたいと思っております。

次に、研究機関や大学の誘致についての小林議員の質問でありますけれども、人口東京一極集中の現状を生み出している大きな要因は、大学等の研究機関などを含めて全て東京に集中している。それがまたその傾向を強くしている。そういう現状から来るところがあると思っておりまして、地域で人材をしっかりと育てて、そして確保していくことが、人口減少に歯どめをかけていく非常に大きな視点であります。また、人口減少に限らず、今から地方創生をしっかりと進めていく中では、そういったことが、その実現に向かう大きな足がかりになると考えてもおります。

今、国全体として、どちらかというと首都圏に大学が集まっているのを少し抑制していくという動きも出ておりますし、また同時に政府機関を地方に分散をさせるべきだという意見もありまして、今検討に着手しているところでございます。御指摘の宇宙工学を初め、特色のある学部や大学を新設することも大事ですけれども、何といいましても卒業生の受け皿となるべき企業の誘致であり、現在、福井県には大手企業もたくさん存在するわけですけれども、そういった福井県内に存在する大手企業が、どちらかといえば生産ラインが主にその中心となってきているわけでありまして、そういった企業の中にも研究部門とか営業戦略本部とかの中枢のセクションをしっかりと立地をしていただくことが大事だと思っております。

いずれにしましても、皆さんには将来があるわけでありまして、この福井県にしっかりと根差して、これから福井県を担う人材として育っていっていただきたい。何も東京に机がなければ仕事ができないわけではありません。福井に机を置いて、そして世界と仕事ができる、そういう環境がまだまだつくられてくるわけですから、皆さんに期待しています。

以上です。

○**議長**（松村実来君）　ここで、休憩いたします。

13時25分に再開いたします。

なお、休憩後は、若狭東高校、チーム「彦姫」の竹田君に議長を交代します。

ありがとうございました。

午後１時13分　休　憩

―――◆　◆●◆●◆　◆―――

午後１時25分　再　開

会議に出席した高校生議員（14名）

勝山高校

チーム「,（コンマ）」

大　下　明　莉
野　瀬　美　結
古　瀬　瑞　季

鯖江高校

チーム「えーじshining」

澤　﨑　和　香
山　本　陽奈乃
原　　　玲　佳
森　松　奈々美
向　瀬　遥　菜

若狭高校

チーム「ターヘル・アナトミアーズ」

今　川　奈津起
岩　崎　大　朔

若狭東高校

チーム「彦姫」

竹　田　竜　大

梶　川　颯　太
清　水　俊　太
玉　井　　　輝

会議に欠席した高校生議員（１名）

若狭東高校
チーム「彦姫」
坊　　　凛 太 朗

チームを担当するために出席した県議会議員（４名）

勝山高校
チーム「，（コンマ）」担当
松　井　拓　夫

若狭高校
チーム「ターヘル・アナトミアーズ」担当
田　中　宏　典

鯖江高校
チーム「えーじshining」担当
大 久 保　　　衞

若狭東高校
チーム「彦姫」担当
力　野　　　豊

説明のために出席した県議会議員（18名）

関　　　孝　治
山　岸　猛　夫
斉　藤　新　緑
佐　藤　正　雄
仲　倉　典　克
大　森　哲　男
西　畑　知 佐 代
中　井　玲　子
小　堀　友　廣
野　田　富　久
田　中　敏　幸
松　田　泰　典
田　村　康　夫
糀　谷　好　晃
鈴　木　宏　紀
島　田　欽　一
細　川　か を り
辻　　　一　憲

○**議長**（竹田竜大君）　休憩前に引き続き、会議を開きます。

若狭東高校、チーム「彦姫」の竹田です。よろしくお願いします。

これより、県政全般にわたる質問、第２部に入ります。よって、発言は、お手元に配付いたしました発言順序のとおりに願います。

チーム「ターヘル・アナトミアーズ」、今川君、岩崎君、梶川君、清水君、玉井君。

〔清水俊太君登壇〕

○**議員**（清水俊太君）　若狭高校、チーム「ターヘル・アナトミアーズ」の清水です。

福井国体後のスポーツ振興についてお伺いします。

もともと国体は、戦後の荒廃と混乱の中で、スポーツを通して国民に、とりわけ青少年に勇気と

希望を与えようと開催されるようになりました。また、都道府県対抗という形をとり、現在でも地方のスポーツ振興政策や競技、選手の強化策に多大な影響を与えています。特に開催地では国体で使用する施設の改修や特設が行われます。

　しかし、近年では一過性の補強に対する批判も高まっています。毎回、オリンピックなど大きなスポーツの大会を開催した後は、施設運用が衰退してしまうということはよく聞きますが、国体も例外ではないと思います。

　今回の国体に伴い、県内では約 40 の会場を改修し、３つの建物を新築し、さらには 10 の会場を特設していると聞きました。これには大きな費用がかかることは間違いなく、負担となります。私たちの住む小浜市の具体例を挙げると、ラグビー競技の会場となる小浜市総合運動場では芝生を新しく敷き詰め、国体終了後には全て剥がしてしまうという話を聞きました。

〔玉井　輝君登壇〕

○議員（玉井　輝君）　玉井です。

　もちろん、その後の施設環境を維持するために多額のお金が必要となることは重々承知していますが、今回の機会で得た施設の充実を一過性で終わらせるのではなく、ぜひこのまま残してスポーツ振興に役立ててはもらえないでしょうか。

　そこで一つの方策を提案します。スポーツとしてではなく、レクリエーションのような老若男女誰でも気軽に参加できるイベントを定期的に開催するのはどうでしょうか。勝ち負けにとらわれずに多くの人と楽しむことで、年代間交流が生まれ、また結果として福井県全体の健康増進につながると考えます。また、丸岡地区ならばサッカーやフットサル、私たちの住む嶺南地域ならばビーチバレーやラグビーなど、今地域に根づいているスポーツを取り上げることで地域活性化につながるのではないでしょうか。

　ここで質問させていただきます。

　まず、福井国体に向けてつくられた施設は今後どのように運用していくのか、お伺いします。また、福井県の政治を動かしている議員の皆さんは、今後の福井県のスポーツ振興をどのようにお考えなのか、お聞かせください。

〔今川奈津起君登壇〕

○議員（今川奈津起君）　今川です。

　現在、小浜市の人口は減少傾向です。そのため、北陸新幹線が開通し、また各地に駅ができることになれば、ぜひとも流動人口をふやし、嶺南地域の活性化につなげていきたいと考えています。高速道路である舞鶴若狭自動車道の開通によって、敦賀市の気比神宮、美浜町と若狭町にまたがるレインボーラインは開通前に比べて大幅に客数が増加しました。また、福井新聞によると、25 の会社が新規立地し、約 1,110 人の新規雇用を獲得したそうです。

　北陸新幹線の開通によっても同じような効果を得るためには、さまざまな対策を考えておく必要があります。小浜市を初めとする嶺南地域の観光スポットは、市街地からはある程度距離があり、現在、そこへ行くためのバスや在来線の小浜線は１時間に１本程度とアクセスがいいとは言えません。そして、これらの公共交通機関と新幹線の到着、出発時間をうまく連動させなければ、さらに不便さが増し、観光客の増加が見込めないと考えます。

　駅は、交通機関や施設などをつなぐものだと思います。ほかとの連結がうまくいってこそ初めて

駅が機能するのではないでしょうか。例えば、従来のバスの本数をふやしたり、新たな観光名所をめぐるバスの路線を設置したりするのはどうでしょうか。

〔岩崎大朔君登壇〕

○議員（岩崎大朔君）　岩崎です。

私たちは、高校生目線で、駅とその周辺がどうあるべきかについて考えてみました。小浜市は小京都と呼ばれて、御食国として親しまれており、深く長い歴史のあるまちです。また、若狭地方は海と山に囲まれており、民宿も多くあり、海水浴など常に自然を近くに感じられます。

先ほども述べたとおり、交通の課題は残るものの、ほかの都会にはない魅力がたくさんあると思います。また、観光客だけではなく、都会の方の中では、このような地域に移住したいと考えている人が年々ふえてきているとお聞きしました。しかし、若者が移住をするにも、このような地域には仕事そのものがないため、働き終えた高齢者の方が地域に移住しているそうです。

現在、北陸新幹線によって得られる観光客をどのように活性化につなげていこうとお考えなのかをお伺いしたいと思います。また、地域を活性化するには、企業や仕事が一定数ふえることが大事だと考えますが、どのようにお考えでしょうか、県の所見を伺います。

ありがとうございました。

以上で若狭高校の質問を終わります。

○議長（竹田竜大君）　県議会議員、関君。

〔関　孝治君登壇〕

○県議会議員（関　孝治君）　国体に関してお答えいたします。

施設につきましては､約 48 種類の競技場を整備することにほとんど無駄はないと考えております。

例えば、小浜市に整備するラグビー場についても、国体後そのまま利用いたします。どこでどう伝わったのかはわかりませんけれども、結局壊さないということでございまして、そのまま残すことを考えております。また、池田町に整備する山岳競技の施設についても、国体後は、20 年前に整備された福井県立のクライミング施設が老朽化して固定式であるために、そちらへ移設するということで考えております。

その他、馬術、水泳の飛び込み、シンクロナイズドスイミング、水球、これらの４つの競技については、県外の施設を利用する方向で現在進んでおります。

質問にあるような新設、改修を行う施設についても、できるだけ費用を抑えながら、整備を進めております。その後のオリンピックのキャンプへの利用も考えていきたいと思っております。以前、サッカーのワールドカップのときにメキシコのチームに福井県に来ていただきました。10 日ほどのキャンプを張ったわけであります。

それから、前回の国体以降、福井県でもいろいろなスポーツがはやり、発展しました。一つは、丹生地区のホッケー、それから武生地区のフェンシング、それから三方地区のボート、それから北陸電力などのハンドボール､それから鯖江へだんだん移動してきましたけれども､武生地区の体操、そういったスポーツがあります。

今後、国体後はいろいろなスポーツがもっと広がって、大きなスポーツ振興につながっていくと考えております。

２点目の選手確保については、平成 22 年に千葉国体において、ふるさと選手でも、居住者でもな

い選手が出場したことがあります。約35名の山口県に関係ない選手、すなわち外人部隊が出場した結果、大変な問題になり、いろいろな注文が出まして、日本体育協会は、国体の点数を見直し、それらの選手がとった約151点を減じて、結局、正式な発表では、13位だったところを16位に変更したことがありました。それで、約８年前のその大会以降、国体では県内に居住していない選手の出場は認めないとの規則に変更したわけであります。

今回、福井県において、「スポジョブふくい」等により選手の就職をあっせんし、国体後も福井県に定着してもらえるような選手の確保を進めているわけであります。まずは来年、国体で優勝することが先決であります。そして国体後には、指導者として県内のスポーツ振興に携わってもらい、国体で整った環境も利用しながら、県民のスポーツを通した人づくりや健康づくりを推進してほしいと思っております。

スポーツの福井県と言われるようにしていきたい。これが思いであります。すなわち、すぐ後に来る東京オリンピック、また世界選手権に出場できる選手をどんどんつくっていきたいと考えております。今回、国体には約850名の選手が出場するわけでありますが、できるだけ世界に通じる選手も育成し、そして約200名は「スポジョブふくい」のＵ・Ｉターンによる選手もいますが、それらもあわせてやっていきたいと考えていますので、どうかよろしくお願いする次第でございます。

勝負事は、やるかやられるかであります。いいですか。実際、勝つか負けるかしかないのであります。

終わります。

○**議長**（竹田竜大君）　県議会議員、小堀君。

〔小堀友廣君登壇〕

○**県議会議員**（小堀友廣君）　若狭高校、「ターヘル・アナトミアーズ」、今川議員から質問いただいた北陸新幹線小浜駅周辺の小浜線や二次交通の充実について、また、岩崎議員から質問いただいた小浜市の観光による交流人口増や移住について、若狭高校出身の私から一括して答弁いたします。

小浜は、古くから大陸文化の玄関口として栄え、鯖街道を通じて京都にも御食国の食材を送ってきました。「京は遠ても十八里」と言われ、夜通し歩いて翌朝着いたものが、北陸新幹線開通後は19分で着きます。料金は現在の半額で、2,110円、１カ月の定期で約６万円となり、通勤圏になります。長野県佐久市や新潟県湯沢町では、移住のために住宅の取得や通勤に補助金を出しております。

敦賀駅開業を５年後に控え、小浜線の高速化、強靭化を国やＪＲに要望しています。また、永平寺の自動運転車、燃料電池の市内循環バス、石川県七尾線の花嫁のれんや日本各地を走る観光列車の小浜線への導入、サイクルトレインや各駅へのレンタサイクルの設置なども提案しています。また、並行して延びる丹後街道を歩く「ウオーク・アンド・ライド」、小浜駅が若狭一帯の観光の拠点となるための方策を考えなければなりません。

「ファスト・アンド・スロー」、早く着いてゆっくり若狭を楽しんでいただく。これが大事ではないかと思います。都会から田舎暮らしに憧れ移住する人もふえています。多拠点生活を提唱する人もいます。都会と地方に複数の住宅を構え、好きなときに好きなところで生活し、仕事をするのです。君たちの先輩の若新雄純さんが鯖江市に提唱した「ゆるい移住」というのもあります。

北陸新幹線の開通は、時間と距離を短縮し、大きな変化と可能性をもたらします。一方、利便性

はもろ刃の剣であり、人口流出や買い物客を都市部に取られるストロー現象が起こるかもしれません。

若狭に生まれ、若狭に育ち、若狭に住む我々が、まず第一にするべきは、ふるさとを守ることです。熊川宿を調査した吉田さんは、人の住まないテーマパークにしてはならないと言われました。昔ながらの町並みに、小さな土産物屋さん、八百屋さん、喫茶店、そば屋さんなどが息づき、生活していける持続可能なまちづくりが望まれます。

今川議員、岩崎議員の意見をもとに、議会では、県、市町とともに若狭の国づくりを構想し、実現に向けて努力したいと思います。命がけで「解体新書」を書いた杉田玄白、命をかけて国を変えようとした梅田雲浜、年貢の減免を願い出て処刑された松木長操。若狭の先人は、命をかけて守るものがありました。

仕事がなければ自分でつくり出す気概が必要です。若狭高校校長室には、私たちの先輩である佐久間勉艇長の「小浜中学生諸君」で始まる檄文があります。国を守る心を伝えております。佐久間艇長の後輩である議員諸君が国を守り、ふるさとを守る人に成長されるよう希望して、私の答弁といたします。

○議長（竹田竜大君）　ここで、鯖江高校、チーム「えーじ shining」の山本君に議長を交代します。ありがとうございました。

○議長（山本陽奈乃君）　鯖江高校、チーム「えーじ shining」の山本です。よろしくお願いします。

チーム「，（コンマ）」、大下君、野瀬君、古瀬君。

〔古瀬瑞季君登壇〕

○議員（古瀬瑞季君）　勝山高校、チーム「，（コンマ）」の古瀬です。

まず、医療・福祉の現状、今後の対策についてお伺いします。

福井県では、現在、人口減少に伴い、地域、教育、産業などのあらゆるところで人手不足が深刻な問題となっており、医療現場では看護師不足が課題となっています。看護師不足は全国どの県でも言われていますが、その対策として看護師の雇用支援を積極的に行うことにより、就業している看護師そのものの数は年々増加傾向にあります。

〔野瀬美結君登壇〕

○議員（野瀬美結君）　野瀬です。

超高齢社会の進展に伴い、高齢の患者数も看護師と同じく増加しているため、結局のところ人手不足は解消されていないのが現状です。また、人手不足で看護師が心身ともにストレスを感じ、退職へ追いやられることも珍しくないそうです。実際に、人手不足のために負担しなければならない仕事量が多く、看護師をやめたいという声は少なくはなく、せっかく看護師を志しても数年でやめてしまう人が後を絶ちません。転職や離職などにより潜在看護師となっている人はたくさんいるため、潜在看護師を現場に呼び戻し、人手不足を解消しようとしています。

私自身も看護職を志しており、福井県の看護福祉の現状には不安を感じています。人手不足を解消し、看護師の職場環境を守ることは、現場において患者の方々に適切な対応を行うために大変重要な要素になると思います。

そこで、潜在看護師の職場復帰へのサポート及びその他の看護師の人手不足に関して、現状と今後の計画について伺います。

〔大下明莉君登壇〕

○議員（大下明莉君）　大下です。

次に、県民の健康づくりについてお伺いします。

福井県は小学生の学力、体力が全国でトップクラスであることがよく知られています。私が通っていた小学校では、休み時間に鬼ごっこや縄跳び、鉄棒など、体育の時間以外でも運動をする時間を設けており、それが小さいころから運動を身近に感じ、健康づくりの一助になっていたと思います。

また､県全体を見ると､運動の面においては、地区の徒歩大会の実施や高齢者がスポーツに親しみを持つきっかけづくりの支援などを行い、健康の面では、虫歯予防や熱中症、たばこの危険性についての啓発など、さまざまなことに取り組んでいます。私も家族とともにこのような活動に以前参加した経験があり、とてもいい経験になっています。そして、今後も親子で楽しめる健康づくりの活動をもっとふやしていくべきと感じております。

そこで、健康づくりに関する県の今後のさらなる取り組みについて、所見を伺います。

私たちが住む勝山市は、県立恐竜博物館やスキージャム勝山など、全国に誇れる観光スポットがあり、さらにことしは中部縦貫自動車道永平寺大野道路が全線開通し、交通の利便性が飛躍的に向上するなど、魅力あるまちになっています。さらに勝山市、福井県の魅力を高め住みよいまちとなるよう、以上の質問をさせていただきました。

これで勝山高校の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（山本陽奈乃君）　県議会議員、野田君。

〔野田富久君登壇〕

○県議会議員（野田富久君）　勝山高校のチーム「，（コンマ）」の古瀬議員、野瀬議員の質問にお答えいたします。

御指摘のとおり看護師不足は慢性的です。今日、2025 年問題があります。少子化が進む一方で、戦後のベビーブームの世代、我々ですが､いわゆる団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者になる年であります。急速な高齢化が問題をさらに大きくしております。ここに医療･介護サービスの増大は避けられず､医師、看護師、介護士などのスペシャリストが不足していると認識しております。

ところで、こうした状況の中で福井県の看護師の実態については、28 年末現在で資格を持っている方は１万 2,241 人ですが､実際看護に従事しておられる方は 8,497 人です。もったいないのです。約３割の方が未就労という実態であります。ただし、全国的な順位から見れば、福井県は、人口 10

万人当たりでは全国平均をやや上回って16位という位置であります。

いずれにしても、医療・介護のこうしたニーズに応えるマンパワーの確保は重要な課題であります。国は27年、看護師等人材確保法を改正して、看護師などの再就職の促進を図ることとしております。制度としては、看護師等免許保有者届け出制度を実施しているわけですが、本県では先ほど申し上げたように約７割しか就労していない実態があります。潜在看護師の発掘を行って、就業支援のための職場復帰の知識や技能習得などの研修、あるいはハローワークと連携した相談活動を行っておりますが、まだまだ十分な成果を出しているとは言い切れません。

取り組みとしては、例えば、せんだって高校生の皆さんには勝山の総合病院で体験活動も行っていただいたこともあります。いずれにしても、若い人たちが厳しい国家資格を取って看護師になったものの、憧れと現実との大きなギャップを感じて戸惑っておられるのが昨今の状況であります。昔から、いわゆる、きつい、汚い、危険の３Ｋと言われております。さらに、職場としては結婚、出産を経た看護師にとっては育児と家事、仕事の両立は難しいものがあります。よって、出産後に復帰できない方も多くいることが、離職率の増加などに拍車をかけていると言っても過言ではないと思います。

有資格者が復帰できる環境が整っていないことは、何としても解決しなければならないと思っております。このため、何よりも働きやすい環境は大前提であり、院内保育所の設置、充実や短時間勤務制度の導入、管理職のワーク・ライフ・バランスの研修、適切な賃金と雇用契約が大切と考えております。これらのことを理事者初め、県政に積極的に働きかけ、提言してまいりたいと、改めて思うところであります。

最後になりましたけれども、古瀬議員や野瀬議員が未来、医療・福祉の職場で頑張っていただくことを心から期待申し上げまして、私の答弁にかえます。

○議長（山本陽奈乃君）　県議会議員、島田君。

〔島田欽一君登壇〕

○県議会議員（島田欽一君）　勝山高校、チーム「，（コンマ）」、大下議員の質問にお答えします。

県民の健康づくり推進のため、運動や予防対策など県の今後のさらなる取り組みについて考えを伺うとの質問にお答えします。

まず、福井県の健康づくりの面においての現状について御報告いたします。

福井県の平均寿命は全国トップクラスであり、男性は79.40歳で全国４位、女性は84.40歳で全国５位と、まさに健康長寿県であります。そこで県としましては、県民がみずから健康づくりに取り組み、若い世代から運動や食生活を中心とする生活習慣の改善を図り、健康寿命の延伸を目指す施策を考えております。

その中で、運動を中心とした取り組みとしては、１、１市町１健康づくりの推進、２、国体記念17の町を結ぶ徒歩大会の開催、３、アーケード商店街などでの冬場ウオーキング。４、ラジオ体操やサイクリング普及など、年間を通じた健康づくりを推進しています。また、今年度から、運動しやすいスニーカーを着用し仕事をする「スニーカービズ」を新たな県民運動として実施し、広く県内企業に実施を働きかけています。

大下議員の住んでおられる勝山市では、８月20日に環境美化ウオーキング、９月10日に「かつ

やま恐竜の森ウオーク」を実施予定です。

そのほかに、国体・障スポでは、１県民１スポーツを基本目標の一つに掲げ、健康長寿の推進、地域コミュニティ活動の活性化などを図り、商店街などを利用した冬場のウオーキングやラジオ体操など、１年を通じて県民がスポーツに触れる機会をふやし、子供から高齢者まで全ての県民が自分に合ったスポーツに親しみ、健康増進が図られるよう努めています。

今年度、県は第４次元気な福井の健康づくり応援計画を策定予定です。今後、県の施策を注視し、県民の健康づくり推進のための今後の議論の参考としていきたいと思います。

○議長（山本陽奈乃君）　ここで、若狭高校、チーム「ターヘル・アナトミアーズ」の梶川君に議長を交代します。

ありがとうございました。

○議長（梶川颯太君）　若狭高校、チーム「ターヘル･アナトミアーズ」の梶川です。よろしくお願いします。

チーム「彦姫」、竹田君。

〔竹田竜大君登壇〕

○議員（竹田竜大君）　若狭東高等学校、チーム「彦姫」の竹田です。

私は、農業行政についてお伺いいたします。

平成28年３月に改定されました「ふくいの農業基本計画」においては、県内の農業活動を利益の上がる産業へステップアップさせることや、自然環境やふるさと文化を支える基盤を守ることなどを基本理念に掲げています。

この基本理念を具体化したものが重点戦略であり、それには品質を高め競争力のある農産物を生産することや、大規模化、効率化を通じてもうかる農業を実現することなどが挙げられています。中でも、農業の大規模化や効率化を図り、もうかる農業を実現する過程では、資本を集約させることで農産物の土地生産性の向上を目指しています。また、秋の田起こし運動などを通じて米の品質向上を目指しています。これらの取り組みにより、市場において競争力の高い米を確保し、農業の収入増加を実現するのです。

しかし、上質で安価な米が市場に出回れば、資本に劣る小規模経営農家の米の販売が困難になることは明らかです。また、小規模経営農家の中には、中山間地域などの効率的な農業が困難な地域において活動されているところもあります。この地域での農業活動は豊かな自然環境の構築に尽力してきました。これは、基本理念の一つである自然環境やふるさと文化を支える基盤を守る活動につながっています。

少し話の内容が変わりますが、私の経験談を述べさせていただきます。あるレストランで、地域の農家で生産されたトマトを食べる機会がありました。そのトマトは、とても甘く余りにもおいしかったので、シェフにその感動を伝えました。

さて、農業において、人を感動させる農産物を生産することは一つのロマンだと考えます。私自

身、日々地域の食材を食べる中でその感動を経験することができれば、すごくすてきなことだと考えます。しかし、世の中に存在する商品はどのようにして生まれるのでしょうか。消費者主権という言葉があります。世の中に存在する商品は消費者のニーズに合わせて開発や生産がされているということを意味する言葉です。

以上の内容を踏まえて、ここで質問させていただきます。

県や市町、ＪＡなどが協力し、その総合力によって進められる農業政策において、この中山間地域などにおける小規模経営農家への対応をどのように考えているのでしょうか。

以上で若狭東高校の質問を終わります。

○議長（梶川颯太君）　県議会議員、田中敏幸君。

〔田中敏幸君登壇〕

○県議会議員（田中敏幸君）　若狭東高校の竹田議員には、農業行政についてお尋ねいただきました。

福井県の農業の現状は、稲作中心であります。兼業農家率が高く、高齢化が進展しているなどの課題もあります。また、米の価格も下がり、農家の経営は厳しくなっているのが現状であります。その意味では、規模拡大を図り省力化、コスト低減を図ることや、園芸作物の導入を図り農家所得の向上を図ることは必要なことでございます。

さて、小規模農家への対応についてのお尋ねであります。

2000 年の２月議会で、地産地消による地域食料自給計画の策定を提言したことがございます。その当時、生産者が市場に販売ができるように、武生卸売市場では地元の農家と市場をつなぐ「旬菜.ｃｏｍ」という組織が生まれました。また、園芸に転換を図る中で、売り先を確保する意味から、学校給食への地場産農産物の導入が図られてまいりました。地元の伝統料理や多様な食文化を生かした加工と生産体制をつくる必要があるとも存じます。おおい町の名田庄商会は、その先例的な事例であります。

中山間地の農業は多様であります。いろいろな方法で生産農家と消費者をつなぐ方法はあると存じます。農業の基本は生産現場であります。生産農家に寄り添った支援体制、市場体制の充実を図ってまいりたいと存じます。

また、田舎の環境のよさを売りにしていくためには、有機農業、環境調和型農業など、安心・安全で質の高い農産物を目指す農法の確立も必要だと思います。若狭町には、かみなか農楽舎がありますが、楽しい田舎暮らしのできる酪農を目指していきたいと存じます。

次に、都市圏への販売、アジアへの販売拡大についての質問であります。

若いころ、大分県の一村一品運動の大山町に視察に参りました。ここは田舎ですが、「梅栗植えてハワイに行こう！」を合い言葉に、梅とクリを中心に大山ブランドを確立した豊かな田舎町であります。市場によいものを一つ入れ込めば、地域の農産物も地域ブランドとして市場に入り込めると教えられました。その意味では、福井県の農産物のブランドの確立が必要であります。

大都市圏、アジア地域においては、それぞれが福井県のゆかりのある店や輸入業者を通じて販路拡大を図ってまいりたいと思います。福井県の農業の確立のために精いっぱい頑張りたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（梶川颯太君）　ここで、勝山高校、チーム「,（コンマ）」の野瀬君に議長を交代します。
ありがとうございました。

○議長（野瀬美結君）　勝山高校、チーム「,（コンマ）」の野瀬です。よろしくお願いいたします。

チーム「えーじ shining」、澤﨑君、山本君、原君、森松君、向瀬君。

〔森松奈々美君登壇〕

○議員（森松奈々美君）　鯖江高校、チーム「えーじ shining」の森松です。

観光誘客の促進についてお伺いします。

県は昨年、福井県内を重点的に回るツアーをつくり、県内観光地等の紹介や旅行雑誌に福井県の新たな観光素材を扱う特集記事を大きなページを割いて掲載し、１泊２日のモデルコースの掲載などを行いました。平成 27 年の日帰り 1,005.5 万人、宿泊 265.4 万人、合計 1,270.9 万人から平成 28 年度には日帰り 1,077.8 万人、宿泊 269.1 万人、合計 1,346.9 万人と 76 万人がふえているので、その事業の成果が見られます。

しかし、私たちは、もっと若者が参加しやすい事業をふやすべきだと思います。例えば、福井県の特産品の食べ放題ツアーや、若者を対象にした四季折々のイベントを流行に合わせた企画をつくってみるのがよいと、私たちは考えております。こうした若者を対象にした企画を通して、福井県のよさを知ってもらい、さらにハッシュタグをつくりＳＮＳを利用することで、福井県のことについて広めてもらうことができると、私たちは考えます。

そこで、観光誘客の促進についてどのようなことを計画しているのかどうかを伺います。

〔澤﨑和香君登壇〕

○議員（澤﨑和香君）　澤﨑です。

次に、福井県の人口減少の問題についてお伺いします。

福井県は、2000 年の 82 万 9,000 人をピークに人口減少が始まってから、多くの対策を行っていますが、人口減少が改善されていないのが現状です。人口減少が進むと、消費者が減少し、物を生産しても売れないため、経済が低迷すると考えられます。

そのほか、交通の便が不便になることが想定されます。例えば、ＪＲ普通列車や市営バスの本数は現状でも少なく、ＪＲだと朝や夕方は約 30 分に１本ありますが、お昼になると約１時間に１本になります。お昼の時間帯の利用者が少ないからだと考えられますが、私たち学生の場合、学校が午前中で終わることもあるため、時間が合わなければ１時間電車を待つことになります。そのため、お昼の時間帯の電車の本数をふやしたり、学生が立ち寄れる場所を駅周辺につくったりするのがよいと、私たちは考えます。

また、福井県は、全国に先駆けて地域の未婚率上昇の問題解決のために縁結び活動を行ったり、出生率上昇のために３人っ子支援を行うなど、さまざまな対策をとってきています。その結果、2004

年ごろから出生率は回復傾向にあり、合計特殊出生率は、福井県は全国で12位と高くなっていますが、人口減少までは歯どめがかかっていない状況です。

そこで、福井県では、「ふくい創生・人口減少対策戦略」を策定しました。福井県の幸福度日本一の基盤を活用し、暮らしやすさを維持することで、人口の自然増加を目指し、Ｕ・Ｉターンや県内定着を維持するための徹底サポートと地元産業の支援を行うことで、社会増へつなげていく取り組みを行っています。福井県は、人口問題に対しても早い段階で取り組んだことで出生率の向上など一定の成果が見られているため、Ｕ・Ｉ・Ｊターンする人がふえれば人口減少は抑制できるのではないでしょうか。

Ｕ・Ｉ・Ｊターンをしない人たちがなぜいるかといえば、自分の持っている可能性を広げるため、また福井県内では学べないことを学ぶために県外に行くからです。例えば、管理栄養士であれば、県内の私立大学では資格を取得することができますが、国公立の大学を目指している人にとっては、県内の国公立の大学では資格を取ることができません。また、薬学科や薬科学科がある大学が福井県には一つもないので、薬剤師の資格が取れません。そのために県外の大学や専門学校に行ってしまうと、福井県に戻って就職をしたくても県内の求人情報を得ることが難しくなるため、Ｕ・Ｉ・Ｊターンをする人が少なくなるのだと思います。

私たちは、それを解決するために福井県にもっと地元に戻って就職しやすい制度をつくればいいと思いますが、県は、これからの人口減少対策としてどのような計画を立てていらっしゃるのでしょうか。

以上で鯖江高校の質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（野瀬美結君）　県議会議員、田村君。

〔田村康夫君登壇〕

○県議会議員（田村康夫君）　私からは、チーム「えーじ shining」、森松議員の観光誘客の促進に関する質問に対しまして、若者を対象にした福井県の特産品の食べ放題ツアーの企画や四季折々のイベント企画発信の重要性、また、ハッシュタグをつくってＳＮＳ利用でのＰＲ発信についても御提案をいただきましたので、お答えいたします。

皆さんもＳＮＳを日常的に活用し、情報収集、情報交換をされていると思います。もう生活に欠かせないツールであると私も思います。私も含め、各議員もフェイスブック、インスタグラム、ブログ等々、いろいろと活用して発信しています。県においても、フェイスブックやユーチューブでは「おいでよ！ふくい」という名称で発信をしていますし、インスタグラムでは「insta_fukui」で発信しています。また、海外向けでは、福井ならではの魅力を国際交流員が独自に取材、撮影をして制作したＰＲ動画をユーチューブに投稿しています。ハッシュタグについても、インスタグラム「insta_fukui」で、例えば「＃福井県」「＃Japan」など、日本語と英語で設定をしています。

また、若者向けツアーの企画では、県観光連盟が福井らしい魅力を生かした旅行商品を数多くつくっておりまして、その中には、町なかをサイクリングしながらおいしいお店をめぐるツアーや、カメラ女子とともに福井県のふるさと百景をめぐるツアーなど、若者に魅力的な企画があります。また、大都市圏からの教育旅行として、県外学校の修学旅行や学習体験、またスポーツ合宿の誘致

にも力を入れています。
森松議員が言われるように、今後も若者の視点、動向を把握して発信し、若者を誘客することは、福井県を元気にしていく大きな要因と考えますし、新鮮な魚介を含めた食べ放題ツアーも福井県の魅力を発信する、福井ならではの企画だと考えます。
私は、福井県の若者がこれからも福井県を愛して支えていってほしいと願いますし、県内の若者が元気で楽しんでいないところに県外から人は呼び込めないようにも感じます。これからも、いろいろなアイデア、提案をいただきまして、県議会での議論に加えまして、さらなる福井県の元気につなげていきたいと思いますので、どうかよろしくお願いいたします。
本日はありがとうございました。

○議長（野瀬美結君）　県議会議員、糀谷君。

〔糀谷好晃君登壇〕

○県議会議員（糀谷好晃君）　鯖江高校、「えーじ shining」の澤﨑議員の御質問にお答えいたします。
幾つかの提言をいただいた上で、若者が地元に戻り就職しやすい制度をつくるなど、これからの人口減少対策としてどのような計画を立てているのかという質問でありました。
昨年度の県内へのＵ・Ｉターン者は本年１月末で 574 名と、これは過去最多の記録であります。その一方、県外の大学、短大に進学した学生のうち県内にＵターン就職した割合は、平成 28 年３月の卒業者で 28.8％と、依然として７割以上が戻ってきていないのが現状です。引き続き、都市圏在住者のＵ・Ｉターンを促進するとともに、高校や大学と連携して若者の県内定着を図る、いわゆる社会減対策が重要と考えます。

具体的な県の施策として、全国各地でもやっているところですけれども、県内外の大学生が県内に就職した場合、奨学金の返還を応援すること、県内大学の学部、学科の再編または新設、あるいは地元学生の受け入れ拡大があります。例えば県立大学の場合、地元枠の推薦入試を拡大したところ、過去最多の 181 人から志願があり、前年より多い 105 名が合格したという実績もあります。また、合同面接会に合わせた東京、大阪などから会場行きの無料Ｕターンバスの運行、そしてバス利用が難しい学生には片道交通費の助成なども行っているところであります。
また、本県への社会人Ｕ・Ｉターン者の７割が 30 歳代前半までの若者ということであり、この世代の若者たちは、もちろん結婚、出産を通して自然減の改善にも寄与してくれますので、この世代への働きかけが大事だろうと思っています。そのために、ありがた迷惑という言葉がありますが、これを逆にもじった「めいわくありがた縁結び」という施策の地域や職域での拡大、あるいは好評をもって迎えられている３人目以降の子供の保育料等の小学校入学までの拡大などを行っており、これらの具体的な施策も機能しているところであります。
さて、澤﨑議員も指摘されているとおり、私ども議会といたしましても自然減と社会減の改善に向けた県政の展開が急務と考えておりますので、そのためにも市町、あるいは産業、労働界、大学など、各分野にわたる県民一人一人の関心と参加をいただきたいと思っています。
県は、幸福度日本一の本県だからこそ、幸福を人口問題解決の原動力に掲げ、幸福度を高める政策と人口増加対策の間によい循環をつくっていくことを目指していますが、この理念達成のために

も、福井ならではの具体的なアイデアをみんなで出していくという雰囲気をつくりたいと思っています。

今後とも、高校生議員の皆さんを含めた若い皆さん方の感性に大いに期待申し上げまして、私の答弁とさせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（野瀬美結君）　以上をもって、議事全部を終了いたしました。

以上で、平成29年度ふくい高校生県議会本会議を閉会いたします。

ありがとうございました。

○事務局長（小寺啓一君）　高校生議員の皆さん、大変お疲れさまでございました。

ここで、大森福井県議会副議長より本日の総評を申し上げます。

○福井県議会副議長（大森哲男君）　皆さん、大変お疲れさまでございました。福井県議会副議長の大森でございます。

本日、本会議を拝見して、大変僭越でございますが、総評を申し上げたいと思います。

本日は、高校生の皆さんから、多岐にわたるテーマについて御意見がありました。自由にテーマを選んでいただいたにもかかわらず、その内容は、本県において重要課題として取り組んでいる問題ばかりでございました。北陸新幹線にも関連したまちづくりや、外国人観光、医療・福祉、農業や人口減少の話題など、複数のチームが取り上げていただいたテーマもあり、英検による入試制度、工業系高校のあり方など、現役高校生として後輩となる次の世代に密接にかかわるテーマであり、大変印象的でした。いずれも高校生の皆さんの関心の高さがあらわれたものと興味深く拝聴いたしました。また、非常に頼もしくも思いました。

本日は、１日限りの高校生県議会でありますが、質問いただいたテーマにつきましては、今後とも皆さんお一人お一人が興味を持っていただき、県の取り組みが大きく変わったとか、まだまだ改善が必要だとか、これは難しい課題が何かあるのかなとかと、これからもぜひ注目していただきたいと思います。我々議員も、高校生の皆さんの貴重な御質問や御意見を今後の県議会や議員の活動に大いに参考にさせていただきたいと思います。

今まさに人口減少や超高齢化社会、またＡＩの進展などに伴い、国政も、また地方の行政、政治も大きく変わらなければいけません。変わることには大きな困難や抵抗があるかもしれませんが、これに果敢に取り組んでいかなければ、次の世代、次の時代に入っていけないのだと思います。

ぜひとも、高校生の皆さんが今まで考えて、きょう経験した中身について、これからも興味を持ち、また地方や国のあり方、政治に関心を持って、これからの勉強に役立てていただくこととともに、この場にまた議員として戻っていただけるような方も出てくることを期待しながら、総評とさせていただきます。

本日は大変貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。

お疲れさまでございました。

午後２時25分　閉　会

◆委員会◆

「ふくい高校生県議会」の委員会の議事録を掲載します。

第１委員会

１　日　　時　　平成２９年８月４日(金曜日)
　　　　　　　　　午後　２時３４分　開会
　　　　　　　　　午後　３時４４分　閉会

２　場　　所　　第１委員会室

３　出席委員　　(福井県議会議員)
　　　　　　　　斉藤委員長
　　　　　　　　(高校生議員)
　　　　　　　　藤島高校　チーム「えだまめ」
　　　　　　　　　田原委員、遠矢委員、長岡委員、廣嵜委員、小林委員
　　　　　　　　勝山高校　チーム「，(コンマ)」
　　　　　　　　　大下委員、野瀬委員、古瀬委員
　　　　　　　　若狭東高校　チーム「彦姫」
　　　　　　　　　竹田委員

４　欠席委員　　(高校生議員)
　　　　　　　　若狭東高校　チーム「彦姫」
　　　　　　　　　坊委員

５　説　明　員　　(福井県議会議員)
　　　　　　　　関議員、野田議員、松井議員、畑議員、大森議員、島田議員、力野議員

６　経過及び結果
（１）　会議に付した事件
　　　　　　　　・県議会、県議会議員の活動
　　　　　　　　・福井を元気にするために

（２）会議の概要　　上記２つの事件について、審査を行った。
　　　　　　　　　審査の過程における主な発言は、次のとおりである。

○斉藤委員長　　ただいまから、平成29年度ふくい高校生県議会第１委員会を開会する。
　なお、坊委員には欠席したい旨届け出があったので、報告する。
　また、本日のふくい高校生県議会の当委員会においては、スマートフォン等による写真撮影等を可能とする。なお、着信音は鳴らないよう設定願う。
　また、本日の当委員会は自由に傍聴してもらえるので、了承願う。
　本日審査する案件については、手元に次第を配付しておいたので、確認願う。
　また、質問及び答弁は着席したまま行うので、了承願う。

〔委員長、発言するときの注意事項（マイク操作方法等）について説明〕

○斉藤委員長　　それでは、「県議会、県議会議員の活動」を議題とする。
　高校生の各委員より、今回の高校生県議会への参加の動機や、先ほどの本会議を終えての感想や今後の抱負なども盛り込んでもらいながら、答弁者役の議員に対し、県議会の活動、県議会議員の活動について質問や意見をお願いする。

○古瀬委員　　きょうのふくい高校生県議会の感想であるが、長時間座っていたため、少し不思議な気分になった。

○竹田委員　　私は、最初、先生に勧められてこのふくい高校生県議会に参加したけれども、実際に参加し、ほかの高校の意見を聞いていると、私も同じように思うところがあった。福井県の未来がどうなるのかについて、福井県議会議員の皆さんに期待するとともに、自分にもできることを探して、福井県をしっかりと支えていきたい。

○小林委員　　私は、福井県やその課題に関していろいろと興味を持っていたこともあり、今回のふくい高校生県議会に参加した。本会議を通して感じたことは、今回議論になったことは、かなり昔から議論されていることが多かったが、長年議論されていることには、きちんとした理由があり、その価値があるということである。
　例えば、人口減少問題については、今までもさまざまな対策を講じてきたと聞いたことがあるが、改善までには至っていない。そのような現状にあっても、諦めれば福井県の財政などがますます悪化し、県民の生活も悪化してしまうため、継続して議論する必要があると感じた。
　私は、将来、県外の大学に行くかもしれないが、福井県の課題などには生涯向き合っていきたい。

○野瀬委員　　今回の本会議において、福井県の看護師の現状について具体的に答弁してもらい、ありがたく思う。
　不安であったが、今回の答弁で具体的な例を聞いて、私も大好きな福井県で将来看護師として働きたいと思った。

○田原委員　　本日は答弁など、いろいろお世話になり、ありがたく思う。
　ふだんは議員の皆さんは質問する側である。その際に、答弁にむっとすることなどもあると思う。そのために再質問する場合に、険悪な雰囲気になることはないのか。私は今日、答弁を聞いて少し首をかしげる部分があった。
　自分が納得できない答弁が返ってきた場合に、議員の皆さんはどのように対応するのか。

○力野議員　　言いたいことはよくわかるが、自分が思うような答弁をうまく引き出せないことは、質問の技量不足もある。私もまだまだ新米なので、同じような経験をしている。しかし、経験を積むことで、このような角度で質問すれば、このような答弁を引き出せるということを、議員としては努

力して学んでいかなければならないと思う。
　きょう、皆さんの質問を第１部も第２部も聞かせてもらったが、高校生としては、とても核心を突いた質問が多かったと思う。自分が高校生のときにはそこまでは考えていなかったと、本当に感心したところである。
　要は、自分の思いと違う答弁が返ってきたときには、むっとする前に自分も反省しているということである。

〇野田議員　　今ほど高校生らしからぬと言われたが、本会議では、社会的に物を見る視点が非常にすばらしいと感じた。話の論理構成が非常にうまいと感服し、我々議員は高校生の皆さんと交代したほうがよいと言っていたくらいである。すばらしい話を聞き、我々も勉強になった。
　本題については、質問をすると、どのような答弁や対応があるのかは大体予測できるのであるが、それで納得できない場合には、私の場合はさらに質問をする。
　理事者には嫌われるタイプであるが、そのような論議をしながら最後の妥協点を見出すわけである。実態に対して自分自身で納得できる妥協点には至らず、これだけは譲れないという部分があれば、ある程度畳みかけるように質問していくことも大事だと思う。

〇斉藤委員長　　故意に答弁していない場合もある。追及されたくない部分については真剣に答えようとせず、自分たちはこれだけのことを実行したと結果を言うばかりで、質問と全く違う答弁をする、また、全く関係のない答弁をして時間を終わらせることもあるため、怒りをおぼえることもある。

〇大下委員　　県議会議員になって、一番よかったと思ったことはどのようなことか。

〇畑議員　　普通は、地方が疲弊するから議員を志す。
　きょう参加している藤島高校の皆さんは１年生であるが、１年生で社会が今どうなっているのかをわかることはすばらしいと思う。私の場合は田舎にいたため、そのような社会の情勢がなかなかわからず、高校へ行ってからようやく理解し、さらに大学へ行って他の地域を知り、そして社会人になって、福井県がおくれている分野を具体的に感じて議員になった。

　そのような中で福井県の取り柄は何か、伸ばすものは何かに視点を当てて、素直に質問をしている。そうしなければ福井県の特徴が出てこないからである。だから、そのような質問が出てくるとよいと思っていたところ、きょうは、先ほど言われていたように福井県が今までずっと議論してきて解決できていない部分に関する質問が出ていた。解決できない問題を延々と議論しているという批判もあるが、本当に解決できていない。
　例えば、今までは多くの鉄道などの公共交通機関があったが、全てやめしまったため、道路網を発達させて、マイカーの保有台数が一番多い福井県をつくった。しかし、それではやはりだめだろうということで、また、今、公共交通機関を充実させて相互乗り入れなども実施し、今度は、都会並みに待ち時間が余りないような形でダイヤ改正ができないかと検討し、税金を投入していく方向にある。
　福井県のような地方にいても、大都会と遜色のないような地域づくりを目指していきたいとの思いが、私が議員になった１つのきっかけである。

○関議員　　地元の人のいろいろな要望について、意見を交わしながら何とか実現したときはやはりうれしい。ほかの複雑な問題についても、真剣に取り組み、理事者も真剣に対応し、お互いいろいろと話をして切磋琢磨しながら実現したときはやはりうれしい。

　しかし、そのようなことはしょっちゅうあるわけではない。

○斉藤委員長　　住民が行政に直接要望してもなかなか実現しないことが、議員を通じて働きかけて実現したことが一番うれしいということである。

○松井議員　　きょう、勝山高校から参加された大下委員、野瀬委員、古瀬委員は２年生であるが、私が最初に話をしたときには、高校生でもこれだけいろいろと物事を考えているのかと本当に感心した。また、私が高校生のころはこれほど礼儀正しくなかったと思うが、今の生徒はしっかりと信念を持っており、礼儀正しいところに好感が持てた。

　我々議員は地域の要望をたくさん抱えている。その要望を一つ一つ解決していくことが、我々の仕事であり、その要望が解決されたときの喜びは人一倍ある。福井県民が皆、県議会議員になることはできないわけであり、我々は各地域の代表である。私の場合は、勝山市から１人だけ選出されているので、勝山市民からの要望を受けながら、学校の寄宿舎も２つふやした。ほかにバドミントンに関することも含めて、課題を解決できることは喜びの１つである。

○小林委員　　国会では、野党議員などがやじを飛ばしたり、たまに強行突破や強行採決があったり、議長や委員長のマイクをいきなり取り上げたりするなど、卑怯な手段を使う場面をよく見るが、県議会でもそのようなことがあるのか。

○斉藤委員長　　基本的にはそこまでエキサイティングすることはない。ただし、やじが飛ぶことはあり、おもしろいやじもあれば厳しいやじもある。県議会の場合は、やじが飛ぶ程度であり、マイクを取ったり、議決を阻止したりとうことはない。

　国会は議院内閣制である。議員の中から与党をつくって、内閣を組織している。地方議会はいわゆる大統領制である。知事は大統領のように認められており、我々議会は、大統領のような知事が提案するものに対して、その是非を県民の立場で判断するということを専門としている。議院内閣制の場合は与党が横暴になると野党がそれをとめるという構図が生まれるが、地方議会の場合は知事が提案をする立場であり、それに対して私たちがその可否を判断するという構図であるため、今言われた状態にはなかなかならない。

○長岡委員　　議員の皆さんにとって少し耳が痛いところであると思うが、寝ている議員がいることについて、どう思っているか。

○斉藤委員長　　最初に古瀬委員が言われたが、きょう一日座っていて、どのような感じであったか。

　県議会の一般質問の場合、２日間、朝からずっと座っている。厳しい質問が出たり、強い言葉が出たりすると、はっとするのであるが、冗長な話

を黙って聞いていると、ここにいる皆さんもどのような格好になるか想像してほしい。あの椅子に２日間ずっと我慢大会のように座っていることも、なかなかつらいことである。もちろん緊迫した場面ではそうではないが、いつも聞いたような質問であると、そのうちに眠くなる可能性はある。

○小林委員　　最近提出された高校入試における英検導入の見直しに関する意見書や県議会が可決した条例などについては、知事が拒否することもできる。だから、県議会の権限はそこまで大きくないのではないかと思うが、実際のところはどうか。

○斉藤委員長　　この委員会の答弁者役は、総務教育常任委員会という高校入試の問題を審議したメンバーが中心であり、その委員全員で意見書を提出した。

まず、一つは、知事が議会に議案を提案する。提案して議会の同意を得る必要があるのは、まず予算が関係する案件である。県民の税金を使うことになるため、予算を執行する案件を議案として出さなければならない。この事業に予算を執行したいという内容が予算案として提案される。もう一つは条例である。県の条例を制定する場合や、あるいは国の法律が変わったために県の条例も改正する場合も同様であり、これら２つは基本的には県議会の同意を得る必要があるため、議案として提案される。

それに対して、今回の入試制度の案件については議案ではないため、入試制度を変更するという提案を我々は全く受けていない。ところが、去年の10月に発表され、父兄を初め関係者からおかしいのではないかとの意見が上がっていたわけである。

そこで、委員が皆集まり、その問題だけを一度議論してみようということになり、参考人を呼んだり、各委員が地元で意見を聞いたりしたところ、ほとんどが反対の意見であった。きょう羽水高校の議員も言っていたと思う。議案ではなく、議会の権限は及ばないため、意見書として、問題点があると指摘し、修正を求める議会の意思を表明した。普通の議案であれば否決してしまえばよいのであるが、高校入試に関する問題は否決も可決もできない。そのため、議会の意思、つまり県民の意思を意見書として提出したのであり、教育委員会は、それを受けてどう対応するのかというところである。

今ほど小林委員が言われた権限の有無については、先ほど言ったが、県議会は、県の大統領である知事に対する県民の代表機関であり、県民の意思を最終的に決定する機関である。県議会が賛成と言えば、ここにいる高校生の皆さんも、有権者でなくても小さい子供でも、極端に言えばこれから生まれてくる子供も含めて、この県議会が賛成と言えば県民が賛成、反対と言えば県民が反対になる機関である。

そのような機関が反対との意見書を提出した。それを受けて、県の教育委員会はどうしても従わなければならないという法律的な拘束力はないが、県民の意思が反対であるものを強引に推し進めることができるかどうかを考えれば、特に英語だけを100点から115点にするなど、英語だけを偏重することはおかしいということを意見書で指摘しておいたが、恐らく、県の教育委員会はその決定を変更し、来年度の入試制度は見直しするであろう。

そのような意味で、県議会にはそれだけの力があり、だから議会は大事である。何も行動をしなければ、あのような試験制度がずっと続いていたところを、議会の意思により、それを変えることができることになると思っている。

○遠矢委員　　私は中学生の時に生徒会長をしていた。そのときに一般の生徒から、生徒会は何の活動をしているのか、表向きは立派なことを言っているけれども本当は何も活動していないのではないかとの意見が多く寄せられた。その中で、１カ月に１回など定期的に活動紙を発行して、活動内容をきちんと公表してほしいとの意見があった。それは県議会でも言えることではないかと思う。私が今回のふくい高校生県議会に参加した理由も、県議会が実際に何をしているのか全くわからず、不思議に思っていたためである。

組織が実際に何をしているのか、会社であれば会社員に向けてきちんと公表するべきであり、県議

会であれば県民に向けてしっかり公表することにより、今、福井県においてどのようなことが問題になっているのか、どのようなことが必要とされているのか、県民全員にしっかりと理解させることができると思う。インターネット上でホームページを活用して公表しているとは思うが、実際に見る人が少ないと思う。だから、県民全員にしっかり自分たちの活動をしっかりと公表できるような手段はないか。

○大森議員　　議会にも広報会議があり、去年、会長を務めていた。去年の広報会議の中では、議会をいかに県民に理解してもらうかが議論になった。

例えば、マスコミ関係では、我々の質問の一部がテレビ放映される。本会議、予算決算特別委員会の２つについて、県民に対して平等に届く民放で、予算をかけて放映している。高校生の皆さんは見ることができない時間帯であるが、会議を開催している時間のうち10時あるいは午後からの数時間を放映している。また、議会として、本会議等のインターネット中継を行っており、誰でも見ることができる。さらに、議会ごとに議会だよりという広報誌を発行しているが、これを各高校や公民館など、いろいろなところに送付している。

できるだけ関心を持ってもらえるように、議会としても行動しているが、一方で、議員個人としても、政務活動費を使って、県政だよりを発行し、折り込みを入れるなど、地元の地区に活動報告をしている人もいる。また、県政報告会などの活動をしている人もいる。

執行機関でも、県政広報誌の発行など、いろいろな方法で広報を行っているが、議会にはそれほど大きな予算がないため、できるだけ努力はしているものの、まだまだ行き届いていないのだと思う。

関心を持ってもらえれば、必ず何をしているのかわかるようになっているので、ぜひ関心を持って調べてほしい。しかし、それがなかなか難しいことであるため、自然に目につくところに情報があるよう、我々も頑張っていきたい。何かアイデアあったら、また教えてほしい。

○田原委員　　定例会が２月と６月と９月と12月にあると聞いたが、それ以外のときは議員の皆さんはお休みなのか。

○斉藤委員長　　基本的には知事から提案を受ける定例会があるが、その閉会中に委員会の活動をしたり、視察に行って勉強をしたり、いろいろな活動をしている。または、閉会中に一所懸命新聞記事を書いたり、本を読んで勉強したりしている。閉会中であるから、もちろん寝ていてもよいのであるが、閉会中であるからといって寝ていたら議員としての質はまったく上がっていかない。

あるいは、日常的に、地域の人と話をしたり、いろいろなところへ顔を出したりしなければならない。その日常活動をしないまま、議会がある日だけ来て座っているということではない。きょうは、ある地区の運動会、あるいは老人会などと、全ての行事の案内が来るため、ここにいる議員の来月の日程表は、１カ月、毎日何かの予定が入っているはずである。

私も長い間議員をやっていると、１月の何日は何があって、２月の何日には何があってという１年間の日程が大体わかる。来賓として呼ばれることも多いため、スケジュールはずっと埋まってしまう。

だから、閉会中はゴルフをして遊んでいると言いたいところであるが、それは全くできない。今ほど言ったような活動をしている。

先ほど遠矢委員から、議会の広報が全然伝わらないとの意見があったが、今、手元にあるのが県議会だよりである。各高校へは届いているとのことであるが、家には届かないから、見たことはないと思う。

遠矢委員は、このような広報誌が届いても読みたいか。つまらないから読まないと思う。大分工夫はしてあるが、皆さんは、まともな夏目漱石の本でも読まないのに、これを見て読むかといえば疑問である。

それから、今、手元に配付してある県会自民党という広報は、先日、自民党会派がつくった６月定例会の県政報告である。これは、実は新聞一面を使った広告である。もちろん見てもいないし読んでもいないと思う。ここまでやっても、誰もこのような広報が出ていることを知らなかった、新聞を見なかったというレベルなのである。

広報が難しいのは、相手が県議会は何をしているのかと関心を持っていれば、毎日見ているわけである。福井県議会で検索すると、インターネットの録画中継は全部の本会議の分がある。会議録検察システムでは、誰がどのような発言したのかも出てくるし、検索項目に例えば「教育」と入れると、教育のジャンルで議論した内容が出てくる。皆さんは、学校の教科書は読んでも、暇でなければなか

なかそのようなサイトへ行かないと思うが、ぜひ見てほしいと思っている。
　ほかに発言はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○斉藤委員長　　ないようであるから、「県議会、県議会議員の活動」に関する審査は終結する。
次に、「福井を元気にするために」を議題とする。
　高校生の各委員より、地域づくりや政治等に積極的に参加しながら、今後の福井県や地元の地域をさらによいものとしていくアイデア等について、若者としての意見や答弁者役議員への質問をお願いする。
　なお、手元に昨年度のふくい高校生県議会で可決された「福井県を元気にするための決議」も配付してあるので、参考にしてほしい。

○野瀬委員　　イベントなどの情報発信についてであるが、私たちの勝山市には恐竜博物館や冬には左義長まつりがある。そのＰＲは駅前などでもよく見かけるが、ポスターなどだけではなく、先ほどの本会議で言われたようにＳＮＳを活用していくと、さらにまちおこしができるのではないかと思っている。その点について、どのように思うか。

○島田議員　　私はＳＮＳなどを余り使ったことがないのでよくわからないものの、ＳＮＳという形態も非常に有効だとは思うが、一番は口コミではないかと思う。まず自分の友達や親戚などに、直接声で広めていくのが一番ではないかと思う。また、県外客へ広めることをよく言われるが、私は地元のイベントにはまず地元の人に来てもらい、そして、少しずつ地元以外の人に来てもらうように広めていくことが一番ではないかと思う。そのように広めていけば、人は結構ふえていくので、費用をかけるだけがよいわけではないといつも思っている。

○斉藤委員長　　今はＳＮＳを結構使って、特に勝山市などは恐竜、県はイベントなどを発信している。ほかにテレビコマーシャルに流すなど、広めていく方法はいろいろと多くある。

○野田議員　　私は、かつてはインターネットでホームページを開いていたが、残念ながら、これは見る人が少なかった。時代は変わって、ＳＮＳ、ツイッターやフェイスブックやインスタグラムなどがあるが、これはかなりの人たちが見てくれる。あるいは、関心のある人たちはみずから検索していると思う。テーマや課題にもよるが、自分が興味を持って見たい内容についてはそうなるのである。このため、ＳＮＳは、今日の行政、政治においても、アメリカのトランプ大統領ではないが、よい悪いは別にして、有効であると思う。だから、これからは、議員は全員、それぐらいの対応ができることは必要であると思う。
　また、極めてオーソドックスであるが、我々議員はよく、住民に集まってもらい県政報告会を開催し、あるいは活動に関する新聞を発行して見てもらうが、これらにもおのずと限界があると思う。
　ただし、私自身の35年間の議員生活においては、知恵やひらめきやヒントなどは、住民との直接の会話の中に全てあり、課題やテーマをきちんと教えてくれることから始まる。それを、いかにうまく自分で再生産したり変換したりしながら、議会で議論するのかが課題であると思っている。

また、執行機関側の職員には、365日、いろいろな機関、団体、市町から、全部の情報が入ってくるが、我々議員のところへは入ってこない。それに立ち向かって議論し、勝つためにはどのようにすべきかについては、我々はいろいろな実体験を持っており、また人から聞いていることが強みであるため、それらをきちんと固め、組み立ててから、執行機関側の職員と議論すれば、これは変えましょうという話になる。このため、我々議員の仕事においては、いかに多くの人と接する機会を持ちながら、住民の中に入っていくのかは大事である。意思疎通、伝達、コミュニケーションにはいろいろな方法があるが、それらと同時に、みずからが積極的に人と接していくことが課題である。お酒を飲んでいるときでも同様であるが、何気ない会話の中にもテーマがある。

私はよく出張をするが、まちはただ歩くのではなく、この歩道はどうなっているのか、この信号の位置はこれでよいのだろうか、この配色でよいのだろうか、この建て方は都市計画全体としてよいのだろうかなどと、365日、見るもの全てが気になる。また、そのような意識を持つことが大切だと思ってみたりしている。

○斉藤委員長　　先ほどの野瀬委員の質問は、ＳＮＳをまちおこしや観光のアピールに、もっと有効に使うべきだという趣旨であったが、使えるものは何でも使ったほうがよいということになるかと思う。

○力野議員　　私もフェイスブックはしている。毎日、自分の記事を載せるというわけではないが、毎日チェックをしている。今のＳＮＳでは、まちづくりに関しては、かなりの記事が上がってくる。まちづくり関係の組織では、ほとんどＳＮＳで情報を発信しているから、大変有効な手段であると思う。どんどんふえている状況であり、これからも多分ふえていくと思っている。

○廣嵜委員　　私は、福井を元気にするためには、福井の強みを生かして、もっと福井を活性化していくということが重要と考える。

まず、私が考える福井の強みは学習の面である。日本では、今、秋田県と一、二位を争っているが、福井県は頭のよい県と言われている。頭のよい県として、高校入試に英検を導入したり、高志中学校が英語で全国８位になったりしたのだと思うが、英語の学力を伸ばすためには、英検による加点などを導入して無理に英語に関心を向けるのではなく、福井県の学生が自発的に意識を向けることが大切であると思っている。

福井県内の自治体の姉妹都市にはいろいろあると思うが、私は中学生のときに福井市のジュニア大使としてアメリカのニューブランズウィックに派遣された。そのときに感じたのは、やはり外国と触れ合うと、さまざまな文化や生活習慣などの風習に触れて、自分の見聞が物すごく広まる。その見聞が広まっているという感覚を体験することによって、自分のさらなる可能性を感じることもできるし、視野も広がり、新たな着眼点を見つけることができると思う。また、そのような体験をすることが、自分の能力を生かしていくことに必要不可欠である。さらに、ニューブランズウィックの近くにはラトガース大学という世界的にかなり有名な大学がある。福井県にはそのような強い魅力を持ったリンク先がたくさんあるにもかかわらず、それを生かしていないところが損をしていると思っている。

例えば、ふくい市民国際交流協会が、週に１回ぐらいのペースでハピリンにおいていろいろな国際事業を実施しているが、そのような事業をハピリンではなく学校などで開催し、生徒と触れ合えば、必然的に生徒たちの意識も変わっていき、視野も広がり、さらには英語への関心も高まる。これから

グローバルの世の中を乗り切っていくには、やはり英語が必要であると思うし、日本一頭のよい県であることは生かしていくべき強みだと思う。
　海外とのリンクをさらに強化して福井県の学生を育てていく案を考えたが、それについて意見をお願いしたい。

○大森議員　　今、ニューブランズウィック市の話があったが、日下部太郎との縁もあり、福井市の中央にはお雇い外国人の記念館もある。国際交流は大事なことであるし、福井県も推進している。福井市が姉妹都市になっているのは、アメリカではニューブランズウィックだけではなく、サンフランシスコの近くのフラトン市もある。また、アメリカだけではなく、中国の杭州市、韓国の水原市とも姉妹都市であり、常に交流している。以前は、県からも職員がラトガース大学へ県費で留学していた。そのような交流も行っているわけであり、決して何もしていないわけではなく、そのようなチャンスは皆さんに提供していると思う。

　ただし、ＡＦＳなどを通じて交換留学生が行くと、今度は来てもらうことになるが、福井県は、留学生の受け入れ体制にはがまだまだ不備がある。ＡＦＳには、ホームステイを受け入れる仕組みがあるが、外国人を１年間受け入れる家庭は、なかなか集まっていないというのが現状である。
　藤島高校や武生東高校では、いろいろな国の留学生をとても受け入れやすい状況であるが、各高校においても受け入れやすい状況をつくってもらい、常に国際化しているとの雰囲気をつくっていかなければならない。外国に行ったときには話せたものの、戻ってくると、話す機会も少ないために会話の能力が余り伸びない。言語は耳がなれなければ、なかなか言葉にはならないため、国際化のチャンスをふやしていくことはとても大切なことだと思う。
　そのためには、企業も経済的なつながりをつくっていく必要がある。県としては、各地にそのようなつながりをつくる努力もしており、今、タイや香港などへ福井県の農産品を売り込むなど、いろいろな活動をしている。香港などアジア圏においても、第２外国語の英語を通じて互いにコミュニケーションをするため、そこで皆さんが活躍できるチャンスはあると思う。今後、中小企業もますます国際化していく必要があるが、一方で、我々は日本語がきちんとできる子供たちも育てていかなければならない。英語でコミュニケーションする、発信するといっても、そのためには日本人が日本のことを一番よく知っている必要がある。今、私もユネスコ協会など国際交流の仕事をいろいろと行っているが、交流していると、日本の習慣や、例えば神社のことなどについては、アメリカやアジアの学生など外国の人のほうがよく知っている。日本の学生は、それを英語で話す以前に、なぜ我々日本人は神社で拝むのかを知らない人たちが結構いることに驚いたことがある。
　そのようなことも含めて、皆さんが求めれば国際化のチャンスはまだまだ多くあるので、ぜひ学校の中でもいろいろな交流の輪を広げて、そこで発信してほしい。

○竹田委員　　福井県というよりも、私が住んでいる小浜市のことになる。イベントや祭りがあるときはお年寄りも含めて人が多く来ていると思うが、イベントや祭りがないときに遊べる場がないという意見がとても多い。小浜市には店が少ないらしく、私の友達の中にも将来は都会の近くなどに移り住みたいという人がいる。若者が多く集える店をつくってほしいとの意見も届いているとは思うが、その点についてはどのように考えているのか。

○力野議員　　都会にある大きなショッピングモールのようなものをつくってほしいとの意見だと思う。ショッピングモールは民間が運営するものであり、資本主義だけで動いているため、採算性を

重視する。だから、イオンモールなども、市場としてそこに採算性があるかどうかだけが出店の基準になっている。これは行政や議会が、あるとよいという同じ意見を持っていても、実現できるかどうかは資本の問題であり、一方、もともとあった店がなくなっていくのも事実である。売り場が広いドラックストアやコンビニがふえたことも、商店街が潰れたり、その店舗が疲弊した原因にもなっている。だから、そのような大きいショッピングモールを誘致することはなかなか難しい。頑張ってつくろうと言うことは簡単であるが、できないことをそのように言うことは、聞く人にとってはストレスがたまるだけだと思うので、現実的な話をさせてもらった。

それならば、解決策はあるのかといえば妙案はない。人口をふやすしかないし、そこにどれだけの商圏が生まれるかにかかってくるため、現在、福井県の中にはイオンモールもアウトレットモールもない。正直なところ、それは田舎ではなかなか厳しい。

私は敦賀市が地元であり、敦賀市は、小浜市よりは大きいが、状況はそれほど変わらず、商業圏は小さい。私も議員になって、議会報告会でいろいろな話をすると、大体お年寄りが多いが、30代の若い人が来てくれたときに、唯一、遊ぶ場所をつくってほしいと言われた。確かにそのとおりだと思った。今の若い人は、夕方仕事終わって行くのが居酒屋かパチンコとのことであり、これは田舎の典型である。

だから、今ほどの意見は本当に重いと思うし、いろいろと考えていきたい。ただし、今、小浜市に若者が買い物に行くところをつくることは非常に難しいと思っている。

○遠矢委員　　中学生のころ日本文化について調べたときに、日本人は外国に比べて伝統を意識し過ぎて新しいことを拒否するというか、受け入れるのに抵抗があるということを、実際に東京都、石川県、福井県のいろいろな町工場を回って学んだ。しかし、今、グローバル化が進んでいる中で、新しいことを受け入れずに伝統のあるものだけをやっていくのではうまく回らない。実際に、今の若者はどんどんガラケーからスマホに変わっていき、本も紙をさわって読むのではなく、指でめくるだけで読める時代になってきている。新しいものをどんどん取り入れている中で、伝統だけを意識していくだけでは絶対に発展しないと思う。

だから今、福井県であれば永平寺の大燈籠ながしなど、もう何年も受け継がれているものは、確かに実際に行ってみるときれいであるし、価値あるものだと思うが、それだけを意識するのではなく、もっと新しいものを取り入れていかなければならないと思うが、何かよい意見はないか。

○大森議員　　クールジャパンという言葉があると思う。伝統的な培われた技術をブラッシュアップして、今度は用途を変えて違うものに利用するということである。今、日本の技術が世界中の意外なところで、そして「Ｙｏｕは何しに日本へ？」という番組にあるように、こんなものと思うような日本の伝統的なものが、逆に海外で大変興味を持たれていることがあると思う。逆に日本人が、簡単に自国の文化や伝統を捨ててしまうのではないかと思う。

私の友人がガソリンスタンドを経営しながら、しょうゆ屋をやってきたが、坂本龍馬も食していたという同じレシピにこだわり続けてずっとやってきた。今、しょうゆ屋のほうがよくなり、300年企業として本業になってきた。

古いものを変えていくことももちろんであるが、クールジャパンのように、いろいろな違う用途に利用することも今は大事ではないかと思う。同じような方法ではだめだと思うが、考え方を変えて、あるいは違う考え方を乗せて、用途を変えていく、その技術を違う方面に生かすことも考えられる。

例えば、燈籠も昔はなかなか溶けなかったが、今は全て水に還元できる素材になっているはずである。その辺は、どんどん変わってきていると思う。
　そのようなことも一度考えてみてほしい。

○斉藤委員長　　皆さんが議論するときに、今、私たちを取り巻いている情勢、あるいは今後どうなるのかという前提条件が一緒でなければ、今ほど発言があったように新しいことや古いことという議論になる。
　例えば、今、グローバル化と言って英語教育を進めているが、例えば、アメリカでトランプ大統領が誕生したこと、イギリスがＥＵから離脱したことは、反グローバリズムの動きである。だからグローバル化と言っても、いつまでもグローバリズムの動きがあるかどうかはわからない。今、全国にマクドナルドなどハンバーガーやコーラなどを扱う店があり、日本のどこのまちも、世界中が一緒になっている。結局、グローバリズムとは国の個性を全て失ってしまうことである。全部ブルドーザーでならしてしまい、グローバル企業の利益のために全部を買い取って支配してしまうようなものである。だから、逆に日本の中の個性を大事にしていく必要がある。
　今ほど言ったように、英語も大事であるが、そのことによって日本語が失われる危険性が非常にある。だから、どんどんグローバル化して浮足立っていくことが本当に発展なのだろうかと、皆で一緒に考えてほしい。経済もここまで成長してくると成熟社会である。限られた地球でもあるし、人間と同じでどこまでも発展していくことはあり得ない。その辺をどのように考えていくのかである。
　だから、生き方の問題も含めて、便利で豊かであることが本当によいのかどうか、これ以上進めばどうなるのかについても、あわせて考えてもらうとよいと思う。

○小林委員　　私が通っている高校の設備が結構古い。例えば、特に１年生の教室がある校舎は数十年前からあるため、壁の塗装が剥がれていたり、３階の水道の水が出ないときがあったり、ほかにも、古いことは関係ないかもしれないがＣＡＩ室のエアコンがつかなかったりする。また、授業のとき以外はエアコンがつかないなど、集中して勉強できる環境が整っていない部分がある。調べてみると、校舎が古い、設備が不十分だというところは、ほかの公立高校にもあるようである。
　その改善などを県議会から何か提案することはできないか。

○斉藤委員長　　どの学校も同じような状況である。その辺については、皆が一所懸命に要望しているが、予算がないとのことである。だから、提案される予算のうち、最優先にしなければならないものを決めることも、県議会の大事な役割である。
　先ほど、店がないとの話があったが、もうからないところ、人口が減っていくところに店ができたりはしない。今後、将来に向けて人口減少社会が顕著になり、店がないから外へ出る、そしてどんどん過疎化していくという時代になる。
　一方では、グローバル化だと言われて、皆が海外へどんどん出ていくことで、なおさら人がいなくなる。勉強ができて、東大や京大を卒業しても、私の同級生は長男でも一人も町に残ってない。しかし、我々はこの福井県の将来を担ってくれる人材が欲しいのであり、どんどん外へ出ていってしまうのでは手の打ちようがない。
　皆さんにも地域の担い手として頑張ってほしいということが我々の思いであり、勉強ができることも本当に大事であるが、今ほど言ったとおり人はどんどん減り、村が１つずつ消え、福井県はだんだん寂れていく。そのような想像をしながら、若い皆さんの知恵を絞って、どうしたらよいかについて考えてほしい。
　なお、そのような学校の設備の問題は、ＰＴＡや地元の県議会議員に言ってほしい。
時間も来ているので、どうしても言いたい内容があれば、発言願う。

○古瀬委員　　少し前に、恐竜博物館の常設展示室がリニューアルしたことを妹に話した。妹が興味を持ってくれたようで、追加された恐竜の名前を挙げてみたら、それは何かと聞かれた。だから、恐竜についてもっと詳しく、恐竜のことに興味が

ない妹でもわかるようにしてほしい。

〇松井議員　　今ほどの話は、よく要望されるため、古瀬委員の意見を取り入れて、恐竜博物館の館長を含めて、我々もしっかりと考えて、恐竜の名前がわからない人たちにもわかりやすい展示とし、また丁寧に教えてもらえるように進めていく。

〇斉藤委員長　　それでは、時間も来たようであるので、「福井を元気にするために」に関する審査は終結する。

これで、本日の審査は全て終了した。

委員会記録の作成については、委員会条例第27条の規定に準じ、私に一任願う。

閉会に当たり、一言挨拶申し上げる。

きょうは一日お疲れさまであった。

先ほども言ったように、今、私たち議員にとってもつらいことは、将来人口がどんどん減っていくことである。先日も夏祭りへ行ったところ、集落単位で神社の前で盆踊りなどをしているが、その集落で小学校へ行っている子供は５人しかいない。私の地元は三国であるが、三国祭りで山車を引くような町内では、小学校へ行っている子供が１人のところもある。当然、女性がいなければ子供は産まれないが、そのような時代がもうそこまで来ている。それに対する解決策は、我々が考えてもわからない。だから、同じ予算を使うのであればと、３人目から1,000万円ずつ支給することを考えなければならなくなってくる。

そこで、若い人を見ると我々も元気になる。それは、このような高校生県議会を開催し、皆さんが自分たちであればどうするかなどの、いろいろな意見を言ってくれると、一緒に考えてくれる、悩んでくれると感じてうれしいからである。

ここにいる皆さんは、学校の勉強で忙しいとは思うが、今後の生き方も含めて、この福井県が元気になってほしい、農業の担い手がどんどん出てきて地域を守ってほしい、工業の担い手が大勢来て頑張ってほしいなどと、関心を持って考えてもらいたい。　そのような面で、きょうの一日が、少しでも皆さんのこれからの役に立てればよいと思っているし、生かしてほしい。

ぜひ、県議会へいつでも遊びに来てほしい。インターネットでは県議会ホームページもある。また、いろいろな意見や、こんなことをしてほしいとの要望はいつでも伝えてほしいと思っている。

以上で、平成29年度ふくい高校生県議会第１委員会を閉会する。

第２委員会

１　日　　　時　　平成２９年８月４日(金曜日)
　　　　　　　　　　午後　２時３５分　開会
　　　　　　　　　　午後　３時３０分　閉会

２　場　　　所　　第２委員会室

３　出 席 委 員　（福井県議会議員）
　　　　　　　　　田村委員長
　　　　　　　　　（高校生議員）
　　　　　　　　　羽水高校　チーム「ハマザクロん」
　　　　　　　　　　田嶋委員、宮田大稀委員、村上委員、田茂委員
　　　　　　　　　福井商業高校　チーム「ジェスター」
　　　　　　　　　　奥村委員、柴山委員、野路委員、水上委員

４　欠 席 委 員　（高校生議員）
　　　　　　　　　福井商業高校　チーム「ジェスター」
　　　　　　　　　　安嶋委員

５　説　明　員　（福井県議会議員）
　　　　　　　　　佐藤議員、糀谷議員、鈴木議員、細川議員、西本恵一議員、清水議員

６　経過及び結果
（１）会議に付した事件
　　　　　　　　　・県議会、県議会議員の活動
　　　　　　　　　・福井を元気にするために

（２）会議の概要　　上記２つの事件について、審査を行った。
　　　　　　　　　　審査の過程における主な発言は、次のとおりである。

○田村委員長　　ただいまから、平成29年度ふくい高校生県議会第２委員会を開会する。
なお、安嶋委員には欠席したい旨届け出があったので、報告する。
また、本日のふくい高校生県議会の当委員会においては、スマートフォン等による写真撮影等を可能とする。なお、着信音は鳴らないよう設定願う。
また、本日の当委員会は自由に傍聴してもらえるので、了承願う。
本日審査する案件については、手元に次第を配付しておいたので、確認願う。
また、質問及び答弁は着席したまま行うので、了承願う。

〔委員長、発言するときの注意事項（マイク操作方法等）について説明〕

○田村委員長　それでは、「県議会・県議会議員の活動」を議題とする。
高校生の各委員より、今回の高校生県議会への参加の動機――各学校からどのように選ばれたのか、例えば生徒会から、先生の指名による、政治に興味があったなど――また先ほどの本会議を終えての感想、今後の抱負などを盛り込んでもらいながら、答弁者役の議員に対して、県議会の活動や県議会議員の活動について聞きたいことを質問願う。
私は、議員になって15年目になるが、14年前に議員になったときに初めて本会議場に行ったが緊張した。皆さんは高校生で、それを体験したというのは非常にすばらしいことだと思っている。

○水上委員　　私が高校生県議会に参加した理由は、将来、大学を出て福井県に帰ってきたいので、福井県のことをさらに知ることができればよいと思ったからである。今回参加して、県のさまざまな政策を決める議会の雰囲気や流れについて身をもって感じることができたことは、とてもよい経験になり、よかったと思っている。
しかし、議会が開かれていないときの議員の活動内容がよくわからないので、教えてほしい。

○清水議員　　福井県に帰ってきてくれることは、非常にありがたい。私もずっと東京で生活していて、31歳のときに福井県に帰ってきた。皆さんは、多分東京にはすごくきらびやかなイメージがあると思うが、生活コストも高く住みづらい面もあり、私は住むのであれば福井県がよいと思い福井県に帰ってきて、今、議員をしている。
正直、私も議員になる前は、議員は何をしているのだろう、議会がないときは何をしているのだろうと思っていた。実際の議員活動は非常に忙しく、最初はボクシングジムと議員を両立できると思っていたが、両立できないぐらいである。
私たちは県民の代表であり、特に私は一番若い議員であるため、若い人の意見を聞くためにさまざまなところに出ている。地元の人たちとコミュニケーションをとり、問題点や取り組んでほしいことについての意見を聞いて、それをどうしていくか勉強することに、議会以外の時間はほぼ使っている。

○細川議員　　きょうの高校生県議会の参加者の半分は女性であったことが一番うれしかった。県議会には女性議員は３人しかいない。私が選挙に出る前は１人もいなかった。ぜひ女性の議員になってほしい。
３カ月に１回定例会が開かれるが、その会期が約１カ月ある。残りの２カ月は、私の場合は、県議会でこのような話し合いをしたという県政報告書、学級だよりのようなものを書いて、新聞折り込みに入れるが、その原稿作成で約１週間かかってしまう。それから、県政報告会を大体二、三カ所開くが、チラシを配布するなど、その準備に

約１カ月間使う。さらに、私は全国災害ボランティア議員連盟をつくり、その事務局長をしているため、災害ボランティア活動に関する事務や連絡などをしていると、あっという間に次の議会が来てしまうので、その準備や調査に取りかかるというサイクルである。
　また、ほかの議員も同じだと思うが、式典の来賓として、祭りなど、さまざまなイベントに声がかかるため土日が最も忙しい。想像以上に忙しく、あっという間に１年がたってしまう。

○宮田(大稀)委員　　今回の参加について、もともと私は人数合わせで入ったようなもので最初は嫌々であったが、きょう来てみて、いろいろと勉強になり、自分の将来のためにもかなり活用できるすごい場だと思った。
　議員はたくさんの仕事をしていると思うが、一番しんどい仕事は何か。

○西本(恵)議員　　私たちの仕事の中には、いろんな人たちの悩み事やこうしてほしいとの要望を聞くことがある。また、私たちも、課題を伝えながら国、県、市町などに要望している。担当部署に行き、皆さんの声をしっかりと反映してもらうように頑張っているのであるが、予算がないなどの理由により、その人たちの要望がかなえられないときが一番つらい。

○佐藤議員　　議員と県民が違う点は、議員は議場や委員会室で直接知事や部長、課長に県民のために質問をして答弁を受けることができることである。これは議員にしかできない。そのためにいろいろと準備をするのであるが、これがある意味ではしんどい。
　高校生県議会の質問が出されて、改めて福井駅の裏通りも含めて歩き、シルバー人材センターが運営している喫茶店があったので、そこで話を聞いた。どうですかとたずねると、「先日、雨が降って雨漏りしてね」との声があった。今の福井駅前商店街周辺では、大きな地震が来たら倒れてしまうような建物が多く、大雪で壊れた店舗もあるなどの課題が非常に多いと思っている。
　安全のためには建物も新しくしていかなければならず、そのために個人負担ができないところは行政の補助をつけなければならない。どのようにすれば、商売をしている人、あるいは一人一人の県民のために役立つ施策を提案することができるのか、ほかの議員の賛同も得て、知事に予算をつけてもらうことができるかが一番しんどいとこであるが、頑張りがいのあるところでもある。

○柴山委員　　私は、高校生県議会に単なる興味で参加させてもらったが、きょう参加してみて、県議会をいつもより身近に感じることができた。
　県議会にすごくかた苦しいイメージを持っていたが、答弁者の議員の中で笑いがこぼれたりした場面があった。いつもそのような感じか。

○鈴木議員　　きょうは、少し特別なところもあったと思う。本会議の中で我々議員が質問席に座って理事者に問いただすときには、真剣勝負になるので、余り笑いは起こらない。逆に、やじや怒号が飛び交うこともある。傍聴者の中には、不謹慎と言う人もいるが、そのぐらい真剣に議論をするので、笑いを誘うような質問は私の記憶の中ではほとんどないと思っている。どちらかというと緊張感がぴりぴり漂うような委員会や、本会議、予算決算特別委員会になる。最近、特に議員の仕事は予算が適切に執行されているかの審査に重点を置いているため、本会議や委員会を傍聴すれば、きょうとは全く違う雰囲気を感じられるのではないかと思っている。

○田嶋委員　　私が高校生県議会に参加したのは、先生からの強い勧誘があったからである。最初は

先生が勧誘するから、とりあえず何となく興味もあるので参加してみようというぐらいの気持ちであったが、今回、本会議などを経験して、なかなか誇らしい自慢できる経験をしたと思っている。
　県議会議員の皆さんは、高校生県議会を通じて私たちにどのようになってほしいと思っているか。

○糀谷議員　　1940年生まれの私にとっては、皆さんは孫の世代であり、その皆さんが、先ほどのように県議会を身近に感じたという第一印象を語ってもらえたことはうれしい。
　高齢者の中にも、比較的、県議会に関心がない人もおり、議員活動の中でそれを埋める努力をしているが、なかなか身近に感じてもらえないのが実態だと思っている。きょう参加したことで、政治は何もかもに影響してくることを少しは認識してもらえたと思っている。
　私たちも若い人の意見を政治に生かしたい。18歳に選挙権も与えられたので、きょうのことを含めて大いに政治に関心を持ってほしい。
　それが、この郷土、ひいては日本の国をよくする第一歩だと思っている。

○西本(恵)議員　　政治と生活は表裏一体であり、生活を変えようとすれば政治を変えていかなければならない。ところが、残念なことに若い人たちは、なかなか政治に関心がないと言われており、それは自分の身の回りの生活に関心がないと言っていることと同じである。きょうの議会の中でも、さまざまな質問があったが、全てが皆にかかわってくることなので、ぜひとも政治に関心を持ち、かかわってほしい。福井商業高校の中に、将来は議員になりたいと言う委員もいたが、ぜひ皆さんも今回の議会を通してそのような感覚を持ってほしい。

○清水議員　　私も政治に興味を持ってもらいたいという思いがある。議員は、何をしているのかわからないと言われるときもあるが、ただ文句を言うだけではなく、福井県にもっと興味を持ってもらいたい。福井県のまちづくりについて、どこがおかしいのかを考えるきっかけとしてもらえたことがうれしい。
　まちづくりは、行政だけでできることではなく、人がまちのにぎわいをつくり出すので、今回をきっかけに福井県に興味を持ち、自分たちの力でまちを盛り上げようという気概を持った世代に育ってほしい。

　きょうも花火大会があり、藤島神社の地域の人がまちおこしをしようと、ことしから祭りを始めているが、そのようなことは非常に大事であり、皆が福井県を盛り上げようとするきっかけになってくれればよいと思う。

○田茂委員　　私の参加動機も人数不足からであったが、今回参加して、議員がすごく格好よく見えたり、雰囲気を味わえたりしたことはよかった。
　自分は理系であるが、現在の議員の皆さんは文系出身者が多いのか。

○西本（恵）議員　　私は理学部の化学科卒である。専攻は放射線化学であり、原子力のトリチウムの熱拡散という三重水素の研究や放射能がどのように劣化していくかについて研究していた。福井県では今、廃炉の問題があるため、ちょうどよいことを勉強する機会があった。

個人的には、大学では経済や文学関係がおもしろかったので、勉強もしたのであるが、自分の目の前にあることをしっかり勉強することが、いろいろな意味で有効になっていく。また、歴史や文学の本にもしっかりと興味を持ってもらい、新聞もしっかり読むことが、社会人になってから、どのような分野へ行っても役に立つ。

理系でも議員になる人が多いと思っているので、ぜひ頑張ってほしい。

○細川議員　　私も理系であり、作文は特に嫌いであったが、議会で制限時間内に話すための文章や報告など、ひたすら原稿書きの作業をしている。理系の人が書く文章は、割と論理的で膨らみがないかもしれないが、それはそれでよいと思う。

恥ずかしい話であるが、私は政治が嫌いであった。学校の教員であり、政治活動をしてはいけなかったので、見てこなかった部分もある。平成16年の福井豪雨災害で災害ボランティア活動をしている中で、防災など社会の問題が突きつけられたときに、ボランティアセンターに何人かの県議会議員が回ってきてくれて、被災者や現場が困っていることを説明したら、その場で県庁に電話をして、このような問題があるから解決してもらえないかと話をしてくれた。議員の仕事は人のためになると感じ、そのような議員を目指したいと思い、今ここにいる。

さまざまな課題の解決を目指すには、文系か理系かは余り関係がないと感じる。

○田村委員長　　ほかに発言はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田村委員長　　ないようであるので、「県議会・県議会議員の活動」に関する審査は終了する。

続いて、「福井を元気にするために」を議題とする。

高校生の各委員より、地域づくりや政治等に積極的に参加しながら、今後の福井県や地元の地域をさらによくしていくアイデア等について、若者としての意見や答弁者役の議員への質問をお願いする。

なお、手元に昨年度のふくい高校生県議会で可決された「福井県を元気にするための決議」を配付してあるので、参考にしてほしい。

○野路委員　　きょう、同じ高校生議員の考えなどをいろいろと聞いていて、お米には「いちほまれ」やコシヒカリなどがあり、福井県が発祥であるのに新潟県に持っていかれているイメージがあり、福井県はアピール力が足りないと思った。

私が考えた案であるが、福井県をもっとアピールするために、若者がツイッターやインスタグラムなどで情報発信することを利用し、福井県のＰＲ動画を募集して、インスタグラムやツイッターに募集した動画をアップして、一番「いいね」が多く集まったものをＣＭに起用する企画がよいと思う。今いるカメラ女子、カメラ男子が、福井県のことをもっと知ってもらおうと、福井県の魅力は何だろう、福井県の一番魅力ある景色はどこだろう、一番よい動画の瞬間は何だろうと考えてつくったものを、ＣＭで見てもらえれば、迫力もあり、突きつけられるものが

大きい。動画にはそのような力があると思う。うまくアピールしていくためにはＣＭなどに盛り込んでいくことがよいと思うので、そのような企画をつくってほしい。

○佐藤議員　　議会で以前提案して、県も乗り出して、フェイスブックやツイッターなどのアカウントを持っているが、それが十分に活用されてない問題もある。外国人観光客を呼ぶためは、普通にＰＲしているだけでは知名度が低ければ負けてしまう。友達など信頼できる人が発信する情報は信頼される。例えば、委員が発信する情報は委員の友達には信頼されるが、私が発信する情報は委員の友達から余り信頼されない。このため、外国人が外国人向けに発信してはどうかと提案したところ、今、県には外国人の臨時職員が配置されて、福井県のさまざまな動画配信も含めたＰＲの仕事をしている。

だから、今ほど言われたようにＣＭや動画などさまざまな手段を使って発信していくとことが非常に大事だと思っている。福井県は、九州ですか、東北ですかとか聞かれることがあるなど、全国的にまだまだ認知度が低い。福井県も大事ではあるが、例えば、永平寺や一乗谷、恐竜博物館などの固有名詞になれば、全国的に非常に有名であり、私の東京の知り合いで何人も恐竜博物館に来ている。

やはり、そのような魅力をテーマとして発信していくことと、今、提案されたように動画も活用することを一体的に行っていけば、広がりが出ると思う。しかし、それはどこの県でも取り組むため、どれだけその輪を広げることができるか、要は委員のような人を福井県がたくさんつくることができるか大事になる。県が単発で発信するだけではだめであり、個人の発信者をふやすことが鍵になると思う。

○清水議員　　先日の議会で、インバウンドに向けて留学生やインターンシップ生を集めて福井県への日帰りバスツアーを企画して、その人たちにＳＮＳで発信してもらってはどうかと発言したが、若者が１日、福井県の観光地を回って、皆で情報発信をしてもらう企画があるとおもしろいと今思った。

私もずっと東京に住んでいて、福井県の発信力のなさ、福井県が東北や九州にあると思われるのが非常に悔しくて議員になったところもあるのであるが、先ほどの「いちほまれ」も名前としてはすばらしいがインパクトに欠けるので、どのようにして全国的に発信していくのかが福井県の課題だと思っている。

そこで、「いちほまれ」のイメージキャラクターに、女子サッカーの澤穂希選手にお願いしてはどうかと提案し、県も乗り気で、いろいろと話を詰めていたが、結局、お金の問題で流れてしまった。私は、来年から、井上尚弥というボクサーや森末慎二氏などの有名人に協力してもらいながら情報発信をしていこうと思っている。

福井県には、よいものが多くあるが、それを発信しなければ意味がないので、皆さんの意見を参考にして、これからも議会で話し合っていきたい。

○鈴木議員　　確かに、ＳＮＳを利用して、フェイスブックやユーチューブ、インスタグラムで情報発信をどんどんしていけばよいと思う。一つの方法としては、有名人を使う方法と、もう一つは、福井県の県民性として自虐的というか、外に向けて自分をアピールすることは余りしないところがあるが、各地域のオピニオンリーダー的な人は外に向けての発信力があり、信用力もあるので、そのような人たちのネットワークをつくり、そのネットワークが外に向けてユーチューブを撮り情報発信をするような仕掛け、環境づくりを、県がイニシアチブをとって進めていく方法がある

と思っている。
　また、高校生の皆さんは、受験勉強などで忙しいときもあると思うが、高校生の中のリーダーにどんどん情報発信をしてもらうことも一つの方法だと思っている。高校生や中学生に情報発信してもらうためのネットワークづくりも行政の仕事ではあるが、できれば皆さんが主導的な立場で情報を広げてもらい、足りないところは行政が協力していくことが一番の理想だと思っている。

○西本（恵）議員　　野路委員の提案はすばらしいと思う。今の子供たちは、将来何になりたいかとたずねるとユーチューバーになりたいとの声もある世代である。県で賞金を設けてユーチューブで福井県に関する特定のテーマで紹介してもらうなど、高校生に福井県をアピールしてもらうきっかけづくりをして発信していくこともよいと思った。

○田村委員長　　議員も福井県はＰＲ下手であると認識している。福井県は幸福度ランキングが全国１位であり、それを県も発信しているが、県民自身も幸福度とは何だろうとなかなか実感してない。さらに魅力度が低いことも難点だと感じている。

○奥村委員　　高校卒業後も福井県で暮らしていきたい。福井県は共働き率が全国トップクラスであることはすごいと思うが、どのような政策からトップクラスの実績を得ているのか。また、女性がもっと子育てをしやすい福井県にしてほしいと思うので、それに対する政策はどのようなものがあるか。

○細川議員　　幸福度日本一のランキングは、項目が60ほどあるが、生活全般をあらわしているものではない。魅力の面や交通の不便さなど、だめなところはたくさんあり、有頂天にならずに、足りないところはしっかりと直していかなければならない。
　共稼ぎ率ナンバーワンは、働くことで生きがいを感じるという点では女性にとってよいのであるが、子供ができて、子供を育てるという点においては非常に厳しいものがある。福井県は三世代同居率も高く、私も共稼ぎで子供が３人いたが、ほとんど祖父母が育ててくれた。祖父母と同居していない場合は、家事の負担は非常に重かったりする。それをどう補っていくかについては、三世代同居もだんだん減ってきているので、女性の課題は実は多い。
　女性の立場から見た社会問題をもっと議会で訴えていくよう、女性議員もふやしたいし、議場に出てくる理事者の中に女性がふえるとよいとも思う。このような社会問題に関心を持ち、環境をよくしていくために闘う女性もたくさんいてほしいと思っている。
　これからも女性の問題に関しては一所懸命取り組み、頑張っていきたい。周りを見ていて感じたことがあったら教えてほしい。とにかく、多角度から見て意見を出し合っていくことが一番よいと思っている。

○鈴木議員　　共働き率が全国１位ということは、幸福度の指標にもなっており、共働き率が高いほど幸福度が高いことになっているが、福井県の女性たちが自分の仕事や夢の実現などのために働いているのであれば、幸福度は高いと思う。しかし、生活がなかなか厳しいと現実の大きな課題に直面して働いているのであれば、それが幸福度につながっていくのかは疑問だと思う。
　女性が自己実現のために働いているのか、そのような意識調査は今までしたことないと思う。本来であれば、意識調査をしっかりとした上で、共働きしている７割近くの人が働きたくて働いているのであれば、今までの政策はそれなりに功を奏していると思うが、逆に３割ぐらいの人は働いているが自分のしたい仕事ではない、また働きたくないが働いている人がいるのであれば、そのような人たちの意に即する政策が必要だと思う。
　そのようなことから、福井県の女性が働き者だけで済ますわけにはいかないし、逆に男性が意識を変えていかなければ、そういうところにはなかなか気がつかないと思うので、女性にはどんどん意見を言ってもらえればよいと思っている。

○田嶋委員　　福井県のホームページや、たまに夜に流れる永平寺の広告など見ていると、とても真面目な感じがする。魅力を伝えるために真摯になっていることはとても伝わるが、それだけでは47ある都道府県の中で勝負していくことは少し難しいと思っている。選挙権が18歳に引き下げられたときに、東京で流れたＣＭのようなものが、かなりおかしくてユーモアがあり、今でも強いインパクトが残っている。福井県が持つユーモアも、自虐も生かしていけばよいと思っている。

○田村委員長　　今は、動画ソフトの性能もすばらしく、誰でも撮ることができる。他の都道府県で実施しているかわからないが、先ほど野路委員が言われたように、若者の感性で何らかのコンテストをしてはどうか。

○細川議員　　委員が遊びがないと言うことは、よくわかる。
　政策としてさまざまなこと行うときに、若く、また部下である職員が考えを出しても課長、部長と話が上がるにつれて、もしかしたら薄まるのかもしれない。
　若者や女性が言う意見を拾うことに、福井県は対応できていない気がする。若者の遊びが入った意見や女性の意見を施策に反映できれば、もっと魅力的になるかもしれない。

○鈴木議員　　真面目なＣＭを流しているのは、私が住んでいる永平寺町である。40歳代の若い町長であり、それなりに工夫を凝らして、ぎりぎりのところまでやわらかくしているつもりでいるようであるが、ＣＭの内容は相当かたいと私も思っている。
　今ほど細川議員も話したとおり、若い職員から出てきた意見でそのままＣＭに流せば、よいＣＭができると思うが、予算などの課題があるため、その意見は課長や部長、大きなＣＭになれば知事まで話が上がるため、だんだん内容がかたくなっていく。以前、若い職員だけでプロジェクトチームをつくり、上司が一切手をつけずに、そのチームが出した政策やＣＭをそのまま実行したほうがよいと言ったことがあるが、責任は上司がとらなければならない。若い人の豊かな感性でできた政策やＣＭなどが表面に出ていかない行政としての宿命がある。
　先ほども言ったが、それを打ち破ることができるのは皆さんであり、余り行政に頼らずに自分たちがインスタグラムやユーチューブでどんどん流してもらい、それがどんどん広がっていけば、行政もそれにつられて少しずつやわらかくなっていくことができる気がする。

○清水議員　　本当に言われているとおりであり、遊び心がないと思っている。他県では遊び心を出しているところもある。佐賀県では、ゲームソフトの「ロマンシング　サガ」とかけて「ロマ佐賀」と言っているし、九谷焼などもゲームソフトとタイアップしている。今ほど細川議員、鈴木議員も言ったように、少しでも遊び心が出るように皆さんからの声をいただきたい。
　ぜひ、皆が福井県に誇りを持つことができるように、足りないところは私たちが補っていかなければならないと思っている。

○田村委員長　　ほかに発言はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田村委員長　　ほかにないようであるので、「福井を元気にするために」に関する審査は終了する。
これで、本日の審査は全て終了した。
委員会記録の作成については、委員会条例第27条の規定に順じ、私に一任願う。
閉会に当たり、一言挨拶を申し上げる。

本当に貴重な時間をもらい感謝申し上げる。
きょう参加した動機はいろいろあったと思うが、今回の高校生県議会に参加してよかったとの声も聞くことができて、よかったと思っている。
また、議員は何をしているのかとの質問もあった。西本恵一議員が言ったように、政治は生活と一体であり、世の中をよくするのも悪くするのも政治だと思う。ただし、その政治がわかりにくいことも事実だと思っている。
それから、今回のことで政治家になってみようと思った人もいると思うが、政治家は、理系ではだめと、この人でなければなれないなどということはなく、誰でもなることができる。皆考え方が違い、いろいろな感性があるからである。ただし、政治家の活動には政治活動と選挙活動があり、これらは表裏一体である。
選挙とは、人に自分の名前を書いてもらう戦いである。何千人もの人に自分の名前を書いてもらうことは非常に重い。選挙に当選しなければ、議会でいろいろなことを訴えることができないし、県民の声も聞くことができない。その意味では、重い仕事だと議員は思っている。
どうか、皆さんに政治家も目指してほしいと思うとともに、政治家でなくても政治にかかわってほしい。自分がよいと思う政治家を応援し、これはおかしい、こうしたほうがよいと言うことができる身近な政治家を一人でもつくり接してもらうようお願いしたい。
また、いろいろなところで顔を会わせたら声をかけてほしい。
以上で、平成29年度ふくい高校生県議会第２委員会を閉会する。

第３委員会

１　日　　　時　　平成２９年８月４日(金曜日)
　　　　　　　　　　午後　２時３６分　開会
　　　　　　　　　　午後　３時２８分　閉会

２　場　　　所　　第３委員会室

３　出 席 委 員　（福井県議会議員）
　　　　　　　　　仲倉委員長
　　　　　　　　　（高校生議員）
　　　　　　　　　鯖江高校　チーム「えーじshining」
　　　　　　　　　　澤﨑委員、山本委員、原委員、森松委員、向瀬委員
　　　　　　　　　科学技術高校　チーム「桜仙」
　　　　　　　　　　髙島委員、宮田大地委員、佐藤委員、千木良委員

４　欠 席 委 員　　なし

５　説　明　員　（福井県議会議員）
　　　　　　　　　山本芳男議員、山岸議員、大久保議員、西畑議員、中井議員、井ノ部議員

６　経過及び結果

（１）会議に付した事件
　　　　　　　　　・県議会、県議会議員の活動
　　　　　　　　　・福井を元気にするために

（２）会議の概要　　上記２つの事件について、審査を行った。
　　　　　　　　　　審査の過程における主な発言は、次のとおりである。

○仲倉委員長　　ただいまから、平成29年度ふくい高校生県議会第３委員会を開会する。
　なお、本日のふくい高校生県議会の当委員会においては、スマートフォン等による写真撮影等を可能とする。なお、着信音は鳴らないよう設定を願う。
　また、本日の当委員会は自由に傍聴してもらえるので、了承願う。
　本日審査をする案件については、手元に次第を配付しておいたので、確認願う。
　また、質問及び答弁は着席したまま行うので、了承願う。

〔委員長、発言するときの注意事項（マイク操作方法等）について説明〕

○仲倉委員長　　それでは、「県議会、県議会議員の活動」を議題とする。
　高校生の各委員より、今回の高校生県議会への参加の動機や、先ほどの本会議を終えての感想や今後の抱負などを盛り込んでもらいながら、答弁者役の議員に対して、県議会の活動、県議会議員の活動について質問や意見をお願いする。

○髙島委員　　私は高校生活でいろいろなことに積極的にチャレンジしようと思っており、この話をもらったときに参加しようと思った。高校で生徒会長もしているので、本会議ではそれほど緊張することはなかった。また、県議会議員をより身近に感じるようになった。

○宮田(大地)委員　　私は、ふだんの生活の中で、不便に感じていること、改善したほうがよいと考えていることを伝えようと思って参加した。感想としては、質問で時間が限られており、うまく伝えられなかったので、求めていた答えがもらえず、もう少しうまく質問が書ければよかったと思った。

○山本委員　　私が参加した理由は、先生に勧められて参加してみようと思ったからである。感想として、質問をつくるときにいろいろな資料を集め、調べたことなどで、福井県のことを今まで以上に知ることができたのでよかった。

○原委員　　私が参加した動機は、先生に参加してみないかと言われて興味本位であった。
　本会議を終えての感想は、自分と同じような意見を持った高校生や、違う意見を持った高校生もいて、たくさんの話を聞けたことがよかった。

○大久保議員　　お疲れさまであった。
　県議会では常にこのような議論が行われている。皆さんの学校生活のことなど、生活の全てが政治の中にあるので、そのことも念頭に置いて、疑問は投げかけてもらいたい。我々が知らずにいることが後から一番困るので、思いつくことはいろんなところで発言をしてもらいたい。

○佐藤委員　　本会議を終えての感想として、まず質問をつくる際に議員からアドバイスをもらってまとめたが、自分の言いたいことを文章にまとめることが大変であった。実際に演壇に立ってみると頭が真っ白になってしまい、自分で何を言っているのかと思ったりもしたので、もう少し練習をしておけばよかった。

○千木良委員　　参加動機は、先生に勧められたからであるが、きょう参加してみて、議員がどのように会議をしているのかがわかり、非常に勉強になった。しかし、登壇をして、いざ質問をする際は非常に緊張して、原稿は持っていたものの、どこまで読んでいるのかがわからないときがあった。

○井ノ部議員　　お疲れさまであった。
緊張しているようには見えなかったが、心の中はどきどきしていたのだと思いながら今ほどは聞いていた。

質問づくりのときにいろいろな意見を聞かせてもらったが、皆さんは謙遜するものの、高校生らしいすごく純粋でストレートな疑問と思いが質問に出ていたので、非常によい質問だったと思っている。
また、思うような答えが返ってこなかったとの感想もあったが、我々もそのようなことが多々ある。そのような場合は何回も繰り返して、質問や要望をぶつけている。これからも県議会に注目してもらうとともに、18歳から得られる選挙権も含めて、いろいろなことで社会にかかわっていくようにしてもらいたい。

○山本(芳)議員　　本会議には出席できなかったけれども、この委員会で皆さんにお会いできて、うれしく思っている。

先ほどから感想を聞いていると、本会議の質問で言いたいことを言えなかったとのことであるが、緊張をしているから、それは当たり前であり、なれることが一番大切だと思っている。
また、実際には地域や福井県の経済などの問題について本会議で質問し、理事者側から答弁がある。委員会も同様である。きょうは、そのうちの一つの委員会であり、県民が思っていること、行ってほしいことなどを取り上げて質問をするわけであり、それが福井県に反映すべきかどうかを話し合う場である。
また、議員としては、地域からのいろいろな要望に対して、曜日を問わず、現場を見たり、また要望者と一緒になって要望したりする活動を行っている。
きょう、高校生県議会において参加したこと、学んだことが一人一人の大きな財産となると思うので、それをこれからも生かしながら学校生活で頑張ってほしい。

○仲倉委員長　　ほかに発言はあるか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○仲倉委員長　　ないようであるので、「県議会、県議会議員の活動」に関する審査は終結する。
次に、「福井を元気にするために」を議題とする。
高校生の各委員より、地域づくりや政治等に積極的に参加しながら、今後の福井県や地元の地域をさらによいものとしていくアイデア等について、若者としての意見や答弁者役議員への質問をお願いする。
なお、手元に昨年度のふくい高校生県議会で可決された「福井県を元気にするための決議」も配付してあるので、参考にしてほしい。

○髙島委員　　鯖江市のＪＫ課のような活動を福井県全体で行ってはどうか。

○大久保議員　　今ほど言われたような鯖江市長の新しい分野への取り組みについては私どもも非常に好感を持っており、これからはそのような取り組みが必要ではないかと思っている。全国的にもかなり有名になってきているが、これを進めていく上で、福井県ではどうか、国ではどうかについて今後検討していく必要がある。

○中井議員　　きょう、小堀議員の答弁の中で若狭高校出身の若新雄純氏の名前が出ていたが、ＪＫ課についても、若新雄純氏がサポートしているらしい。あのような取り組みを広げていくためには、それぞれの地域でそのような仕掛けをしてくれる人を探すことも一つの手ではないか。

○原委員　　今、フェニックスまつりなどの大きな祭りを福井市内で開催しているが、大きなイベントを、福井市だけでなく、もっといろいろな場所で開いていけばよいと思っている。

○井ノ部議員　　皆は交通が不便だと言うけれども、一極集中は東京だけで起こっているのではなく、福井県内でもほかの地域と比べると福井市が整っているのかもしれない。だから、地域の大きなイベントや昔から伝わっている祭りを全県または全国の人にもっと知ってもらうように、地元の人が情報を発信するなど、それこそ皆さんのような若い人たちがいろいろな働きかけをしながら地域の取り組みを応援する仕組みを、県としてもっと取り組むとよいと思った。
　また、きょうは観光のことを多くの人が指摘していたと思う。外国人観光客をふやすために、ＳＮＳなどを使ってもっとＰＲすべきだとの提案を受けたが、これは地元からも行うことができる。誰かが与えてくれる、県がしてくれることを待つだけではなく、地元にあるものを皆で盛り上げていくこともぜひ考えてもらえればよいと思った。

○宮田(大地)委員　　福井県は越前和紙や漆器が有名である。しかし、若者からすれば、そこまで興味があるわけでもない。例えば、「ちはやふる」というアニメがある。日本のアニメのクオリティは非常に高く、それに乗じて百人一首が広まった。そこで、若者の好きな形にすることも大切なのではないか。

○山岸議員　　福井県の伝統産業も若者の感覚で広めていくという、我々が考えもしなかった意見を受けた。
　福井県の伝統産業は、丹南地域に特に集中している。なお、大野市、勝山市には伝統産業はほとんどない。丹南地域の伝統産業を守り育てるという観点からは、若者にぜひとも関心を持ってもらわなければ守っていくことができず、より発展することもない。だから、今ほどの意見を貴重な提言と受けとめて、今後、議会の中でもその方向を見据えてしっかりと議論をしていきたい。また、若者が地元に定着できるような知恵を出し合っていきたい。

○中井議員　　越前和紙をノートに使ってもらいたいと、つるつるの紙を開発した人がいる。現物を見せてもらったが、透かしが入っていてすごくよいと思った。ただし、値段が少し高くなるので、高校生が購入するには躊躇してしまうかもしれないが、多くの人に使ってもらうことでコストも安くなるので、双方の協力が必要だと思う。

○髙島委員　　私は、鯖江市から自転車で広域農道を通って通学している。武生や鯖江方面から福井市に向かうには越前町寄りの交通網が全くないため、冬に雪が降ると、家からバス、電車、バスと乗

り継いで学校に行かなければならないため、越前町寄りの交通網をもう少し充実してほしい。

○大久保議員　　自転車であれば、真っすぐ行けばよいが、冬場は大変だと思う。路線バスの旅というテレビ番組を思い出したが、市あるいは県をまたぐ場合には、意外と路線バスがつながっていない。今回の場合も、福井市ではあるものの、旧清水町のほうを回って行くルートがないため、今後検討していくべき課題である。

○仲倉委員長　　広域農道を毎日通っているのか。

○髙島委員　　毎日通っている。

○仲倉委員長　　広域農道全体に歩道はついているのか。

○髙島委員　　ついていない。

○仲倉委員長　　ついてないところは危ないのではないか。

○髙島委員　　いや、そのような感覚はない。

○仲倉委員長　　あの路線は農業振興を目的として整備したため、生活者の通勤・通学の利便性を踏まえた道路の規格になっていない。そのため、歩道のないところも恐らく多いと思う。実は、今、その路線を県道に昇格させて、道路の厚みなど規格を改良し、しっかりとした構造にする計画がある。
　ところで、学校まで大分遠いのではないか。

○髙島委員　　13キロメートルある。

○仲倉委員長　　必ず体力がつき、精神的にも強くなるので、頑張ってもらいたい。

○山岸議員　　先ほどの本会議で千木良委員と佐藤委員から幸福度について質問を受けたけれども、日本総合研究所が５つの基本指標と60項目によるランキングを出しており、福井県がトータルで１位となっている。
　ただし、言われるように福井県民が幸福だとは感じていない実態がある中で、この幸福度ランキングについて、皆さんはどのように思っているのか。
　何でも言ってもらえれば、我々議会から理事者に提言し、直せるところは直していきたいので、率直な意見を聞かせてほしい。

○向瀬委員　　私も、正直幸せだと思っていない。

○山岸議員　　それでは何が足りないのか。具体的に何か感じることがあるか。

○向瀬委員　　交通の面である。

○森松委員　　私は、幸福度ランキングが１位と感じたことは余りない。向瀬委員と一緒であり、池田町から通学しているので、もう少し交通の便がよくなるとよいと思っている。

○仲倉委員長　　幸せという人が案外いるかもしれないので、１人ずつ意見を聞いてもよいか。

○原委員　　私も余り幸福度が１位と感じたことはない。私も池田町から車で通っているが、バスの運行本数が少なく、最終電車の時刻が早く、時間に余裕がないので、もう少し交通の便がよくなるとよいと思っている。

○山本委員　　私も幸福度が１位とは余り実感していない。その理由は、私は旧武生市であるが、遊びに行くショッピングセンターなどが限られており、福井市まで出てくることが多いからである。そのため、商業施設を福井市内にだけ集めるのではなく、もう少しいろいろなところにふやしてほしい。

○澤﨑委員　　私は人混みが余り好きではなく、自然豊かな田舎が合っていると感じており、自分としては幸せである。

　しかし、インスタグラムなどで、おいしそうなパンケーキなどの写真を見たとしても、それは都会でしか食べることができないし、おもしろそうと思った店やテーマパークは都会にしかない。そこで、行きたいと思っても交通が不便であるため、行くことが煩わしく感じたりもする。

○髙島委員　　福井県が幸福度ランキング１位との報道を見たときに、どこが１位なのかと思った。遊べるところが余りなく、ボウリングをしようにも周辺では鯖江市に１カ所あるだけである。スポーツやゲームなどが１日楽しむことができる石川県にある「ラウンドワン」のような施設が、福井県に一つでもできるとよいと思っている。

○宮田(大地)委員　　私は８割程度満足しているが、文化に関する項目の順位が低いことが気になっている。

○佐藤委員　　本議会でも発言したとおり、私は幸福だとは余り思っていない。60項目のうち、福井県は待機児童率の低さや老人ホームの待機者数の少なさなどについては上位であり、実際に自宅近くの老人ホームはあきがあり、入れずに困っている人が少ないことはよいと思う一方で、入居にも費用がかかるので、工面できずに入れない人が多いためにあきがあることも考えられるので、そのようなことがないよう、きちんと確認してほしい。

○千木良委員　　私は大阪出身であり、福井県に引っ越してきた。大阪では地下鉄を含む電車を利用することができるが、福井県では車がなければ生きていけない。私の家は車を所有していないので、職場見学に行きたいと希望していた遠方の企業への訪問も諦めなければならないこともあった。福井県に来るまでに何が有名かもわからず、福井県に来て初めてソースカツ丼などを知った。大阪と比べて遊ぶところも少ないので、大阪よりも暮らしにくいが、自然が豊かなところはよいと思っ

ている。

○仲倉委員長　　高校生委員からの意見に対して総括願う。

○山岸議員　　我々議員とほとんど同じような意見をもらった。我々も満足している人はほとんどいない。

今、皆さんの意見を聞くと、自分が幸せだと感じるのは、生活がしやすく、交通の利便性がよく、遊ぶところもあることのようである。ただし、これだけ資本主義社会が発達すれば、皆さんもお金を払ってバスに乗っているが、実際バス会社はもうかっていないし、もうかっていないから便数もふやすことができない現状がある。

東京の地下鉄は一区間が170円でももうかる。地下鉄は新幹線よりも費用がかかるものの、新しい地下鉄がどんどんできていく。東京はそれだけ人口が多いのであるが、それで車に乗ると渋滞するため、公共交通が発達せざるを得ないこともある。だから、200円も出せば、自分の遊びたいところへ行くことができる。

福井県の交通の現状について、「高速交通開通アクション・プログラム」の中で、中部縦貫自動車道が全線開通するとインターチェンジができ、新幹線が開通すると駅ができることになっている。そこからの二次交通の利便性をよくしようと検討しているが、採算が合わないことはバス会社が対応してくれない。対応してくれないから非常に交通が不便となり、そのようなところには住みたくないため、都市部へどんどん出ていく。県外に出た大学生は３割弱しか地元に戻ってこない現状がある。だから、我々議員は今、皆さんに少しでも幸福度を感じてもらうようにするために、福井県の人口をふやさなければならないと考えている。

そのための国の機関の地方への移転、企業の本社機能の移転については、国会議員はその権利を行使できることから、その気になれば政治が解決できるので、本県も要望はしているものの、地方のほとんどの県が同じような要望をしている。一方、特に人口が減っていく地域については、国は地方を元気にするための予算も削るとさえ言ってきている。

そこで、福井県もＵ・Ｉターンをさらに促進させて、若者にできるだけ戻ってきてもらうため、ふるさとづくり、まちづくりをしていかなければならないと思っているが、成果がそれほど上がっていない。昨年度のＵ・Ｉターン者は五百何十人であったけれども、まだまだ足りない。

議会でも、これをやればよいという虎の巻はない。県外企業も誘致しているが、今は一つの企業が誘致できたとしても何百人も雇用するような企業はない。ＩＴに加え、これからはＡＩ、ＩｏＴを活用する時代であるから、ほとんどの作業をコンピュータが管理し、ロボットが行うため、人手が要らない。

このような状況であるが、きょう、皆さんから福井県にまだまだ幸福度を感じることができる状況にはないことがよくわかったので、皆さんの要望に少しでも応えられるように頑張っていきたい。恐らく、皆さんはまだ選挙をしたことがないと思うが、18歳になると選挙権が付与される。福井県のこれからについてしっかりと説明してくれる候補者に１票を投じるようにすれば、自分のまちがよくなっていくと考えてほしい。我々も頑張るので、ぜひいろいろな面で政治に参加してもらいたい。

○西畑議員　　私にも高校生の孫がいるが、孫たちも幸せではないと言っている。一番の理由は遊びに行くところがないことである。若いアイドルのコンサートは、福井県内では余り開催されないため、東京までは行けないものの、金沢、名古屋、大阪までは出かけて行き、楽しかったと言って帰ってくる。多分、たまに行くことが幸せなのではないかと思う。

先ほど宮田大地委員が文化について言われて

いたが、福井県にも美術館や博物館があるけれども、規模が小さく、物足りないためにそのように言われたのではないかと、文化施設も遊ぶところも満足できるように政治を進めることは難しいと思いながら、聞いていた。
　私のところは農家であるから、農業ができなければ生活にならない。先ほどの本会議において農業は今からだと答弁したのは、ドローンなど無人の機械を動かすことで、こうして座っていても農業ができる時代が到来しつつある、それが皆さんのほん近くの未来にあるので、我々も若い人たちと一緒に考えながらやっていかなければならないと感じたからである。きょうはよい勉強をさせてもらったと思っている。

○仲倉委員長　　先ほどから、いろいろな意見をいただいた。幸福度をどのように評価するかについて、生活全般、特に生活インフラがまだ不足をしているとの指摘があった。もう一つは余暇時間の使い方について、選択肢が非常に少ないとの指摘をもらった。いずれにしても、それらの問題を突き詰めていくと、人口減少という大きな壁にぶち当たってくると思っている。

　先ほど山岸議員からも話があったけれども、人がいなければ、そこに経済も生まれない。経済が生まれなければ、そこに税収も生まれない。税収が生まれなければ、住民へのサービスも確保できない。そのような負のスパイラルが人口減少の中に埋もれているけれども、皆さんが大学でしっかりと勉強し、そして地域にまた戻って、地域を担う人材としてこれからますます頑張ってもらうことが、それらを払拭し、その地域がさらによいほうへ向かっていくための一つの方法だと思っている。親が元気なうちは都会で頑張りたい人も多いであろうが、この地域を愛して、自分たちがよくしていくとの気概を持って、これから勉強やスポーツをさらに頑張ってもらいたい。
　私たちも大いに期待しているので、何か困ったことがあったら、ここにいる大勢の先輩に、ぜひとも声をかけてもらいたい。
　きょうはありがたく思う。
　それでは、「福井を元気にするために」に関する審査は終結する。
　これで、本日の審査は全て終了した。
　委員会記録の作成については、委員会条例第27条の規定に準じ、私に一任願う。
　以上で、平成29年度ふくい高校生県議会第３委員会を閉会する。

第４委員会

１　日　　　時　　平成２９年８月４日(金曜日)
　　　　　　　　　　午後　２時３４分　開会
　　　　　　　　　　午後　３時３５分　閉会

２　場　　　所　　第４委員会室

３　出 席 委 員　（福井県議会議員）
　　　　　　　　　田中宏典委員長
　　　　　　　　（高校生議員）
　　　　　　　　　若狭高校　チーム「ターヘル・アナトミアーズ」
　　　　　　　　　　今川委員、岩崎委員、梶川委員、清水委員、玉井委員
　　　　　　　　　福井高校　チーム「ひまわり」
　　　　　　　　　　松村委員、池田委員、片山委員、津々見委員

４　欠 席 委 員　　なし

５　説　明　員　（福井県議会議員）
　　　　　　　　　石川議員、山本正雄議員、田中敏幸議員、小堀議員、辻議員

６　経過及び結果

（１）会議に付した事件
　　　　　　　　　・県議会、県議会議員の活動
　　　　　　　　　・福井を元気にするために

（２）会議の概要　　上記２つの事件について、審査を行った。
　　　　　　　　　　審査の過程における主な発言は、次のとおりである。

○田中(宏)委員長　　ただいまから、平成29年度ふくい高校生県議会第４委員会を開会する。
　なお、本日のふくい高校生県議会の当委員会においては、スマートフォン等による写真撮影等を可能とする。なお、着信音は鳴らないよう設定願う。
　また、本日の当委員会は自由に傍聴してもらえるので、了承願う。
　本日審査する案件については、手元に次第を配付しておいたので、確認願う。
　また、質問及び答弁は着席したまま行うので、了承願う。

〔委員長、発言するときの注意事項（マイク操作方法等）について説明〕

○田中(宏)委員長　　それでは、「県議会・県議会議員の活動」を議題とする。
　高校生の各委員より、今回の高校生県議会への参加の動機や、先ほどの本会議を終えての感想や今後の抱負などを盛り込んでもらいながら、答弁者役の議員に対し、県議会の活動、県議会議員の活動について質問や意見をお願いする。

○岩崎委員　　今回、高校生県議会に参加し、かなり緊張したが、議員から詳しく答弁してもらい、いろいろと疑問に思っていたことがわかったのでよかった。

○池田委員　　先ほど「いちほまれ」の宣伝について質問し、そのときの答弁では、国体の選手に「いちほまれ」を振る舞って宣伝するとのことであったが、「いちほまれ」は、たくさん振る舞えるほどの生産量があるのか。

○山本(正)議員　　今年度はモデル的に生産して、来年度から本格的な生産が始まる。しかも、今年度の「いちほまれ」は、ほかの都道府県では一切生産せず、福井県のみでの生産となる。国体に間に合うよう十分な量は準備できていると思う。

○今川委員　　議員として、やりがいを感じるのはどういうときか。

○石川議員　　毎日、地域住民の声を聞きながら、それを県政に届けて、住民に応えるという、責任がある仕事であり、やりがいのある仕事である。住民に納得してもらい、「ありがとう」という言葉をもらうことが大変うれしく感じる。それで、今、県議会議員を続けさせてもらっていることに感謝している。委員も県議会議員になれるよう努力してほしい。

○山本(正)議員　　私は学校の校長をしていたが、途中で退職し、福井県の教育をよくしたいとの思いで県議会議員に立候補させてもらった。それで、福井県の教育条件を皆さんが勉強しやすいようにするため、各小中学校を少人数学級にしたいと考えていた。皆さんの場合は、中学校は１学級当たり30人から32人、小学校は１学級当たり35人から36人だったと思う。
　国の基本方針では40人学級になっているが、40人で勉強するよりも30人で勉強したほうが先生の目が行き届いて、丁寧な教育ができる。ほかの県は40人学級のところを、福井県は30人から35人の学級であり、ほかの県より教員を多く採用するための人件費として35億円ぐらいが必要になるとのことであったが、これを知事に提案したところ、知事は了承した。福井県独自に先生の人数をふやして、丁寧な教育をしてもらっている。そのような夢が実現できてうれしく思っている。皆さんも頑張ってほしい。

○田中(敏)議員　　今、社会情勢もいろいろと変わり、例えば、原子力発電や新幹線など、それぞれの時代に応じた課題があり、それに対して行政を進めていくに当たり、自分の考えていることが実行できたときにはうれしいと思うし、議員をしていてよかったと思う。また、地域における課題についても、道路に対する要望など、住民からいろいろと言われたことを行政側に届けた結果、地域が変わっていくことに非常にやりがいを感じており、うれしく思う。

○辻議員　　私は３年前の選挙で初めて県議会議員になった新人であり、いろいろと勉強しているところであるが、地域や各地には困っている人がたくさんいると感じている。例えば、農山村地域では、イノシシ、猿や鹿などの鳥獣害に困っている人たちがいる。また、障害を持った人とその両親はさまざまな不安を持っている。それから、長時間労働が今大きな問題になっているけれども、働く人たちの中で厳しい状況に追い込まれている人たちもいる。そのような人たちの声をきちんと聞いて、県議会の場で取り上げていくことを考えている。

大きな県の組織の中にはいろいろな政策があるので、改善を主張しても、すぐに変えていくことは難しいが、そのために我々議員はさまざまな調査をしている。今、新聞などで政務活動費はいろいろと騒がれているけれども、我々議員は真面目に政務活動をしており、福井県内や県外、いろいろなところに出て調査している。そして、それらを一つの材料にしながら、今度は知事を初め、県の職員と議論するのがこの県議会という場になる。そのようなことを繰り返しながら、少しずつ改善されていく、そのときにやりがいを感じる。そして、まだ困っている人たちがいるので、その人たちの声を聞きながら、これからも頑張っていきたい。

○小堀議員　　私は町議会議員から県議会議員になったけれども、まず予算で取り扱う金額の桁が違うので、仕事もそれだけ責任が重くなったと感じている。

先ほどの本会議でも答弁したように、先人たちが命がけでいろいろなことをやってきて、私もこれから一所懸命頑張っていきたい。

○田中(宏)委員長　　私も高浜町議会議員を務めて、その前は高浜町役場の行政の職員として、まちづくりについてずっと考えてきた。地域の課題はたくさんある中で、県議会議員となって、県議会の場でその課題についてしっかりと発言できるようになり、一定の影響力が出せるようになったと思っていて、その点で大変やりがいを感じている。

また、このような立場でなければ、高校生県議会の前に母校である若狭高校へ行って、皆さんに自分の考えていることを伝えることもなかったと思うし、まず違う年代の皆さんといろいろな話ができるようになったことが議員として一番楽しいと思っている。

21世紀を担う子供たちのためになればと思い、1999年に出馬して、今ようやくそれを実現していくことができているので、今すごくやりがいを感じている。この中からもそのような人たちが出てきてくれるとうれしいと思う。

○石川議員　　私も市議会議員を１期４年間務めて、県議会議員は６期目であり、26年間議員を務めていて、特別に休んだことはない。今の若い県議会議員は非常に勉強しているし、いろいろと深い考えも持っている人ばかりであるので、私のような年寄りがいつまでもいるわけにはいかない。しかしながら、やはり議員になった以上は１分でも時間を無駄にせず、地域のために懸命に働くことが一番大事である。

きょうの皆さんの質問は、急所を押さえた、

若者らしい、すばらしい質問であったと感激している。その意気を持って頑張ってもらえれば、すばらしい大人になって、社会のためになると思うので、期待している。

○田中(宏)委員長　　ほかにないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田中(宏)委員長　　ないようであるので、「県議会、県議会議員の活動」に関する審査は終結する。

次に、「福井を元気にするために」についてを議題とする。

高校生の各委員より、地域づくりや政治等に積極的に参加しながら、今後の福井県や、地元の地域をさらによいものとしていくために、アイデア等について、皆さんの御意見や、答弁役の議員への質問をお願いする。

なお、手元に昨年度のふくい高校生県議会で可決された「福井県を元気にするための決議」も配付しているので、参考にしてほしい。

議員から何か質問があるか。

○山本(正)議員　　今、私が県議会で取り組んでいる一番大きな課題が若者の県外流出であり、石川県と福井県を比べた場合に、大学の定員が石川県は全部で約6,000名、福井県は５大学全部で2,200名であり、石川県の約３分の１しかない。それから、皆さんも知っているとおり、県内の大学には薬学部、文学部及び法学部がないので、若者が県外に出ていってしまう。だから、知事や部長に対し、県内にない学部をつくってほしいとお願いしている。

それから、福井県で大学を出て就職して生涯暮らすことと、東京へ出て生涯暮らすことを比較した場合、県の調査では、生涯賃金が大体3,000万円違うとのことであり、福井県にいたほうが家１軒分ぐらいを得することになる。若者が福井県に帰られるようにするためには、企業も魅力的になる必要があるし、皆さんの中に本当に郷土を大事にしようという気持ちがなければならないと、そのようなことを知事や関係部長に非常に強く言っている。

福井県の若者の人口は、毎年約2,000名減少している。具体的には高校生のうち、2,800名ぐらいが県外の大学を受験して、福井県に戻ってくるのが600名から700名であり、毎年約2,000名の福井県の若者が都会に出て戻ってこない。皆さんの進路に影響することであり、いろいろな考えがあると思うので、このことの改善策について、皆さんの意見を聞きたい。

○田中(宏)委員長　　委員の中に３年生は６人おられる。皆さんの今後の進路も含めて、今のところどのように考えているか、聞かせてもらえるとありがたい。

○玉井委員　　まだはっきりとは考えていないが、私は社会科の教師を目指しているものの、県外の大学に行って、教師以外の職業も見て選んでいければよいと思っている。教師になるとすれば、自分の育った福井県で教えることが幸せだと思うけれども、普通の企業に就職するのであれば、県外のほうが魅力的だと感じている。

○清水委員　　私は県外の、地方創生関係の学部がある大学に進学して、また福井県に帰ってきて何かしたい。福井大学や福井県立大学には地方創生関係の学部で魅力的なものがなかったと思う。

○山本(正)議員　　地方創生といえば、今、県内大学では福井大学の教育学部に国際地域学部が新しく設置されたので、検討してもらえればよいと思う。

○松村委員　　私は、今のところ県外に出て、そのまま福井県には戻ってくるつもりはない。就職に関しても、大手企業の本社は関東地方に固まっているので、それを考えるとやはり県外に出たい。
　今、他県にアピールする活動が多いが、福井県出身の若者は他県に人気があるからといって福井県を選ぶことはないと思う。福井県にUターンしてくる人をふやすには、若者に福井県は楽しいところだと思わせるための活動をしていく必要があると思う。

○梶川委員　　私も教員を目指していて、福井大学に教育学部があるけれども、県外の大学の教育学部を受験しようと思っている。県外ではどういう教育をしているのかを見て、それを福井県に持ち帰って、福井県の教育の中で生かせる部分を生かしていきたい。ほかの仕事でも、県外に出て、県外ではどんなことをしているのかを見てきて、福井県に持ち帰る人がふえればよいと思う。

○今川委員　　私は、県外の大学に１回行き、また戻ってきて、自分の地元で仕事をしたい。私の周りでも福井県で仕事をすると言っている人が結構いるので、ほかのところはわからないが、これからまだ期待を持つことができると思う。

○小堀議員　　福井県は楽しいところだと思うか、それとも楽しくないところだと思うか。

○今川委員　　私は楽しいところだと思っているけれども、都会が好きな人もいれば、田舎を好きな人もいると思う。

○田中(宏)委員長　　今ほどの３年生の皆さんの意見を聞いて、２年生の皆さんは、あと１年くらいで同じような状況になると思うが、どうか。

○片山委員　　私も、今のところは県外の大学へ行こうと思っている。その理由として、情報工学を学びたいが、福井県の福井大学や福井工業大学にも情報工学を学ぶことができる学部はあるけれども、どうしても教授の人数が少なく、研究室の数が少ないことがある。あとは、県内では学んだ後の就職や、大学院に進むことが難しいので、それであれば、県外の大学に行って、県外の大企業に就職することが一番よい道かなと思ってしまう。

○池田委員　　私は、そもそも福井県出身ではなく、幼いころは名古屋市に住んでいて、転勤で引っ越してきた。自分のふるさとを一旦離れたときに、その場にいるとわからないよさがわかってくるものであるので、福井県の若者も、福井県を一旦出たときに、改めて福井県のよさがわかると思う。

○津々見委員　　私は経済学を学びたいと思っていて、福井県立大学でも経済学を学ぶことはできるけれども、福井県に残りたいとは余り思っていないので、県外の大学に行きたい。

○山本(正)議員　　本当の声を聞くことができてよかったと思っているし、ふるさとを思っている人

もいるので、ありがたい。

○石川議員　　若い皆さんの中には、県外に出て勉強して苦労して地元へ帰ってきたい人もいれば、そのまま都会に居座ってしまう人もいるかもしれないが、私はやはり、ふるさとほどよいところはないと思う。知らないまちで勉強するよりも、地元で勉強して、そして結婚してたくさんの子供を産んで、そして地元のために役立てば、福井県はさらによくなるので、皆さんの気持ちはよくわかるけれども、私はそういう心を持ってもらいたい。

○田中(宏)委員長　　このように皆さんに質問しながら、話を聞かせてもらうのも議員の仕事の一つである。我々も参考にしたいし、県や市町の政策に反映できることもあると思うので、高校生の感覚で遠慮なく発言してもらえればよいと思う。

私の娘も地元に帰ると言って県外に出たが、本当に帰ってくるのかは４年後にならなければわからない。皆さんの一度は県外へ出て見てみたいという思いはわかるので、県外でいろいろと見てきて、また福井県に帰ってきてほしい。

○池田委員　　アオッサがあるのに、なぜ、またハピリンをつくったのか。

○山本(正)議員　　福井市のまちづくりの計画は、県ではなく、福井市が主体となって進めており、金沢市のまちづくりは金沢市が主体である。ハピリンの屋根付き広場だけは県が補助しているが、まちづくりは福井市が主体となって、関係者の意見を聞きながら、うまく活性化できるように頑張っている。

福井市は、郊外の大和田地区にアピタやエルパなど、多くの店ができたが、一方で、小浜市も同様であるが、特に福井駅前の中心市街地はシャッター通りが結構あり、寂れた状態になっている。そこで、福井市が「コンパクトシティ」の構想として、10年から20年の計画を立てて、中心市街地をまとめて活性化させるための取り組みを始めている。

県もそれに協力して、駅前の地下駐車場を整備し、福井市は市の地下駐車場をつくり、まちづくり全体に県と市が協力しながら取り組んでいる。電車はコンパクトな形になり、駅前広場も県が応援しながら、福井市が中心になって整備している。

アオッサとハピリンの２つができた理由としては､アオッサは会議室や商業施設を入れて駅裏を中心に活性化する目的でつくられているが、さらに力を入れるため、駅前にさらに大きなハピリンをつくり、ホールや広場でイベントを継続的に実施している。その結果、ようやく郊外店に負けないくらいに観光客等がふえてきているので、よい方向に向かっていると思っている。電車などの交通機関が買い物客や皆さんにとって利便性の高いものになるなど、まとまった「コンパクトシティ」ができ上がるとよいと思う。

○石川議員　　アオッサは８階建てであり、８階の県民ホールは福井県が権利を持っており、残りの１階から７階までは福井市が管理している。

○小堀議員　　私が小浜市を巡回していると、ほかの地域にはないような小さい八百屋などがたくさん残っている。通常であれば、大きな郊外店に客足を奪われて、全部潰れているところあるが、

小浜市民は隣近所の人たちのコミュニティを大事にしていて、地元で買い物をする気質があるためと聞いている。
　いろいろな小さな店がそれぞれで頑張れば、小浜のまちも活性化すると思うが、意見を聞きたい。

○梶川委員　　小さな八百屋については、やはり年寄りが経営していて、将来、店を継ぐ人がいるのかについては疑問に思う。

○田中(敏)議員　　私の地元は鯖江市であり、余りそのようなコミュニティがないが、越前市の中でも旧武生市はコミュニティがしっかりしていて、地区ごとに魚屋があり、焼きサバを売るなどしている。小浜市や旧武生市のように、コミュニティがしっかり残っているところは割と住みやすいので、これからの地域としては、そのようなものも残しておいたほうがおもしろいと思う。
　これからは少子・高齢化が進み、だんだん年寄りばかりになるが、その中に若い人が帰ってきて活躍してもらえれば、よい働き場所があると思う。私の地元の地域でも、年寄りだけの家が何軒かあり、仕事の問題でなかなか難しいとは思うけれども、若い人が１人でも２人でも帰ってきて、地域を支えてくれればよいと思っている。
　それから、一度県外へ出てもよいと思う。ただし、地元に帰って、家族をつくり、きちんと働いてくれることで、福井県はもっとよくなると思っている。

○田中(宏)委員長　　福井市内の地域コミュニティはどうであろうか。私は、福井県子ども会育成連合会の顧問もしているけれども、福井市の役員から、子ども会になかなか入ってもらえないことがあるとの相談があった。皆さんは、それぞれの地域で子ども会に入っていたか。子供たち全員が入り、大人も一緒にかかわっていく、子ども会のような組織はそれぞれの地域にあったか。

〔「あった」との声あり〕

○山本(正)議員　　福井高校は私立の特色ある学校であるが、野球やサッカーなどの関係で、県外からどのくらいの生徒が来ているのか。
　また、ゴルフなどがあると思うが、今、特に福井高校で自慢できるスポーツは何か。

○松村委員　　野球は結構有名になってきているが、女子バレーも夏の大会で好成績をおさめている。あとは、男子のスポーツに思われがちであるが、女子サッカーや女子野球もあり、ほかの県からの入学者も結構多い。

○清水委員　　私はラグビー部に入っている。2015年のラグビーのワールドカップで日本がとても活躍し、2019年には日本でラグビーのワールドカップが開催され、東京オリンピックでも７人制ラグビーが正式競技となるなど、今、世界的にもラグビーの熱気が高まる中で、福井県のラグビーをもう少し盛り上げてほしい。
　県内では、高校のラグビー部は嶺南にしかないが、トップリーグの試合は嶺北にしか会場がないため嶺北で開催されている。私たちが見に行きたくても、遠くて見に行けない状況である。世界的なブームになっている割に、福井県はそれほどラグビーには興味がないように思う。もう少し盛り上げてくれれば、競技人口もふえると思っている。

○小堀議員　　ラグビーの専用球場があるとよいと思う。もっと早くから、そのようなニーズを働きかければよかったと思っている。それは議会の責任でもあり、県ラグビーフットボール協会の会長は同僚の力野議員であるので、これからもっと盛り上げられるように、一緒に頑張りたい。

○田中(敏)議員　　福井県でラグビー部がある高校は何校か。

○清水委員　　若狭高校、若狭東高校及び敦賀工業高校の３校である。

○山本(正)議員　　球場はサッカー場と兼務で両方使えるのではないか。

○清水委員　　サッカー場と兼務の球場だけであり、ラグビー専用の球場はない。

○山本(正)議員　　議会側で一度検討する必要がある。

○辻議員　　委員は嶺北と嶺南の高校の皆さんであり、嶺北と嶺南で互いに遠いと感じるか、それとも近いと感じるか。今、高速道路はつながっているし、将来的には新幹線でつながっていくため、県としては一体になっていく方向性ではある。
　一方で、嶺南と嶺北では言葉の違いがあり、今ほどのラグビーの試合会場が嶺南にはないなどの不満もあると思う。不満もあれば、それも含めて互いの印象を聞かせてほしい。

○玉井委員　　私は若狭町に住んでいて、滋賀県のほうが近いので、嶺北は遠くて県外のようなイメージがある。ただし、嶺南の高校生が嶺北の大学に進学したときの補助制度など、嶺北と嶺南をつなげる活動があることを最近知った。

○松村委員　　今、同じクラスに嶺南の人がいるが、話し方も関西弁であり、結構違うと感じる。時々、電車の乗りかえなどで敦賀市に行くことはあるが、それ以外の市町はほとんど行くことがない。

○石川議員　　小浜市の話し方は京都弁に近い。

○松村委員　　同じクラスにいる人は小浜市の人であるが、話し方も結構違うので、部活で大阪府や京都府から来ている人のような存在である。

○清水委員　　私たちにとっては、嶺北よりも竜王のアウトレットパークがある滋賀県や京都府、兵庫県のほうが交通の便もよく、実際に近くて、生まれたときからずっと身近に感じているので、嶺北に買い物に行くことはほとんどないと思う。

○片山委員　　私は自転車競技をしていて、サイクリングなどで結構走っている。私の家は福井市の中心部であるが、少し走ると大きい通りがあったり、大きい通りを避けて走っても今度は道が狭かったり、路面が悪かったりする。
　それで、交通まちづくり課の職員と話したことはあるが、サイクリングコースとしてブルーラインを道の横に引いてほしい。

○小堀議員　　私も自転車愛好者であり、山田副知事と一緒に、ことしも若狭路センチュリーライドでレインボーラインを上った。それで、山田副知事にもブルーラインを引くようにお願いしている。これからは、自転車が観光などいろいろな面で活用できると考えており、広域の自転車道路をつくってほしい。

○山本(正)議員　　国土交通省の仕事であるが、福井運動公園から永平寺まで、堤防沿いの自転車道

を走って行くことができるようになっている。嶺南にもあると思う。しかし、川の線形のために急に曲がったりするところもあるので、きれいに整備されるとよいと思っている。最近は50キロメートルぐらいのレースもあり、結構盛んになってきているので、なおさら、小堀議員が言ったように整備していく必要があり、また自転車は相当なスピードが出て危ないので、ブルーラインも引いていく必要があると思っている。

○津々見委員　　私は、少しだけスケートボードをしているが、最近、福井駅によくスケートボード禁止という看板が立っている。周りにもスケートボードをしている人が多いが、福井県にはスケートボードができる公園がない。最近、ふくい健康の森に小さな公園はできたけれども、スケートボードを安全に楽しむことができる場所をもっとつくってほしい。

○田中(宏)委員長　　県の健康福祉部が担当しているが、ふくい健康の森に新たな施設を整備するため、昨年度から検討しているところである。また、町なかの高架下など、いろいろなところに遊休地があると思うので、それらの場所を活用する方法を考えられないかと議会でも今提案している。

ただし、道路管理者やＪＲ、えちぜん鉄道など、関係機関ときちんと話をしていく必要がある。そこで問題が発生したときの対応や、誰が管理していくのかなどの問題もあるので、それらがきちんと整理できれば、できるだけ高校生や若者の皆さんに使ってもらえるよう進めていきたい。私の地元の高浜町でも若者から要望があるので、その準備を進めているところである。

○山本(正)議員　　福井市でも同様な要望がたくさん出されていて、福井市では堀川市議会議員が中心になり、しばらくの間、ハピリンの前に特設会場をつくっていたことがある。ただし、それは常設の会場ではない。やはり相当なスピードが出て危ないので、きちんと安全性を確保した対応が必要であり、また監視人も置く必要があると思う。

○田中(宏)委員長　　安全面では、きちんとした柵がある施設をつくればよいが、四六時中監視していることはできないので、誰が責任を持って管理するのかが一番の問題である。

○山本(正)議員　　施設を使用する人たちが自主管理できる方法が一番よいと思う。

○田中(宏)委員長　　ほかに発言はないか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○田中(宏)委員長　　ないようであるので、「福井を元気にするために」に関する審査を終結する。

これで、本日の審査は全て終了した。

委員会記録の作成については、委員会条例第27条の規定に準じ、私に一任願う。

閉会に当たり、一言挨拶申し上げる。

きょうは、朝早くから本会議及び委員会で委員には大変多くの意見をもらった。本日ここに同席した県議会議員一同、皆さんの意見を受けとめながら、今後の議会活動にしっかりと反映させていけるように努力していきたい。

また、この中ではもう18歳になり、有権者となった人、また間もなく有権者になる人もいる。自分の目をしっかりと養いながら、選挙ではそれぞれが議員を選んでもらいたい。

また、それぞれの立場でこの福井県をしっかりと背負っていける人材となるよう、これからも一所懸命、学校の勉強も含めて頑張ってもらえるように期待して、挨拶とさせてもらう。

以上で、平成29年度ふくい高校生県議会第４委員会を閉会する。

◆写真撮影◆

――――― 御協力いただいた皆様、ありがとうございました。